

是又衆智を集むるの万善を得るよえに故よいに

一 戌營の置處大抵海濱より二三十町隔て形勝の地ヲ擇ふへし都々其近邊海岸の人家ハ山手ヲ移し海濱ヲ無く不便ある處を上總國九十九里の如く納屋にして家財道具ハ本村ヲ置けし或ハ堡を戌營の後ヲ設けくまざるの時百姓を不殘堡に入せ士民擾亂の患を防ぐ且清野の便りヲ備ふへし

一 戌營を守り防禦ヲ備ふるハ武士を土着ヨモるよえにされとも我國を百姓稠密よし左様ハ土地なきゆえ無據定詰よし平日水戰を操練し武士皆水と馴るハ様よをへし

一 大諸侯の制内ニ係る處ハ其人へ命し戌營を備へしむへし小諸侯の封内或ハ小從所の分なれハ俄ニ封を移さんとせば人情よをとり且上下の困究よなるなれハ數家を合せく一營を守る處もあるべし

一 鎮營ハ大抵大鎮二三十万石小鎮十万石拾五万石位ニ軍役として守らし

むべし尤太平の習よく徒ニ雜兵を多く置く兵糧を費モハ無用の事也戦士計多く差置實用を求むへし采配持の草り竿持の挾箱持の合羽籠持のと事鄭重ニ成しハ太平の世の奢りより出ふる事よく古々曾々無き事也陣屋を掛るも小荷駄を附るも石垣を築くも古々皆武士也足輕の働し也何事も武士ハ無造作よく公家風よならぬ様よとを神君の御名言よく心得へき事也

一 大諸侯ハ平日一二手の大臣を大將とし教練せしむへし鎮營の高よく軍役を勤猶餘高あらハ其高ニ應し江戸の御役も勤むべし

一 小諸侯ハ幾軒も合せく守をハ今高皆其役ニ從ふべし代々ヨ自ら戌所ヨ至テ軍役を主るべし江戸の參勤ハ長崎兩家のことく隔年々始計たるべし

一 事有時ハ左右兩鎮ヨリ應接^{接カ}し外ハ在其鎮可被守^守狼^狼ニ動べらるに主鎮の勢よし敵し^敵るよき勢ならハ陸地の諸侯ヨ命して應接さ^接にべし

一諸鎮の内も長崎ハ表門松前ハ裏門浦賀ハ庭口のとし別て大切の場所
々々也去りし長崎ハ是迄二家の鎮威嚴重かれハ置く論せ

一松前ハ蝦夷ニ接し蝦夷ハ滿州魯西亞ニ接し近來ハ我北境分明なる蝦夷
千島の内も追々蠶食せられ候勢之由去あるニ武備の行届るさる一小藩
ニ任せ置あるニを憚なら餘り御手薄の様も覺ゆる也以前ハ箱館奉
行被差置候事もあるりなれとも是猶小身の人故權も軽く東北の諸侯を
指揮しく防ぎ候見込ても東北ハ土地も廣漠にして百里や百五十里ハ
隔てあるゆへそるニ人数を出しく應接せると中々不虞の備ハ間
ニ合ふ事よくハあし唯全御益御取立計の様よく御益ニならぬを忽ち止
ミよりその後を彼を追々島々へ人を植へ段々蠶食する勢此方ハ蝦夷を
虐使しく追々人別も減少する勢防禦の沙汰ハあしと申べし蝦夷ハ遠方
よく僻地なれハ廟堂も外國の様ニ見成し給ひ如此危畧なるハ去ら
ぬとも私手間處を以て去るハ左ニあらぬ彼地ニ外夷の地は、き同様に

と以前々其間極寒不毛の地多く隔絶せし處近來彼より追々人を植漸々
よく開くる勢なる由なれハ此上増長せハ我藩籬を失ふ至るへし藩籬を失
ひく盜の入を防ぐ事ハいとあるへし去ハ早く重鎮を設けしくハ
ならぬ勢也さく爰ニ重鎮を設けんとならハ松前のミよくハ米穀多人數
を養ふニ足らぬ文武ニ長せし諸侯を撰ひ南部の津輕の地を合せ加恩
を以て三十万位よしと^{移封の時加恩あらされハ僻}鎮成せしめ其權を專よし
仁惠を加えく蝦夷を存養し人を殖しく此方より開く勢も去ハ永く北顧
の憂なるへし

一浦賀を庭口の居間ニ近きとし緊要の場所なれと尤厚く備ふるし乍然
藤元の事故大名杯へ計御任せ置あるへき地もあるまし一体を旗本の
士を以て永く任せしめ堅く防戍を設け給ふて然るへきもや个様の緊要
の地を守らせ給ハまんハ旗下八万騎平日多分の祿を給ハリ養ひ置る
て何の御用ニ立く給ふるべきや旗下の士ハ縦情脆弱の輩多く防禦の御用

一立もの少あるへしと申ものも有るるかれ共是ハ決ぐ無き道理也是皆天下ヨ三河武士と呼ハれ忠勇節義誠一無二を以ぐ名を得し人々の子孫なるる唯太平久しき大都會の奢侈の中ヨ生長しく平生公儀風をきりせ高ぬる事のミ覺へく輕薄ヨ流せし故りく成行しあれとも

御先祖様三河ヨく士を養ひ給ひし如く廉耻節義を以教諭し給ハ、忠勇の士も忽ち多く出來く御用ヨ立ハ必然也何も諸藩の國持ヨ不及と申事のあるべきや前ヨも申せし如く外夷防禦の惣督立置を候ハ、天下鎮成の惣統此人ある事ハ申迄もなき事なるら浦賀を又別段の重鎮ヨして其副帥位ヨし十萬石以上の諸侯文武の材幹あるをゑらひ其格を尊くし其任を重くし旗本の士を司とて日月々々ヨ怠らば水戦を習ハしむべし若十萬石以上ヨ其材なく八萬石以上ヨ撰ひ足し高を以勤むべし歳ハ三十以上五十以下の任たるへし旗本の士も同様たるへし家ニをるハよろしむらば都々个様なる重任を家を以ぐ勤る時ハ幼年病身等ありく

陣代を出せ様ヨなきハ必武備ゆるむと知るへし

一鎮所ハ房總の内一ヶ所相模武藏の内一ヶ所何ヨも旗本の士常詰たるべし

一小事ハ賞罰とも獨斷大事も惣督の命を受くべし

一旗下の士を教ふるハ水戦火術のミならば軍略并諸武藝をも兼させ廉耻節義を以ぐ養ひ其内俊秀あらハ格別ヨ拔擢して其餘を勵し手當を厚ふして氣を屈せぬ様ヨ取扱ハ、外夷の備のミならば公邊の御威風自ら四方ヨ耀き諸侯も心服せざるヨ至るへし

一浦賀奉行長崎奉行ともヨ軍略の取圖をいゝあらん是をいよしへの唐の代なんととの監軍ヨひとしく掣肘せざる故大將の威光も落ち事ヨ臨て軍機を誤る事多りるべし大將の威光落るハ、公義の御威光落る也

一羽根田品川是又御城の外濠ヨひとしけれハ是も備あるべき事なれとも事永々せハ畧しぬ

一 猶そせよくも手薄くハ江戸在府の諸侯ヲ命し加成を心得させし
 一 總て苛細固滯を除き實用活機を主と爲るを要と爲べし組立候事少ハ
 愚説あせとも煩敷を恐む是を畧せ唯戦士多く雜兵少く郎等迄も主人
 ヲ從ひ戦士ヲ列せざる様ヲ勤弁あるべし

志既ニ定テ國是既ニ明らニ惣督其人を得ク廟堂鎮靜結構立ク鎮成其宜^{成カ}
 を盡したりとも是を處置する事其度ニ當らされハ手を下段の次第を失
 ひ營々しく功なきニ至るへし孟子梁惠王ニ説給ふも先義利の弁を詳ら
 べし國是を定め^{仁義ハ天下の公道ニして君たるの道を盡は云利者一}
 人の私ニて身分の手前計營を云事長なれハこゝに畧に^{其次ニ手}
 の下し様を説く民と樂を同ふはと申されたり如此手順の次第分明なら
 されハ聖賢有用の學と云ニ足らばゆえふ其次ニ處置の宜を論む

處置の宜論一

費用を省く財源を通はる事をいふ

石城湯池帶甲百万あり共粟無きハ守られぬ孫子も出師十万なれハ日ニ
 千金を費せと申たれハ防禦の備をせんとよを限なき費用入る事と知へ
 しされハらく天下困窮よく行届るは此困窮を復し費用を備んとな
 らハ先格外ニ省略を用ひ無用ニ財の出る穴を塞くをその無用の財の
 出る穴といふハ奢侈の事也世間奢侈追々増長果も世間の習と成く心付
 ても省略出來兼るに至る是奢侈の頂上と申るし奢侈此頂上に至しあら
 ば無類の大改革をし先其源を止めされハ中々此奢を改る事ハあはし扱
 其源ハ何そと申さハ天下の人を多く江戸中ニ集るはあり當時江戸の繁
 庶世界万国も無比類と申るし^{私幼年の頃文化丙寅芝高輪より出火淺草迄燒る}
^{十町ニ過に然る處其頃承りし武家屋敷寺院堂社を除て町家計二十七万余軒}此多人
^{といえり今其地を考ふるは江戸六分の一ニ及ハば人別多きこと推て知るべし}
 數を一ツニ集め四海の雜貨を不殘持込く新奇を競ひ美麗を炫し互ニ相
 きそふゆえ俗ニ云鰻鱺上りと成く思ハば其らに増長せる也諸大名諸藩

中も夫を見習ひ國に歸り其風を學ぶゆへ終り天下の奢となるなされ
ハ江戸へ人別多く集まる事修りの本たる事分明也先年御改革あらせら
れ候時爰は心付あらせしよや江戸人別の儀嚴重の令も下りしなれとも
少しも其效なくく止みぬ是を其本を製^{制カ}せにして其末を計制する故也總
く事を其本を除候得も其末ハ隨て減るもの也譬ハ一切の肉を庭中よ
置く蟻の集るを箒木よく掃きされハとく北を掃へハ南より來る右を拂
へハ左より來り中々拂ひ盡さるるきものよくハなし其一切の肉除き候
得ま一匹も集る事なし此道理なれハ其人の集る本を除るされハ人減す
る事ハ決くならはと知へし此人を減少するハ先年も仰出されありし事なれハ有
しき令下りて諸大名皆國本より部人足々輕
多く呼下りよし是彌江戸の人を増そなり
一江戸は多く人の集る源を婦女の多あり婦女の段々多くなるを諸藩も
定府を多くせると奥人追々手重よなるとあり美麗を好ハ婦女の常情
首飾調度衣服飲食に至る迄新奇流行杯とく元より制度の無きもの故段

々增長せるのミならは音曲游宴日々は新月々は新月して色々の物好
を盡し諸物の賣せる事水の流るゝよりもせみやあしと利潤も夥敷ゆ
る四方の商賈競ひく江戸は來り法外の大利を得るよ任せ又其金銀を輕
視しく分外の侈を極むるゆえ武家もまゝ其風推移り游興盛んなせハ四
方の無頼游水の徒其甘味を慕ひ控とひ來るゆへ人別も年を追て夥敷な
る事なり

一此大根元たる婦女を減せんとならハ都く事ハ遺近より始めはしくも人
心服せは行をあらし遺近とも他はあらす奥人の事也是迄諸侯改革儉約
を用ふるを見るよ奥向より手を下はと聞けハ必其事行届き奥向ハさし
置先外向の儉約をせると聞けハあらは其事成功なしされハ天下の大
改革も先これより手を下さハれハ根本除るさるのミあらは事もまゝ成
るさしえあし如何様省略せよと令しても大處へハ心附ぬ無識の婦女の
事なれハ唯迷惑なる事と計心得く表向の無據謹ミくも心の奢絶ち不申

候間少し手ゆるミ候得ず忽ち元は復さるよ至るよつと儉約も立ぬ也これその過ち省略其法を得ざるよあり其法といふをいふんとならハ費を省ち人を減さるふありとく人少よなれハ自然費用も省たる也夫も平常ならハ少々省くへきあれとも此大禍を免んとの大改革なれハ餘程思ひ切候處置よあらさきハ中々天下の耳目を一新しく風化の元を正はよ足らに人の病も少しの病を温補の劑よく淨むへきなれとも大傷寒よく危急よせまりたる時よ至りてハ大承氣湯よく腸胃を盪滌せされハ救ひかゝしと承る也今の時勢ハ乍恐危急の場合と申をし大劇劑を施よあらに徒よ因循姑息しくち且復あゝあるへし時世も違候間宮女三千放をく宮を出るといふ古の美談とさるとくならにとも一時は宮中の人數三分の二も不殘夫々よ厚く手當を賜ひ勝手よ身の片付いゝし候様命せられ宿元へ下け給ハ、天下是を聞く目を刮て聖徳を仰き太平を待ち候様可相成のミならに

上の御弓斷を察し下々奢既よ大半を改り申へき也女中計ハたとひいくら減しくも内人の事故事を手重よせされハ差支ゆる事ハなき也去るし是迄手重の仕來る癖よなり居る人よりいと、御手薄よくハさし支の何のゐのとも申へきなれとも奥向の事欠を天下の興廢よ換ゆへきよとらに決斷しく彼是迷惑杯申立るものあらハ直よ又其ものを暇を給ハると申位ならされハ宮腋の事ハ變し易ふしく行ハせよと

一今宮中三分の二を減し給ふともまよ昔よ比まれハ千万倍の事あるへし故老の咄よ承りしよ

神君様駿府よ被爲入候頃折々關東へ御鷹野よ被爲入千葉邊御泊り掛ケ入セ給ひし事あり其節七人衆と號しく古き御召仕ひの女中ありたり夫をのこらに召連を給ひしよし一寸承り候得ず御召仕の女中七人めし控をらるゝハ大造の様なきとも其頃の事を承れハ七人共皆乗掛馬よく御供し外よ女中ハ一人もなかりしよしりく高貴の女中御供をらるゝよ一

人も召仕の下女召控れられさるハ實ニ御質素と申へし今ハ百石取の陪臣の家内よりも个様ニ手輕ニハ參らす貧乏も其筈の事也且其頃千葉よく御用ひあらされらる御夜具とも今ニ大切ニ納めあるよし皆苗木綿おとそ又承るニ奥の伊達殿より年ニ苗木綿百反ツ、献上有しを本多佐州内々よく苗もめん國持衆より献上なれハ

上様ニハ好きものと思召女中衆御仕着せよなされ候間女中とも迷惑あり候故以來見合せ申さるへしと申されしよし是等よく當時奥向の質素人數の少き御美風推もあるへし此美風の御代御繁昌の根本なり今たとひ此通ならずとも此御美風ニ近き様ニ戻し給ハ、外夷を制する基のミならに御代の御永久爰ニあるべし

一奥を減まるハ儉約の第一なる事誰も云きたる事なれとも兎角行ハれさるハ大抵太平の人主ハ奥ニ計多く入らせられ内を好せらるゝよりしく女中の言行を安きゆへ也然るニ側ニ承り候得ハ

當上様ニハ乍恐奥向御游宴ハ餘り好せられさる御美德あらせられ候よし左それハ此御時節ハ於千載の一時とも申へし且奥向のやう成候ハ、權威も減し女謁賄賂の弊も止ミ士風も改メ武威盛なる基とも成へし一事をなして万善備るとハ个様の處を申成べし

一其次ニ諸向冗費を省くニあて冗費を省んとならハ先冗員を省くへし冗員多々れハ冗費多し是も是迄ニ仕癖よく箸の轉ひさる事も下手念を入く手数を費さ様ニハ人少よく事濟るさし然も是も上の思召より如何様も簡約なる事也且事簡易からされハ人材屈し氣節を失ひ唯疊さじりの好き様ニ相成候事を簡易にし束縛せされハ自ら氣節の士も多く相成候

近來年を追て追々物事鄭重ニ相成手數多し成ると云譯ハ私以前者年の頃去大名屋敷ニ罷在候番所ニ勤番ニ出し處御番所勤方置帳と云ものあり其帳享保以前ハ一年ニ美濃紙三十枚位ニ過き賣曆の頃及ひ厚さ二寸計と成寛政の末ニ至リ三寸計の帳二冊ニ至る私出しハ文化の末文政の始の頃なり其時ハ既ニ三冊及ひさり何と異事ニても有りと見れハ左様ニてハなし故如此手數多しハ既白土ニ落さの申位の事也夫ニ先例書の見合書のと二通も三通入る故如此手數多しハなる也かく手數多しなる故自然と少人數にては勤り兼る果何し字ニ迄書方きまり候間先例帳無てハ才士よても勤らに帳面さへ有ハ不才ニも勤り候故帳面計操り覺ゆるを功者ト申様成行間人材ハ屈する筈なり

一 冗員を省くと今迄の人を暇を賜はるべしと云ふをあらはに御勝手奥向御臺所等の人をへらし戦士へ廻し可然との事也冗員の省き方色々手段あるなれども事長なれハ畧す

一 上よりして内外の人を被滅候ハ、天下風をく省略せへきなれとも猶又御主殿親藩等不及申旗下の士に至る迄御沙汰あり此度外夷防禦の爲は此通御手前より御減省被成候間銘々其意を以致省略候様誠心を以諭し給ハ、何も難有奉存候て早々相減し是計よくも天下冗費の半を減せしべし

一 諸大名へハ別段右の御趣意を以御諭し都る奥方附士の無據分計残し置外ハ不殘勤番よいたし成たけ人少は被置候様よ命せられ平日の供廻も大概唯今迄の半減とし其外諸事手數のらぬ様よ物事簡易よして上より令せらるハ随分事濟むべし此事上より事を簡易よし給ハさレハ下より減省する事ハらとし如此なれハ御役と雖とも家中勤番よ差支なるるへし

一 此武備を立らる、間ハ大名三季献上其外時献上も不殘 御免あるべし

御配附届迄も相止候得ま冗費のミならは上下共手數を省き人少にて事濟へき也時候見舞と號し月々御役人等迄贈り物等費多きよし是等ハ猶更の事也

一 右ノ通諸大名江戸屋敷少人數に成らハ急御用よく武役等に仰付らるゝ事ハ成かさし乍然夫も前にも申せし浦賀の御固丈夫に備り旗本の士皆勝兵と成らハ前ニ被仰付らるゝ事も有まし々とも猶御手薄を恐れ候ま國持の内二人御譜代外様の内五六人相應の人數召連三年詰位ニ江戸護衛を命せられ可然乎

一 三大手杯ハ右の大名衆の内よく命せられしも可然外御門ハ御番頭ニ命せられ井組を以出してもよろしあるへく又品よ寄旗下の大身よ命せられてもよろしらん唯人數少よく小役人附届等の物入を不殘止く番所中間杯云無用のものを制せられハ小身よく勤る也

一 両山其外御坊等も譯もなく僧徒杯ニ附届物入多候由其外御固の類も同様也此類不殘嚴禁を下し制止せられ人數を減しく手數かゝらざる様命

せられハ大名の冗費を減するのミならに上も多少の費を省くなり

一國元ニ成所無之大名兩年續きニ在江戸在國をハ上下の費用を半分省く

へし大名の費用を省くも御備の第一也天下の諸侯困窮ニてハ武備修ら

されハ也是等の割合平均なる様定むべし爰ハ其大意を述る而巳○大名道中往來海路を用る事下ニ詳らなり

一寺院の事冗費の第一なれとも數千年以來人心も染ミ込居る事故今急

ニ禁強せんとせよ却人情ニ逆ふ事多あるべし先粗其制度を改め

政令ニ掛り合無之様をへし僧徒の政令ニ關るハ古今無き事也政令ニ關

係ならしむるハ他の方なし宗門改を監察ニ附し僧徒ハ唯墓守祈禱等

もの望とせる也又猥ニ僧ニ成る故人別多く成自ら不如法も成る也さ

れハ古之度牒を復し僧中ニ僧總を立僧ハ必也法を守ら給ハならぬ事ニ

して若不如法の僧あらハ直様還俗せしめ其寺を近所同宗の寺へ併せた

らハ寺院の數も追々減し僧もよく法を守る様ニなり猥ニ俗人をゆとり

そろ様成惡行相止人家大分の費を省くべし江戸ハ格別承り及ハね事ふれ共在々ニ至りてハ葬送ニ差がいり

布施の多少を争ひ難題申て多分の費かゝる類多し且一ヶ村ニ幾寺も有て普請等ニモ村方の煩ひ多き事なり

一 定式御祈禱御法事御布施其外迄都々御武備御届候迄を是迄の十分一た

るべしたとい御布施減少したり共僧徒の事故御祈禱を半分致すと申儀

も有るまじき問婦女輩彼是申とも宜敷申論し置へし

一 衣服の制度を立べし上下衣服の制無きハ金さへ有きも如何様ニ美服も

心次第也なる故町人下賤の者金ニ任せく美服を用ひ夫ニ付くハ士も餘

り見苦敷くハ威光も落る杯と申處より追々奢の風も長まるなれハ大名

ハ大名旗下ハ旗下平士ハ平士百姓ハ百姓町人ハ町人と定服を定置ハ上

下の分も明らかニ自然と法外の奢を止むべし

費用を省くの方猶多きをとも都々法を治を貴ひ宜を裁して用ニ適ま

るハ其人ニ存するなれハ是を略に

處置の宜論二

儲蓄を廣ふしく不虞に備ふる事を云

一天下の人を多く江戸に集めて四海の米穀を運漕しく是が食とて是數百萬の人を通ひ勤をさせく遠方より弁當を運ひ養ふも同し此弁當の道一旦差支ゆる時も數百万人皆飢ふ及ふへしいるも無用心なる事といふへし去るし前の婦女減少の策行ハるをハ自然に諸藩人別減するのミならぬ町人井游手の徒迄も江戸に利少なれば夫々四方に分散し諸侯の城下に移るる或も農に歸ればしさをハ先弁當食の三分一ハ減はへきなをとも此大都會の事故猶數百萬あるべし此辨當の通ひ路工夫なくてハあるへるらば唯是のミならぬ米價の權町人に落運漕皆商賈の手に出る故一旦凶荒に逢ひハ姦商其急に乗し或ハ糶を閉或ハ船を滯らせ直段を自在に上下し大利を射るゆへ途に大切の人命を誤るふ至る惡むべき事也且四方の國々荒飢の處ありても運漕便ならず儲蓄法なき故救ふ便なし是を救ふの術海運を便よし儲蓄を廣ふるふあり

一海運を便よするハ大艦を造るふ如くハあし大艦を作て大銃武器を備く諸侯參勤井代交カの士を數百人上に乗せく其下は米を備く運漕し又町人の上方へ送る雜貨も此通よせハ海上の患なく年々波濤に打込米貨もなく往來自由たるべし參勤交代計よてハ度數少なく差支ゆるならハ海濱成營より追々上乘しく運ぶ様よせハ大艦も乗熟しく兩便たるへし万

一遠方凶荒の地あり共みく海運自在ならハ其地方へ運ぶも自由あるへし

一儲蓄を廣ふるハ天下に常平倉を設く米價の權を上り收め豊年よま倉に貯へく餘り米價の下落せぬ様よし凶作に逢ハ豊作の積處を出しく米價の餘り上らぬ様よめる也是其大意よく委敷事ハ古人の説備りたるハこれを畧も其外儲蓄の仕方愚説もあるとも事瑣細に涉るハ是を録せぬ

一耕作ハ米穀の源に候處近來在々迄も奢侈游惰の風押移りて民皆本を棄く末に趨く様よ成故自ら米穀出來少く豊作といへとも米價格別減せ

既少し凶作なれハ忽ち騰貴するも至る是米の出来少き證據也 近頃中汲といふものや且餅菓子等多く穀を漬に事も以前より増える故もあるべし

一ちく民の末は越くハ奢侈の故とハ申なら又諸侯并旗下の士共困窮し
く用金等多く入り暮しりぬ故自然と金錢をめる者少く少し小才覺ある
ものハ商賈を始るものも多し是皆暴領苛政の禁なく人姓不取扱の罰な
き故也

御先祖様御治世ハ往々百姓不取扱領分治らばとく家斷滅せし人もあ
るよし承せし民心を天下命脈のあゝる處大切の事也

一平日游興にぬき身の上より切武備ハ武家の職分たる事を忘す少しの備
もなく世間騒々敷く至せさせん方なく急く百姓を命しく用金を出さし
む是ハ武備なれハ當前杯は權柄を申付る類も多き由心得違也鎌倉將軍
より一反は五升の軍役をのぞく取る事なれハ平日物成よく軍役ハ備へ
置かばならぬ筈也是等迄も制しく豊業しく利ある様ならハ自ら民も

耕作を務く米穀も多く作り出ばし是等をよく心得く活用し海運自在
よく儲蓄廣くんハ如何なる虞の事有とも差支ゆる事無るへく唯江戸の
ミならは諸國も凶年飢歳の患を免るべし

處置の宜論三

人材を育しく使令を備ふべき事をいふ

何をの世よる材ならんその材を成ば
上の養ひ方よる也養ひ方其方を得ば能も不能も拾把一りらき取扱
ふゆえ材士ハ却て抗立なるもの故世に入をらるる俗人ハ抑折せら
れ一生埋れものよなるも至る後生是よりこりく自芒角を收めく便佞を事
とし世に入らるるを求むる風長し老儒先生迄も學文もせ給ハならは世
を渡る事も覺へ給ハならぬ杯門人ハ教授せらるる類もなるよし如此な
る風俗ゆへ个様の御大事出来臨みくハ皆尻込をかし一寸遊を大害

を知りながら交易をなすめ奉る様ある不忠不義のもの計多きに至る風俗の大弊恐るべき事也

一上是を好むものあれハ下必甚敷ものある習ひあれハ上節義を貴ひ給へハ下節義も身を捨上材武を賞し給へハ下材武も傑出せるもの出つ上方畧の士を求め給へハ下方略も長せるもの多く出つべし古へ三河にて士風を振ひ節義廉耻を勵し給ひたれハ士皆節義廉耻を重し忠勇の士多く出しよく見るへし今もても三河の如く士を養ひ其上よく異材異能の士を拔擢しく其他をまゝ給ハ、俊才輩出にへし平日も養ハせしく猥りも其人あしとハ云へあらず

一俊傑秀才異能の士ハ天の蓄て時の用も供し給ふ處也是を用く其財を盡さしめ給ふハ人君の天工も代り給ふ職分天職を廢し天功を空くし俊傑を用ひ給ハばハ天空是を悦ひ給ハんや恐るべき事也ゆえ古の賢君必俊傑あせハ心盡しく養ひ心を盡しく引上ケ給え

處置の宜論四

利器を制しく膽を盛よまへき事をいふ

守るの術ハ攻るよ生を敵の攻方違ひあせハ我り防方もまゝその手段を異よまへし我防く方異なれハ用ゆる處の器械も亦異なるへし且水陸其法を異よせるなれハ軍とさへいへといつよくも長柄弓鉄砲説カを組く進む計大筒といつよくも臺よまへく打物とせるも杓子定木と云へし況くや今の軍學杯云ものハ恐くハ戰國の法よあらば大抵不學無識の族も我朝の古戦記杯を少し讀西土の威南塘俞大猷等の操練杯と申事を聞取法文よしと大概も想像しく作て出せしもの多あるへし從來西土の兵と云ものとは皇國の兵と云ものハ拔羣の違ひあるものと云處ハ心付す組立し故足輕を遣ふよまよ強しゆと士を遣ふよハ不都合の事多し近頃御番衆の調練の様子を承りしよ其主人銘々槍或ハ鉄炮を以て隊伍よ立進退せら

れ候事の由夫よくハ高並の軍役よく供人や旗杯連られ候も伍間よこ
さくと差置事ハ成まじき故定て朋勢へ加へさし置事と思はる夫よく
も戦士と主人計よく高並の軍役をさる甲斐ハなりるへし千石取も百
石取も同じ譯よく高祿被遣候ハ無用のもの也唯無用のミなら高取は
と朋勢多く無用の人ハ兵糧を費し勝敗の爲ハ一ツも益なし是西土の
兵と我國の武士と模様違ひたる處へ心付ぬ故なぞされハとく西洋の隊
伍を學び西洋の操練をなげハ前よく申せし如く是又我

皇國の美風失ふのミならに我武士の体よく矢張合ぬ教也是も皆國体の
違ふ故也万次郎の咄も亞美理加國よくハ宰相繼統の如き高官よくも
平日供人一人より外も連をばと申せし由是町人の体裁よく我國とハ事
体殊の外違ふと知へし事体違へハ軍立も違ハふハ成らばと知るべきよ
夫を差別もなく猥も彼の真似をさるハ無識といふべし

一國体よ應し古の美風をも失ハば彼の攻るよ就く此の防禦の陣法を製せ

るハ衆智を集めて活機英傑才略の士と講究しく我

皇國の大軍法を立らるよよえに此軍法既よ立ち彼の攻るよよつと此
の防禦の術を定め給ハ、器械も又夫よ準して制にべし彼と同一の道具
を作るよハ及ハば初め鉄炮渡りし時防くよ難く近付事能ハさりしりハ
甲州の士米倉の竹把を作て是を防きよとそ是外國よ倣ハば鉄炮よ倣
ひて防く道具を工夫せし也古人の活機達才りくのとく衆智を集め給ハ
、米倉の如きものいくらも出べし

一我防禦の術よ依る器械を制にべしと申なら大艦大銃よ至ても實
ニ天下の利器人の長を探る我長を増えハ智者の事なれハよく彼よ倣ひ
く多く作り出せへし轉化しく我士風よ叶ふ様よ用ゆをハ元ハ外國よ造
て出しても實ハ我もの也我古へより傳ふところの銃も矢張彼より渡り
しものなれハ昔流を守るよも不及彼ハ追々實地よ用ひく工夫せし間後
やと便利よ成たる筈也されハ今の製造よ倣ふをよしとに唯是のミよ限

らに彼りいまさ及ハさる處迄も工夫をへし且我軍法を講究するも大艦大銃ハ必用ゆる様ニ組立べし此利器なるとハ人膽自らおくれを生むるゆへなり

一鉄炮を用ゆるハ一ツの心得ある也清の表柱芳が説く兵を火器を以て強く又火器を以て弱し全く是を待めハ出奇制勝の方先發人を制するの策反く之によつて消失せ一度打損れハ心臆しく忽ち逃散るに至るとそ尤の事也將さるもの爰を能心得て鎗刀ハ我國の利器直入を我國の長技なれハ此兩様を失ハぬ様鉄炮を習ひ候ものも必此兩長を心掛させて心膽を勇武ニそへき也近來臆病の輩我長處を忘る外國ニ倣ひ遠方より打鉄炮計習ふとの多きを弊風と云へし

一甲冑の類も是迄の製作ハ我國同士の戦の爲あり外國を防くよ又其便利あるべし之をし双刀を捨て縫くるみを着し外國の扮を學ぶハ無耻ニ至

皇國の美風を失ひ 上へ對し恐多き例なれハ決して禁制すへき事也
一船戦火攻ニ如くものなし唯大銃を多く制せへきのミならに彼りいまさ
えらさる火器火矢其外焼打の道具を多く新工夫を廻らし幾通も拵彼り
不意ニ出く打破る事肝要なり鉄砲の類ハ皆彼ニ倣ハさるハならぬと思
ふハ愚り也彼ニ熟せし攻具ハ彼亦是を防く器も心得あるへしされハ彼
の意外ニ出されハ奇功もあるべし

一大艦も多く造るニ如るに從來防禦の要ハよく敵を致しく敵ニ致されに
清野の術を用て陸地へ引揚敵の長を失ハせ疾雷耳を掩ハさるの勢ニ乘
しく我長技を施せあるべし百里の内を守んとからハ百里の外ニ
のひる勢無ても戦ふ事もあるべし追打をせ給ハあらぬ時もあるべしま
して浦賀ハ江戸へ闖入する虎口故是非大艦よく欄遮をされハ防ぎある
べし

一水戦を講究するも大艦計ニま限るるならに小船も堅固の船多くを備

く操練せし是等ハ諸成營皆同様也

一火輪船も作るへし是のし火輪船ハ必直遂ニ駛せ、便よし折還自在ハ軍船より及ふましむをハ戰の便不便ハいゝ、あらん去せとも奔馳迅速なれハ應接^{援カ}急報の爲ニハ軍上なるへし

一大艦火輪船等出來たらハ水戰操練ニ用ふるハ勿論又前も申せし如く廻米の權を上へ收め此船を以參勤歸邑の諸侯或ハ成營の兵士を載せく平日ニ用ひハ大名ハ路費を省き海運自在よし人々飢を免を戰備あれハ海盜の患もなく堅固なれハ風波の難もなく何方ニ凶荒あり共濟救も行届き諸事ニ利ある事りくのとく是必も制せへきの器也近頃交易を斷たらハ海運を妨げらるへしと云ものなれとも此備あれハ此心配ニハ及ぬ事と知へし

一道路の言ニ承り候得ハ富津隱を洲被埋立るの海中へ臺場増築せらる、本牧^上上総へ鉄鎖を張らる、江戸海中ニ柵を振異船闖入を防る、

杯其外種々風説も多し是等も皆形勢を不弁小兒の見と申へしいゝんとかれハ富津の洲ハ潮より内外へ動候よし是ハ定く内外の海の潮界よりやあるらん若潮界ならハ堅く築立てる内外の潮何を盛ある時必破るべし夫のミあらに江戸海水もき悪敷成水災を被る所多く本所杯ハ一旦大風雨ニ逢ハ住居あるへし海中の臺場築立らるる逆我ニ堅牢の大船もなく徒ニ大銃を海中ニ被置候ハ應接^{援カ}する事能ハす忽ち利器を敵ニ奪ハれく敵の用と成へし本牧と上総とハ三里も隔て居る由三里の鉄鎖張詰ニ致置候ハ我船通用一切不相成事ニ臨ミシヤチより巻引張候積ならハ三里の鉄鎖中たるミテ中々上るものよりかき大抵輕き繩を張候ても見るべし百間もあれハ最早一文字ニ張る事ハ出來に二百間も及ひ候々中ハ必地をまて候ものあり柵を振されハとて水足深き處ならハ彼の大船より乗掛らせてハ保つべきや淺處より彼り大船より乗掛らるべき所ならハ柵無くとも入るべらに是等ハ皆徒ニ物を費は

愚論と申へし隠を洲埋立ハ八十万両もかゝる由承り候得ま其物入を以て堅牢の大艦を作らせられ候ハ、大艦幾艘も出来く防禦の實用無此上事さるべし且右之通色々拵候座あるら防可申与存候ハ皆臆病の了簡大艦を作り決戦して防可申与志を定め候ハ心膽を盛よもる也心膽盛ならましく敵を制する事を決しく得るさき事と知べし

一大艦を造るを是迄嚴禁せられしハ此方より外國への通路を生し内證交易せらるゝと右よ付るハ邪宗門傳染せん事を慮り給ふ事成るやれとも前にも申せし如く大艦ハ皆上の物と諸鎮營の備へ計よして運漕の權を上よ收め往來共武士を上乗させ給ハ、外國交通の患なるるへき間何も

祖法を崩すと云よも無用よ成商人よ武器を用ゆるを許し候も大弊の本さるへし故ふ商人持よまると云ハ癖事なるへし

商人持よせ候とも運漕上乘しく軍役よしく前々貨物を運上を取りをば

無貨よく海運し給ハんと諭し給ハ、商人喜て金を出し艦を作るへし貨物難船の患なく無貨よて江戸迄廻らハ實ふ商人も大利よく其恩澤を蒙る事也亦

上よハ何も夫を以海運まると餘計よく全防禦の爲なれハ海運少々物ありたて共大艦の金よ利分を出しく海防を備ふと見く濟む事也

處置の宜論五

文武合並の大學校を開く事をいふ

實用を講究し實材を拵出にハ學校よあらされハ得るさし宋の陳同甫文武の道を論く文武の道も一也後世分ツて二とかし文士鉛槧を專よし武夫劍楯を事とし彼此相笑く相勝事を求む天下無事なれハ文士勝ち事有よ至ても武夫勝去なら真の文ハ鉛槧よあらば處事の才あるを真文とい、真の武も劍楯よあらば敵を料るの智あるを真武と申はかれハ才と

智を一として文武二ツよまへきものふあらはと申候えられハ文武合並の大學校を開くも此才智を琢磨させ人ハ實用を志させ申べき爲也

一方畧武技其外諸科を設けて人材を試ミ異材異能の士ハ將卒ニ任へ候の絶域ニ使するきのと申見込を付く格別の拔擢をかし給ハハ人材追々出来まべし一人扶拾しく百夫善射ると申て一人異材出まハ夫ニ付て外の者迄皆諸事上達するもの故異材を育ける事尤肝要と知るべし

此組立等之儀委くハ一言の盡は處ニあらは是ハ唯其大意をいふのみ
一此學校唯江戸のミニ限らば諸國成營有之所ハ皆これを設お不殘大總督の支配と年々人を遣し勤怠を試ミ賞罰を施し拔群のものハ擧ぐ江戸の學校へ出し猶亦教習又試みく少し勝るハ本國へ歸し相應ニ拔擢致候様命せらる格別のものハ
上の御用ニ召出さるべし

一たとい材武ニ長し候共忠孝節義の何物あるを弁へ知らぬ様よて也

君父を次よし材武却る害を成は至るへし故ニ武人といえとも不殘書を讀人倫を明るよし廉耻を厚ふし華夷の分を知り異教ニ迷ハさる様教ふへし 此學校武人を教ゆる事を専らとし申は也道學者杯教法逆さまとら淺きと申論有べし乍然實用を主とするハ淺き處ニ妙用あり空理計談候腐儒の不及也事

一學問ニ門戸を分ち候ハ政治の大害也實用を專にし各其長を處を取
く我と趣を異まするものを排する事ハ堅く戒むへし武人ハ偏直多き故
此弊一たひ生まれハ必偏黨を生し末ハ夫の廟堂迄も移り互ニ相排し
他流のものハ善有之も用ひさるニ至り遂ニ騒動を生ける事多し宋の諸
君子學流を主張しく黨を分ち互ニ相攻撃しく國の存亡ハ度外ニ置く己
の學を張んとせらるハ内いつる夷ニ國を奪ハるハ至り門戸をとおそ
ろしき事ハ無き也戒むるべき事ふあらずや

當務の急論一

書簡受取方并返答致方をいふ

處置の宜五ヶ條よく財源通し儲蓄足り人材をみく器用利あて學校修りく人材を出はの本願を共當務の急を得されハ遠水近火を救ハに盜を見掛く繩をかふの鄙諺のとく事の用立るは是迄論まる處一体永久の防禦の術をい、當務の急に至りくも唯今浦賀へ來候亞美利加使船取扱の儀は付く申へし乍然前の通の見込よく決斷せされハ此策行ひるはし前の策用ひらきは此策計用ひても根本を失ふ也此當務の策を用く急場を處置し前策を用ひく永久を謀るを要とに

一先んすれハ人を制する事あて始終彼より先をあらられて受太刀よなるハ不覺と申へし先達て使節船渡來の節御禁制の場迄理不盡よ乗込我を恐嚇せしこく彼をおとせも此方よく直よ恐を立騒くハ小兒の鬼面を被りたるを見れハ口つと泣出候と同事よく小兒を恐るハ故おとさるハと不心付泣出候也されハ彼をおとせよくハかく我をおとさる也と知へし

若彼りたる所よよつて一等位ハ上へ出く此方ハ先を掛る時ハ彼決く横暴をまゐる事ハあるべらに其先の掛方ハいゝとならハ彼ハ江戸海へ乗込候を此方よく恐るべしと思ひ侮て大艦大銃の利なるを頼ミくの仕方あれハ此方ハ其上を出く江戸へ入くも恐れざる事を示し大艦大銃の頼ミよあらぬ様よ取扱ふへし扱此兩様の取扱方ハ外ならず此方より案内船を出し應對の上よく返書も可相渡間江戸海へ入申へしと品川沖よく近く彼り船の自由のきぬ處迄引入へし是先彼の江戸へ入るを恐るハと見込し上へ一差出る也其上よく品川り高輪あさり都合宜敷處よ上り場を設け何百人たり共彼り望よ任せく大銃よくも劔付鉄炮よても拔劔指揮まるとも勝手次第るべし我ハ此方國法を以取扱候と兼く申渡置壯武の士を撰ひ拔身の槍拔身の刀を持せく百人位ツ、代々よ組合せ揚り場より人々ハ垣を結ふさる如く見物人ハ兩側を打守セ猥よ動ハ今よも切ららんとの勢を見せく受取場ハ上野中堂を用ひ三里計も白刃の

中を静々と引廻し前より大銃を車に備く白刃を持し人数を用く前後の押とし太鼓より人数を押し町々ハ鐘をならして至る先を傳へ中堂に至らハ山門内外階下より至る迄切火繩より立派に物具させ陣を取せ前々好營の事故彼り兵士堂に登るを許さそ若心得違猥より上るふおろくハ我軍法を用く是を制し候間心得違無き様と申聞せ置軍法如何と申ハ直より切捨ると答ふべし槍刀共鞘より納め手の利する武勇の士を五六百人椽頼より扣させ前より五六人の壯士を用て彼の使を挾く案内し御名代并應接役人ハ威望有之人を擇ひ衣冠より堂々として御出席随分丁寧より御取扱威惠共より相見候様致し其上より御返翰を給はり日本風の御料理被下歸りも同様上り場迄送て可申候是り彼の頼みとせる大艦大銃を制する術とぞ申也御人数三里が間出そよハハ裏道より操出しよすべし唯物音騒々數からざる様すべし

一是通よりして若狼藉より及ひ候え直様切捨るとも我より備有事を察し彼の大艦大銃を離ての事ならハ決して手出しをせまし

一右の通ならハ如何様共決る上陸の内ハ手ハ動はましまし彼ら船より歸り候上ハ如何ある乱妨を仕出んもその望たしされハ此方より高輪芝の海岸大銃を備く其戦備あるへし乍然此方も予らへ度々當りさらハ容易より手を動は事ハ有まし

一應對の人威望ありて粗暴ならは卒より應ずる機智あるものを撰ひ用ふべし先年魯西亞人長崎へ來りし時出立の節大銃を打出帆せるを元給ひし處蘭人銃を放ち出帆致候より付魯西亞難問より及ひたりをハ奉行肥田豊後守殿答より蘭人ハ商人下賤の者ゆえ如何様とも差掛不申魯西亞人ハ大國の使節故其振合より取扱ひ候ての事也若自ら卑賤の商人より比し候心得ならハ勝手次第よりと申せしりハ詞かくして去ぬとぞ辞令の妙古人も耻はれと申へし外國人を取扱候よりハ此活機の一忌あるをあらはし御返答文言の義ハ彼の文体の無禮なる處多きハ全文事いまま開きさるよよる處多しゆえよ夫よりハ頓着せは此方よりハ當前の禮義を盡はをよし

と況且文体ハ通例此方にて用ゆる和文とるへしまゝハ別ニ漢字譯文を副るも可也

一 文体ハ衆議の上討論潤飾しく詞令の宜を得く彼の心を服するを要と況べし先試ニ草創しく大旨を述る事左のおとし御の字我にてハ常用なれ共外國よてハ至て重き事故成とけ除き無據處計り用ふ

遠方の處態々使節被差越厚意忝き事候彌御安全珍重の事ニ候書中被申越候和交通商之儀篤与致熟慮候處俗と地ニ因く異ニ政と俗ニ因く殊なる儀四海古今の通義ニ候然る處貴國と土地も廣大ニして土産銀其外諸物も夥敷人巧も被盡候て奇品も多く出来候由其上是迄外國通商手廣ニ被致候儀故被仰遣候儀尤ニ覺候自國の儀と疆域廣らば産物も自國の用を足し自國の民を養ひ候迄の外と無之人民も古へハ耕作を勤め候而已にて技巧ニ心を用ひざる風俗故外國の求ニ應し候様成奇品も出来不致候間祖宗も右の土地風俗ニ從ひ質素を守り自國

の品にて自國の用を足し自國の民を養ひ候政体立置候事ニ候遠物多く相成候得ハ自ら人民の奢を開き政体ニ差支ゆる故深慮有之外國通商一切禁絶致置候儀候是全く土地ニよりての風俗風俗ニよりての政よく如此無之とる國体立難き故也各風俗ニ隨ひ國体を立く其國民を養ひ候ハ國主とるもの、職分貴國逆も同様の儀たるへし依之先年魯西亞英吉利國々も使節差越通商申入候得共右の趣意ニ候間悉及斷候今貴國与致通商候と國体を壞す祖宗の深慮ニ背き兩國の信を失ひ候事ニ成行候民の主としく此上不義を犯し候あハ天下ニ立るゝく候貴國ニおゐても此不義の行あるハ惡ミ思ハるゝ事と存候間無據望ニ應し兼候

石炭の儀遠方へ通船致され候付多く入用の事故被差支候趣氣の毒ニ存候乍然此品本國よくと鹽燒候もの稀ニ相用候而已外ニ採用不致候間至る少く別段爲採候よと民力を費し耕作を妨げ政体ニ差支候間是

亦無據及斷候

難船漂民保護の儀致承知候民命ハ貴國のミに限らば四海万國の重なる處ハ付分明ニ難民と見請候之決る飲食等の差支無之様手當の上長崎へ差送テ阿蘭陀船へ相托し差戻候儀之是逆も右の通候間別段受取船被差越メ及ヒ不申候乍然外國船岸へ寄候得ハ打拂候義是亦祖法ノ候間難船共不相分岸近く乗寄候之時ニ寄打拂候儀も可有之候鯨獵船も同様の事ニ候間於貴國も猥ニ近寄不申様兼々申付給り候様致度候不仁の取扱致候之國法ノくも嚴禁候間決る無之候得共万一此等の儀有之候之全く漂民も不存事ニるべく候間其段之勘弁可給候奇品種々贈り給り忝存候不珍候得共自國常用の品何々答禮の之るし迄ニ致進入候態々使節被差越候處及斷之無據次第不惡聞取可給候不備

一石炭先方差支与申候を無下ニ斷候を如何と思ハれ又一説あり左の如し石炭ハ遠方通船ニ付被差支候趣氣の毒ニ存候乍然自國ニ之燒鹽の外

一切採用不存候間採方不巧者ニて多く無之候依之俄ニ頼ミニ任セ兼候間四五年も爲採候而相試ミ彌多く出候之其節ハ通商之不致候共微物之儀ニ付頼ニ任セ可申其節ニ至り多く無之候之可及斷候間左様心得可給候

一詞命の義ハ大切の者故先方より差越候書翰ハ衆評を經候と相見いりも其言を以誘へとる手段行届候得共彼理の差出候書ハ一人の存付ニ外ニ大軍船あると云過言を認候計ニて我人心を憤らせ耻を知るものハ義理も從ヒ兼候様相成候乍然彼理の失言ハ却て我大幸与覺ゆる也

當務の急論二

戰畧を論及

平日防禦の術ハ前の戰備ありくの後の戦ひ也當務の急の戦をいまニ備へ無き時不意ニ起る戦也先此意を知讀ん事を要之しその兵機ニ至

りぐる平日防禦を通ずる事もあるへし
 一通商を断候迎前篇の主意ならハ彼も申るべき様もあるまじきかれハ先一
 旦ハ引取ケ何リ又言草を拵ケ來るへし迄ハし猶豫不虞ハ軍の善政と申
 になれハ万々一不意の事彼よ起るとき是ハ應るの策なれハ必に
 跌クへし故ハ急度戦ハ及ふ積ム覺悟必死を極メク防禦の方を設け置
 へし

一洲を築土手を築鉄鎖を張等の説皆前ハ論せしとク用ゆるらハ是
 ヲハ限らハ都々左様の手重の普請ハ無用の財を費ハのミならハ迎も今
 方間ハ逢るハし且人々万一ハと夫をと頼ミ敵愾の心專一ならハ臆病氣
 を生シ成功ハ決てなるへし

一事爰ハ至らハ是迄備なきなれハ既往を咎めても間ハ逢譯ハあらハ乘
 力を一ハしく必死を極めて手詰の戦をさす外ハなし扱その乗力を一
 ハし必死を極めしむる一術ア重賞を掛ケ死士を募る也重賞を掛て死

士を募るハ其賞重あらされハ人心勇ミ少し因ケ今ハ天下ハ觸れケ貴賤
 一ハらハらハ方畧を以敵船一艘奪取ハ即時ハ一万石封ハへし敵船ハ燒
 打の火器投入候者幾百金敵船を燒たらハ何千石杯と申様ハ書付を以ケ
 觸れらしめ万一及戰死候ハ父母妻子一生不自由無キ様養ヒ子孫長ク御
 家人ハ可召仕杯申様ハ屹度命せられハ天下の廣キ義勇の士三千や五
 千ハ募ニ應て出へし丈を集メク必死を極メる忠勇の人を大將とし方畧
 を授ケク小船ヨク戦ハしむへし水戦ハ大艦を用ゆるハ利アリ夫ハ堅牢の
 大艦ヨラされハ益アリ今ハ脆キ大艦ヨテハ一
 炮ヨテ忽破ルハ故大勢ハ一時損するハ至るベシ小船ナレハトて一
 時ハ十艘モ破ルハ云事ハ無キルヘシ故ハ小船を用ふヘシト云ナリ

一戦ハ火攻を第一トハ思ヒケハ手分けさせ色々の燒打の手立を廻ら
 さしめ又敵船へ早く乗移リ短兵ハ切まくる方畧を廻らさハへし或ハ丈
 夫ハ筏を組ケ大砲を載せ遠方ハ打セケ其勢を助くるし又玉除けの工夫
 も廻らし銘々腰ハ浮キ袋瓢の類を附ケ水練を去らぬものも溺せぬ様ハ
 毛へし諸道具ハ銘々思ヒケハ得道具又新工夫を用ひさせ同志のもの

ハ勝手次第第十人も二十人も申合せく働くも許はへし銘々働を第一よし
く必死の士は軍令はいらぬ也唯逆を歸る臆病者ハ斬ると令し法令煩碎
なれハ人膽盛ならぬ故に事ハ簡易よし鼓舞し勇武振ハしむるを要と
は色々巧を用ひ十全の勝を望めハ却る敗を速^{速カ}を取るふ至る兵を抽束^{速カ}を貴
ふとハ是等もや

一此戦先十り七八ハ勝利たるへしえりし万一此手破ハ敵も陸ふ上るへし
其時ハ眞武の大名五六頭を撰ひ陸地ハ隔へさせ岸ハ戰場を殘し敵を致
して敵ふ致さざる方畧を廻らし戦を要とは此陸戦必死を極し上地戦
の事なれハ雜兵ハ不殘省き戦士を多くし大小銃を用ゆるとも極意ハ短
兵接戦の心得ざるへきかれとも戦ハ銘々の方畧ふよるなれハ上を授る
ハあし、唯退避の律ハ嚴重たるべし

一總督ハ 御名代として出馬せられ軍機を指揮し勇怯を糺し給ふへし
右其大意よく戦も危事易くこれを申はに馬服の敗を取ゆるん且方畧ハ

其人は存せる事故大意計を述べ其餘ハ畧しは^後

右十一篇惣論四篇を以大勢を立處置の宜五篇を以手を下はの次第を論
は初は次第を追く是を翫味せも天下海防の術思ひ半は過ん其後當務の
急論を以く危急は應せハ天下の大禍を免るゝ事あるべし何を交易通商
と云や

外夷の凌辱を聞き螻蟻の微を忘まぐ竊は

皇國の御爲は感憤の意勝へは筆を執りたる故詞激烈は過く不敬は也
る處多し然れとも畢竟國を憂ふるの微忠は出るなれハ見ゆるし給え
と申は

嘉永六年癸丑秋七月起草 藤森恭助神大雅誌

鈴木大雜集三十六

六百二十四

海防奉策

嘉永癸丑
鈴木大

共八册

海防奉策十一

元長崎町年寄

四郎大夫事

高島喜平

鈴木大維集三十六

六百二十五

乍恐謹る奉申上候去ル卯年中度々異國船渡來仕専ら交易筋奉願當年も
亞米利加魯西亞浦賀長崎に渡來仕何れも交易奉願候風説に御座候處乍
恐公邊に淺被爲^{在脱カ}御憂慮候御儀奉恐入候然ル所御臺場御築立御筒
御鑄立等を始先海岸防禦筋御掛被爲蒙仰候段と誠ニ冥加被爲叶候儀に
て乍恐被爲盡御誠忠候と此時に可有御座儀と奉存候隨一失之非一國
之存亡ニ係候とも可申哉實ニ御大事と奉存候右に付てハ微賤之私愚見
奉申上候ハ身に過分恐入候仕合殊更多年幽蟄中只々恐入相愼候外世間
之事情當時之形勢も不相弁義に付御神策之御模様御内慮奉伺度候得共
御機密之筋御漏し無之儀と勿論顯然仕且奉伺候義も奉恐入候間差扣可
申筈ニ御坐候得共世間之風説傳聞仕候處三月に至候得と戰鬪相始り
候かと申觸安堵不仕哉之由諸向兵械火器新規製作有之義と相違無之儀
に付巷説も無據筋に相聞左候時と國家之安危に係り候御一大事にて心中

不安其儘差置候ても無本意次第ニ奉存候得共更に御取用にも可相成良
法を申上候に無之多年紅毛人ともへ應接仕右說話餘事におきてハ西俗
之情態聊相伺候儀も有之常談之儀ニ御坐候得とも却る於此中翫味可仕
も有之哉ニ奉存候間其一二を擧御採捨に相備候迄之儀ニ御坐候隨而交
易筋願而已之儀も御坐候ハ、干戈を不動御深遠御籌畫も可有之奉存
候得共自然兵端彼と相聞^{開カ}き外患有之候ハ、内寇必生之義古より有之
義ニ御坐候間彼り術中ニ陷候と申儀と有之間敷候得共彼を我術中ニ陷
せ生民糜爛之禍を相免は候様有御座度奉存候間忌諱に觸候義も可有御
坐於其段と深奉恐入候得共蒙御許容度奉存心中に置左に奉申上候
一蘭船入津之上諸荷物取調相濟候上と直組と相唱候儀有之私共三四輩立
合會所役人其外右に携候役々一同出島に出役且加比丹廣間に於て直組
爲致候仕來に御坐候所天保度ニイマンと申候もの加比丹役に轉候砌に
御坐候處右直組御用相濟候後同場所へ大幅に輿地圖を掛有之候我相尋

候處是々新鑄よして當年始て持來候旨相答右よ付通詞申聞候にハニイ
マン儀之諸國航海仕諸國之風土委諳罷在候折々承り候處地球之中よも
種々の異なる國も有之旨等申候よ付私共銘々をさし相尋候處ニイマン
其風俗概畧を相答申候然所圖中万里長城有之候處之漢土と申義之相弁
居候得共何れの國よ候哉と試よ問候所ニイマン答て支那ありと申候間
支那ハ如何成國よ候哉と相尋候處甚大國よして産物多く土地膏腴よし
て人ハ痴鈍ありと相答候間武備ハありやと相尋候處武備ハ有隨分盛な
りと相答候依之又々相尋候ニイマン前ニ申所ハ歐羅巴洲中よく軍艦を
仕出し某しの國を某の國を掠略して所領とし或ハ屬國となせり然るよ
唐土よ於くハ歐羅巴ハ勿論諸州廣東へ諸商館を建て各國彼よ服従して
彼り其制を請るものハ痴鈍の國といふとも大國よしく武備盛あるを以
て也然らハ侵掠する事能ハまやと相尋候處ニイマン答候ハ唐國を侵伐
して我有と致し候ハ誠よ易き事よ御坐候三ヶ年よ不過しく歐羅巴の物

とかし候儀ハ相違無之候得共餘り大き過ぎてよき取頃と申よ無之殊よ國
大みして人衆夥しき事ハ此國よ限り候儀よて既よ亡命の者咬啗吧よ參
り住居いゑし候者もありも幾万の數よ及候得共是故よ人別聊相滅候と
申儀よも無之既よ昨年咬啗吧住居之唐人とも國法を不相守徒黨いゑし
及乱妨候間余儀かく鉄炮を以數百人打殺候所右よて平穩よ相成候得共
唐國人別之儀ニ付其儘捨置かかく唐國へ使者を立右之次第申送候所唐
國返答も其地よ參り住居致候者ハ勝手よ取扱可申旨相答候ニ付其段唐
人共の申渡候處其後々大よ相恐を神妙よ相成國法相守候様相成候右様の
人別夥しく候得共唐國を掠畧致候義も易事よ御座候乍去永久相保候と
申儀ハ相成兼候和蘭國杯ハ一國之兵を移し候共尙不足よ有之尤歐羅巴三
四國申談候て配分いゑし領知仕候時永遠相保候儀相違無之候得共此國
ハ諸國之田畑の如きをのよて此まゝさし置有無を交易仕候て互よ利を
得國用を弁候方宜しく皆國民を養ひ候爲の事よ御坐候唐國ハ大國なり

と雖も之を攻取候義ハ易き事ニ御坐候と相答へ申候是等皆私一人承り候儀ニハ無之同役ハ勿論通詞通弁仕候儀ニ付詰合同孰も承知仕候儀ニ御座候右様大國を併吞仕候ニ三年を不過かと申殊ニ言下ニ相答候儀如何可有之哉と格別心ニ留候儀も無御坐候處其後三四ケ年を歴於唐國阿片一件勃然と事起り遂ニハ及戰爭候次第右風説之儀ニ唐船入津之時ニ私共取調御奉行所ニ差上來り候儀ニ御座候處唐人とも平生下輩之者といへとも自國の外都て禽獸無智乃者の様ニ心得輕蔑仕候間逆も敗軍仕候次第申出間敷と奉存候所格別ニ大敗ニ候哉時ニ申立候風説水陸共一戰も勝無之都て敗衄而已御坐候哉固より船主共義ニ乍浦近隣蘇州邊住居の者ニて廣東迄數百里を相隔乍浦ハ蘇州ニ相隔候義僅十里程ニ御坐候得共戰場ニ出者共申儀も無之何を風聞を以申出候ニ付實否も不相分候得共紅毛人入津之上申上候風説を以相考候時ハ敗衄ニ於てハ疑も無之候其敗衄の出候所ハ都て火器の爲ニ御坐候清國文明を併吞仕

候程之儀ニて戰場火器を相用ひ火器の戰場ニ利用多き事も相心得康熙帝自製之大炮も有之候程之儀ニ御坐候得共明ニ勝を炮術の極と相心得大平ニ至り候も研究仕候も無之所より「イキリス」砲陣ニ敵對せる事不能遂ニハ敗極り和を乞ニ金を出し國削を居ありら降を乞候も同様之儀實ニ國体を失ひ申候然るニ皇國大炮の術ハ文祿朝鮮の役初て相傳其後無幾程大平ニ相成昇平中ニ相開け候義ニ付いまニ戰場ニ實地の經驗も無之所より正法と存候義も皆花法ニて正法ニ相違無之術ニ有之候ても戰場の便不便ニハ貪着不仕一を擧て申候時ハ譬へハ十匁筒を重厚ニ拵へ目込仕候る厚物ニても打洞候ハ如何も正法ニ相聞候得共一人一術トハ違候儀ニて戰場の得失ハ研究不足の義ニ御坐候且三匁筒ハ足輕十匁筒以上ハ士の可打筒と定め十匁筒ハ侍筒杯唱へ候得共先手足輕ニ遠きニ及ひ利用多き筒不相用して不相成候侍ハ鎗間ニ至り打候心得ニ御坐候間三匁五匁の筒ニても短用の功有之譯ニ御座候處筒も名目有之

候ても攷究不足故の儀ニ御座候角場十五間角の外にて窟宅仕或無用の遠きよ及せ候義を主とに皆炮術不開所より侮を受候儀ニ御座候右イキリスニ對候時ハ矢張清國の火器も同様之儀ニ御座候不顧身分先年愚意申上候程之儀ニ御座候右ニイマン言下ニ相答候節ニ於唐國阿片禁令も不出以前廣東騷動其兆も無之時ニ御座候處悉ニイマン相答候事ニ相洩候義無之茲ニおきて相驚候ハニイマン兵事を心掛候者も無之所何故勝算を定め答候義ニ御座候哉甚不審ニ奉存候全西洋の習俗常ニ無事の時といへとも諸國の風俗より勝を制し候理を考究仕候段ニ兼承り候義も有之左も無之のハニイマン言下ニ相答候儀ニ有間敷夫ニ付相究候得ハ本邦の儀といへとも其長まる所ニ從ひ如何なる工風仕居候哉も難計短兵接戦ニ長たる國と存候節ニ其長まる所ニ就て砲陣の陣必相改勝算を握候儀を專一と仕古法ニ固着不仕候間於本邦も深く被爲遂御神算候様有御座度奉希候義ニ御座候敗衄を招き候者己恃處ありて油斷仕候

より生候儀にて刺撃の術ニ長し火繩鉄炮を以て飛鳥を射落候とて當今夷狄炮戦ニ對する時ハいまニ万全の師とハ相成間敷や砲陣火隊ニ對し勝算ある所迄も洋明仕候上ニ無之候てハ合戦相成申間敷奉存候唐國ハ大き過候てよき取頭頃カと申ニ無之との説ニ至りてハ深く可考事と奉存候一清國二百余年之昇平ニして武備廢棄して敗衄を取候様識者申趣ニ御座候得共敢て左様之儀ニ無御座候前明之弊其般鑑也も御座候儀ニ付別る武備ニハ心を用ひ懈候儀ハ無御座候御案内被爲在候通り天下國家の護衛ニして所謂八旗有之始ハ四旗を配列し重て又四旗を合セ八旗と相成滿州八旗蒙古八旗漢軍八旗あり合せて二十四旗と相成旗毎ニ都統官一人副都統二人あり是を一旗の棟梁職と仕専ら旗本の軍人を治め掌らしめ是ガ下ニ參領副參領の領數人有之皆都統副都統の政令を聞て又其下司佐領の職ニ通達して普く旗下の軍下ニ令を行ひ滿州の位令ハ旗毎ニ七十人八九十人蒙古漢軍の佐令ハ二十余人より四十人ニ至る佐令一人

の令軍人三百人はを一卒と仕滿州蒙古漢軍の二十四旗を以て二京十八省より分別仕候て總軍八十餘万人と申事より御坐候此兵數ハ初清のことより當今ハ幾百万の數も及候由文學を申す不及文武盛んある義にて武藝練熟の者ハ文官同様の第仕候よし御坐候得共藝術も餘程骨折候趣兼承り及候儀ニ御坐候本國にて諸侯方甲冑を着訓練有之儀是迄承り及候義も無御坐候當清國におゐるハ三歳より一度大閱を執行候儀にて皇帝甲冑を着け刀を佩き王公大臣八旗の將士軍丁ニ至る迄甲冑を着け驍騎護軍前鋒火器等の諸隊ありて陣をなし金鼓旌旗號砲等の合圖ハ勿論進退周旋する事九度第十度に至りては礮をつらね等しく發し更之間おし此時金鼓を鳴せハ即止む是より振旅の諸手續と相成申候是等八年來相欠候儀も無御坐候清國ハ昇平といへとも右様心懸厚殊も邊寇も度々有之候より付怠り候儀ハ聊も無之國中の戰爭ハ時々戰捷有之候より付陣營戰法皆是より事足候儀と而已相特油斷仕尙諸州於廣東交易仕候もの

ハ利潤の爲より清國を尊崇仕候を聖人基業の國と申殊も漢滿二國を併せ世界中の大國を待み外國を蔑し仕四夷蠻臣服せると相心得外夷の強盛あることハ更も心付も不仕林則徐國威を振候爲苛尅の取扱仕候所是より兵端を開き居あら降を乞候も全其強國欲待み油斷より生し候儀も有之趣然所清朝之弱嘲候者有之候得共上黃帝を始れ孫吳稷苴韓信諸葛之徒歴代名將名臣も夥敷出候事にて當時の清朝といへとも文人あるがごとく武も亦同様練達のものも出候事ふて陣營の製日月星辰吉凶の觀法より至る迄悉く練熟仕らざるハ無之我兵學も彼を祖し仕候處當時の兵威同様鈴韜の秘より通候ものハ彼も夥く有之趣兼て傳聞も仕候處清國脆弱の艦艦古製の城堡火機ハ佛狼機軍礮震天雷地噴筒火桶之類火繩鉄炮三匁五分又四匁の鳥銃等を堅實厚大ある戰艦より猛烈ある火器を備陸戰より節製精明練熟のイキリス其剛敵を引受三ヶ年の戰可なりも防戰仕候儀ハ大國にて兵數も夥故りと感心仕候我兵數より較候得ず其衆寡

如何可有之哉不相弁且清國之弱兵とハ違候得共古戦之趣を以相考候節ハ驍勇の士といへとも火器の爲ハ力を施さ處なく敗軍と相成候儀も有之候處當今之火器に至りてハ古と違ひ奇巧珍究便捷猛烈の火器と相成其効大ニ違ひ候處より陣列戦實も出候儀ハ付古戰場より用ひ候火器とハ比較難相成然るハ我五十騎一備を以て申候時々實戦の數ニ至り候てハ從者凡千人も至り可及是等ハ日々糧食を費し候處にして戦ふものを半を過申間敷候得共先敵ニ對し合戦相始り候ハ、此中先手三四匁之銃炮漸三十挺のミフク弓二十挺有之候も未用をふし不申候彼り千人ハ千挺の鉄炮ふして無用の手明キと申ハ無之して彼り打出候歩數我打出候歩數とハ長短大ひニ違有之彼り短用と致候所も我鉄炮ハいまニ効力ある所ニ至らば彼り打出候銃にて我充分害を受候節を弓ハ勿論鉄炮もいまニ用を爲し不申加之三十挺の鉄炮と千挺の鉄炮とハ孰れり害を受候事多く候哉長柄騎馬殿備ニ至る迄も手放空し久して徒ニ彼り標

的と成りことく被存應變制勝の法ありとも可申候得共小筒半弓等其地ニ及處の力ハ定りたるものみく別ニ秘術ハ無之事ニ御坐候間可改ハ相改不申してハ我の用る所と彼り用る所と強弱遠近遙ニ違ひ候義ニ御坐候得共勝敗如何と心配仕候且亦魚鱗鶴翼如何ある堅陣を布候も敵間頃合宜敷所にて地中ハ涌出候事ハ難相成小筒効力ある所まで進前し脱カいゑし陣形を成候中ハ味方を損し候義も不少被存候又十町位よりまじくし脱カ馳込候とてを呼及相逼り候て充分の働きハ出來不申候間先手小筒よりして改不申候てハ不相成義と奉存候水戦も如此者にて前後中段兩翼等船列致し正しく陣形を配し中軍の指揮ニまゑるひ進退聚散自在ニ相成正奇無端相進ニ候共敵間頃合宜しき處にて水中より涌出し候術無之何をよも十町二十町より漕出不申候てハ不相叶候處彼り船上より打出候玉ハ先手の船より戦を始れ候と申定法ハ無之前後左右之差別ハ無之手分を以て打出候時ハ如何様ある良陣の法有之候ても陣形ハ皆無

用の物と相成中軍先ニ沈没致候時ハ令を下し候者ハ無之と申者ふて彼ハ堅實の船ゆへ砲射熟達の者數多無之てハ夷狄との水戦ハ難相成是等申上候も所謂釋迦ニ說法と可申候得共諸向悉く釋迦ニ相成不申候てハ勝算難量奉存候譬へハ本國へ兵を向候とも清國へ差向候軍勢ハ可有之左候時ハ我士刀槍の術ニ熟し勇氣ニして奮戰可致も水戦ニハ力を施し候所無之候ニ付一切の器械相揃不申内ハ利を失ひ候迄て合戰如何と心配仕三艦也四艦の船ニハ無之候間篤と御工風被爲在度奉存候一豊臣民征韓之儀ニ朝鮮の兵を嚮導となし明を併吞するの趣意ニ朝鮮もし命も拒ハ撃滅して遼東より直ニ北京を襲ひ明を奄有し其土壤を割て諸侯功臣ニ與んことを算る事已熟せし難き事ニ非との事のよし朝鮮ハ道ニ嚮ふニ西南四道の兵を八軍として水陸の軍十五万人遊軍六万を以て應援ニ備へ東北三道の兵を以て自衛衛カとせると有之候處我兵源平以後戰鬪無休時百年打續き戰鬪て元龜天正ニ至りてハ彌練熟精銳の

兵と相成開闢以來最强盛の時ニ御坐候朝鮮ハ漢の文帝以下漢土の屬國と申位て代々唐國ニ服從仕らる候事ふし兵禍無之國て實羸弱なる兵ニ御座候明の援兵と雖とも二百年の昇平ニして政ニ失し衆心離散の時ニ邊寇の合戰も有之候得共戰鬪不練の弱兵壤垣を推ガ如く我精銳練熟の兵を以て彼り太平備なき弱國を伐候故不戰して潰へ守るを棄て遁走する類ニ御坐候間一舉して朝鮮を得候得とも是も我至極強盛の時を以て彼り至極弱き時を伐候故の儀ニ御坐候右様熟練の兵ニ有之候得共朝鮮之將李舜臣火砲を以て我船を撃碎候ニ付來島康親ハ之ニ死し脇坂安治ハ苦戰し其衆を亡ふて退き陸軍と合候策應不相成候石田三成ハ馬灘ニ敗れ蜂須賀龜屋鋪ニ敗れ明の援兵來りてハ季李カ如松火器を以て平壤を攻候節一日之合戰て所々陥り死傷甚多く小西行長守を棄て即夜潛ニ衆を卒ひて遁走し毛利秀元加藤光泰細川忠興等之七將晋州を攻て皆大敗致し候後時ニ我將菅正陰碧波亭下ニ戰季舜臣大礮を以て

來り攻め正陰敗死致し島津義弘ハ壘を築候處數壘攻陷させられ新寨を攻るゝ至りてハ大砲を以て大門及城牆を摧き我城兵殊ゝ死戰致し至極危く相成候處砲炸け烟燄四^{方脱カ}進り明陣大ひゝ乱せ候折柄其機ゝ臨ミ衝入候間漸く勝軍ゝ相成候得共こゝハ明軍火器の取扱方甚拙き故の義ゝく左も無之節ハ敗軍ゝも可相成候此外互ゝ勝敗も有之候處刀槍の術朝鮮役ゝ過ゑるハ有之間敷千戰百練の將士卒といへとも弱卒ハ無御座忠勇を盡し奮戰致し候得共前後七年之合戰朝鮮ゝ被拒候て遂ゝ明境ゝ入事不能ハ遺憾の次第ニ御座候今日清國ハ漢滿二國を合セ其頃之明ゝ較候てハ一倍の大國ゝ相成居候を「イキリス」之を攻め三年ゝして居なら降を乞しめ候ハ何ふ長しゑを如此勝を製し候哉我國の征韓ゝ較候てハ優る所あるが如く是を以て相考候時ハ刺撃の術ゝ長候とて恃ゝ難相成火器の精巧と練熟の者多く無之候てハ當今夷狄の合戰ゝハ甚危く奉存候豊臣氏ハ天受の雄才大畧ゝして「ニイマン」ハ凡庸の賈人ゝ候得共

永久をもち難き説ゝ至り候てハ豊臣氏も穿鑿たらざる所あるがごとく奉存候

一慶長十四年己酉五月有馬氏黒船燒討の捷を以て夷狄の船容易ゝ燒討出來候をのと相心相候儀を甚料簡違ひの様ゝ奉存候右入津仕候黒船ハ亞媽港仕出乃商船よて本國を襲ひ來る船ゝハ無之候間武備の手當固より無之候外國の風として商船といへ共海賊を防候ゑめ石火矢少々ハ備付居候事ゝ御坐候其頃有馬氏より異國へ仕出し船洋中ゝ破損所有之候ゝ付亞媽港地ゝ寄せて修理相加へ候砌蠻人と喧嘩仕一船乗組五十人悉く殺させ候よし然るゝ其後長崎へ入津のアマカハ船先喧嘩のゑの乗組居候と申義承り及ひ討取方の儀 公邊へ御願ひゝ相成候處一船の内ゝハ罪なき者もあるへく候間加比丹次捕て推問あるへしとの御下知ゝ相成候處其儀黒船へ洩聞へ夜ゝまきを遁出候を有馬氏聞付兼て用意も致し居候儀ゝ付兵船并燒草船數百艘を出して追掛候を黒船も風かくして

進む事不能勝敗を決せんとの趣意ふも候哉碇を入追船を待受一戦よ及
ひ遂よハ定例の通り彼風の討死よ船中へ蓄へ候火薬へ火を点し討死
致しゑる事よ御坐候黒船人数幾よして有馬氏の死傷ハ千餘よ及候由
全く商賣の爲入津仕不慮の儀よ遇ひ恐怖仕遁出候程の事よ御坐候亞媽
港ハ勿論西洋といへとも其頃の義ハ航海井炮術も都て不相開時よして
殊更只一艘の商船の焼討出来候も彼より焚燒致し候故右様戦據も有之
候得共當今の西洋よてハ海軍諸術も相開け且侵掠の爲其用意をいゑし
數百艘打寄候儀よ付焼討かと申儀ハ出来仕候儀よ無之紙上の論まてよ
御坐候一艘の軍艦といへとも我漁船等小船を以て圍繞致し候共小船ハ
乗沈走出可申候よ付焼討の手段ハ全く無用の事よ相成可申候於今も南
塘の水戦法よ倣ひ小船を以て大船を圍繞し固攻致し候積りよ御坐候得
共南塘の戦法ハ倭寇の大船よ大破無之對し候處より出候策よして彼り
火炮技拙きといへとも間近く接し打碎き候義も出来候べく當今の西洋

軍艦ハ三百目五百目の筒よく打洞候事難相成是より打候筒よりハ彼と
り打候筒効力烈しく候間未近寄不申内被打碎可申且又進退難相成船よ
候得ハ小船よ燒草を積異船へ取付候儀も可仕候得共海軍よハ帆をりけ
進退自由の働も仕候間不利と存候節ハ疾洋中よ退候事と奉存候兵家燒
討之良策有之候得共空船偶人よ對し候て其法行れ可申候得共彼も
智ありて大砲を始諸防守の法も委曲候間容易燒打も出来仕間敷異國襲
來候ハ一二艘の船よ限り候様存し是より出候兵家の戦畧よ御坐候間事
よ臨ミ候てハ大ひなる違よ相成小事よハ有間敷黒船の一捷を以て恃と
仕候ハ甚迂なる事と奉存候彼より輕侮を受候儀ハ彼よゐらまして皆我
よ有る事よ御坐候間何事も穿鑿行届戦畧相揃候上御英斷御坐候様仕度
奉存候

一寛永十四年島原一揆之儀大坂落城を去る事僅よ二十四年ふして瘡痍未
愈とも可申哉然るふ百姓二万千三百人内浪人頭立者十五六人相加里女

子童一万八千九百餘人都合四万二千餘候得共相働候者ハ二万余の百姓
ヨ御坐候追討大將 御名代板倉内膳正殿を始めとして細川有馬黒田
鍋島小笠原毛利水野寺澤松倉氏等九州の諸侯皆武功の大將ふして其臣
も實戦を経候者共有之其勢十六万餘人よして合戦の度都て利を失ひ同
しく十五年正月元日三番攻の節ハ前手惣軍勢二十六万余人と申事ヨ御
坐候内膳正殿ヨハ大坂御陣ヨも有名の御方ニ御坐候處城櫓下迄被押候
處鉄炮の爲ヨ戦死相成手勢何をも討死致候得共拔事不能松平伊豆守殿
御下向の後も一搥無之二万余之百姓勢を伐候ヨ二十六万餘之大軍を以
テ攻候得共二百餘日落城ヨ不及相成然るヨ逆賊兵糧玉薬も盡果て最早
籠城の術計無之處ヨり討死と相定候故落城ヨ相成候得共ヨ兵糧玉薬
充分ヨ蓄へ候時ハ急ヨ落城の義も無覺東被存候寄手の討死ハ三千人と
申事ニ候得共内實ハ其數難計候然るヨ西洋人を我足輕百姓町人等ヨ比
シ蔑視仕候者も有之ヨし蔑視仕候ハ宜しく御坐候得共此爲ヨ手輕ヨ相

心得防禦不行届之向も可有之奉存候夷狄を百姓と見候も此位の兵力
ハ可有之殊ヨ海中の堅城地形を撰嶮ヨより進退用旋自在を得猛烈の火
器充分相備防守の法も精究仕居候儀ヨ付容易ヨ乗入短兵急接仕度も其
儀不相叶蒙古并朝鮮船などの類ヨハ無之候間是等之先例を以て勝を取
候様存候てハ所謂杓子定木ヨ相當り候様被存候四五艘の船ヨ仕候も
島原一揆ヨハ相優を候事と奉存候左候得テ格別厚ク御用心無之候てハ
勝算如何と心配仕候疆場の責なる者ハ據實以對以實力練ところ申候へ
本國ハ天然の險ヨして四面滄海を環し暗礁四ヨ廻り遠岸淺砂異賊近事
致不得皆勇悍勁捷利及堅甲刺撃の術ヨ長し候ふと專ヨ讚稱仕候悉其説
の通りヨ御坐候時ハ恃とも可相成候得共甚齟齬仕難信義も御坐候間之
を侍候時ハ敗を招候階梯とも相成可申哉固ヨり本國を尊敬仕候ハ當然
之義ニ御坐候得共事品ヨ寄候儀ヨて明人の臣下も亦諛辞をかし其上を
悦ハしめ而して祿を貪る是故ヨ其隙往々敗端と成候と申ふることヨ諛

辭を獻し上汝悦しめ譽を取候儀を只々心懸候ハ昇平の弊風ニ御坐候得共國家安危ニ係る事ニ候得共實ニ據りて申上度ニ御坐候累勝の卒といへとも之を駛るハ未勝ニ非と申候位ニ此のことく大切ニ心汝用ヒ勝軍とも相成可申處只夷狄ハ弱きものニ心得させ候ハ一國油斷を教へ候譯ニ相聞へ候依之防禦の手當行届兼候場合も可有之哉ニて卒然の變有之候ても如何と懸念仕候夷狄の強盛を去らばして人心先怯不戰して敗るかと心得候得共是ハ僥倖の勝を希候道理ニて若意外ニ出候義も有之候節ニ敗通仕候外無御坐候様成儀ニてハ其時ニ臨ミ一時の權ニて平生無事の日ニ示候所ニて矢張其強盛なる者ハ強盛なる所を知らしむへく其右ニ出候様專攻仕方全万勝の國と相成候ハ皆有司の鼓舞可有之儀と奉存候浮氣の勇花法の藝ハ恃ニ難相成候間實眞の勇實正の藝ニ相成候様所希ニ候

一本國も獨立の邦ニ御坐候得共彼^{ニカ}防候ハ彼を防候具を設け彼ニ十倍乃

兵力無之候るニ安心仕かきし本國の風氣をしぐ惟命を惜み候も此も無之候ニ付事ある時ニ臨み候ても討死致し候とのみ各覺悟仕居候得共婦女子も怒ニふれ身命を損候義ニ戰場ニ臨み性命を惜候との無御坐候然る所命を以て候事易候得共性命を損候ニて勝軍ニ相成候事とも極めかしく只々夷狄のためニ國を被奪不申候様專ら力を盡し度事ニ御坐候上ニ親しみ長ニ死する具なき時ハ所謂乳犬犯虎伏鷄搏鷹闘心ありといへとも之ニ隨へハ死ニ徒ニ我衆を魚肉ニせよとかふ如く戰艦諸器相揃候上ハ思召の慶戰有御坐度希候いまニ相整不申特候ハ臺場而已御坐候陸地ニ長蛇の陣を布き四藝練達の勇士相守候とも異船より打出候彈丸其堅陣を打碎きふる時ハ一頭兩尾相應候儀も相叶申間敷候て勇士空しく拳を握り候まぐニ御坐候是等の利害ニ難通差るゝり候異狄との合戦ニ専ら柔術かと骨折候との有之惡しき事ニ無之候得とも場合違ひ候儀ニて用意整兼候向も多く有之未水軍乃戰器相揃不申候間勝敗如何と

心配仕候只今の急務ニ仕候處ハ大砲ニ御坐候處御世話も御坐候而大砲
ハ出來仕候間精器ハ御坐候而も精熟の可甚少く右様の儀も連續不仕候
弘安の蒙古ハ戰捷と申ハ有之間敷候明并朝鮮アマカハ人ハ我神武
を試候得共五大洲の内國強弱有之候所歐羅巴人とハ未一戰の鋒を交
る義無之間朝鮮明乃例ハ參り難く我一を以て彼ダ十ハ當ると申義ハ
我精銳の兵を以て太平韓明の弱兵ハ對し候故ニ御坐候得共今我太平不
練のときを以て彼を伐候とも古の例ハ難相成況や西洋人ハ水陸
戰法御案内之通り之義ニ御坐候間何分ニも御一戰の義ハ四五年も御見
合御坐候様伏る奉祈候事ニ御坐候

一阿蘭陀人醉中或ハ憤激の餘り事ハ觸候て申ふる義を通詞承り内々噂仕
候義も有之取留候義も無御坐候得とも其情を察し候時ハ我彼を侮り
候ごとく彼も亦我を侮り右之内ハ清國とも憤怒を懷候様も相聞候
間兵端一度相聞候時ハ諸國ハ加勢し兵を出し候義ハ彼國乃習て兵端

相聞お候儀を希候事ニ相聞申候間誠ハ御大切之御時ニ御坐候

一米人渡來「アメリカ」船一艘一船として殲滅致し戰捷相成武威ハ畏縮仕再
ハ覬覦の情を斷候様有之候得共希所ニ御坐候得共彼敗衄仕候節ニ諸國
よりも加勢の兵を出し候儀にて「アメリカ」一州にて仰山なる大國にて
元來「イギリス」の爲ニ開るを候由ニ候得共近來にてハ反て「イギリス」も
敵對候程之強國ニ相成候由此上魯西亞英吉利等諸國より軍艦を差向
ケ本邦所々を衝き候時ハ追々手ハあまり候様相成我武勁勇悍といへ共
諸侯兵數も限り有之候得共衆寡敵し難きハ至り可申哉連年戰鬪打續候
儀ハ必定ニ御坐候左候時ハ鉄炮石火矢相揃候共第一懸念仕候ハ國中
火藥にて一ケ年の戰鬪ハ足合不申近來諸國之振合ハ不信心得候得共
隣國にて硝石製法所一ケ所一日之煮上高日四五貫目位のものハ相當り
候是又年分無間斷其高ハ上候と申ハ無之候殊更諸方にて稽古の爲ニ
日々打て候高も少あらば各國硝石製作致し候と申義も無御坐候

間硝石甚乏しく奉存候然る所結局鉄炮鑄造有之固より用意筒も可有之候得共砲數は較候ては火藥益足不申儀ハ顯然仕候是ハ海防第一之品ハ御坐候間和蘭國かとハ過分之火藥貯平日硝石丘を拵へ人作硝石過分ハ出來仕候得共尙硝石代料引合候ハ、賣渡し度申出候程之儀ハ御坐候砲戰之次第御案内無之儀ハ御坐候間火藥之儀ハ御方畧中之儀ハ申上候迄も無之候義ハ御坐候得共國々の便利ハ之ハ硝石丘拵立候様被仰付置二年ハても其分ハ硝石相備候時可也ハ被蓄候様可相成ハ急務と可仕と奉存候間存付不殘奉申上候

一戰も無之してハ彼ハ兵威ハ相懼を彼ハ弱示し御國威相衰御耻辱とも相成候様相聞候得とも兵道ハ只勝を要道と仕候儀ハ夫までの遲速ハ時ハより候義ハ付戰期相のハ候も御算策の一ツと奉存候所謂避其銳氣擊其惰歸不戰而屈人兵者也是古き事ハ御坐候得共是等ハ戰場ハ乃そミ用ひ候儀ハ有之間敷只今可然時乎と奉存候清國彼ハ爲ハ脆く敗衄仕

彼大ハ志を得るところ本邦の戰法唐國ハ相同と申儀ハ兼承知いふし居候義ハ付清國同様勝算を定候見極を以て我好まざる所の交易等を願ひ御成否ハ隨ハ或ハ不儀を働き我より兵端を開き候を希望仕途ハ戰爭ハ及ハ掠奪可仕ハ趣意ハ實ハ可憎事ハ御坐候得とも其ハくさハ不堪して我より手を出し候時ハ彼ハ術中ハ墜候姿ハ御坐候間此處御工夫之儀と奉存候譬ハ彼ハ術中ハ陷候とて我ハ勝算ハ有之候得ハ聊心配仕候儀ハ無御坐候得とも未ハ海防向御全備と申ハ有之間敷此處ハ一度合戰相始り候得ハ其節限リ事済可申儀と自然可被思召哉も難計候得共中々左様之儀ハ無之早くも四五年ハ休も如何可有御坐哉恐くハ三年の蓄有之候御向ハ有之間敷哉常々承り候儀も御坐候攻城ハ攻城の器械相整攻懸り候如く當今士氣も振起仕り槍刀之技ハも練熟仕候ハ付是ハ急度待ハ足り可申様被遊候得共兼ハ愚見申上候如く夷狄ハ狄夷を防候術盛ハ無之てハ難相成候處此彼ハ短と比較仕勝算を定候ハ皆紙上

の論は御坐候水戦に至り候てハ攻城よりハ甚急接難相成時ハ短兵勇氣も施候所無御坐空敷我兵を失ひ候迄もて如何も残念之次第は御坐候間御全備相成候まで御延引は相成候様仕度自然一戦之後は至り半途にして兵を交へ候様之事は至り候てハ御國体を失ひ候外有之間敷奉存候彼の西夷の砲術陣對戦法皆一國一流にして國家の爲は力を盡し戦闘の度々戦後に至り候得て其非を相改専ら精究仕候間命令も能行届万人一心とも可申候却て神武の御國として國家安危は係り候儀ハ置て不論只自己の門戸を争ひ身の利害を以て可否をなし料簡も區々有之諸事研究行届候様は奉存候本國陣營の体凡長崎表見分仕候義は有之晝ハ數百之旌旗を立夜ハ數千の燈籠を懸起し衆勢軍威を示し軍艦は旗吹貫弓銃砲數鎗等備付列船嚴整の形勢ハ恰も源平水戦の画面を見るごとく我見慣るる所より見受候時ハ至極武威盛なる様は相見へ候得共彼砲戦實驗の眼より見る時ハ却るおりし有之趣相聞候間通詞を以て相

尋候時ハ御武威感心仕恐入あとの儀申候得共窃は相探候時ハ旌旗燈籠盛なるハ美事は候得共大砲放射照準の便は宜しく列船陣形をなほといへとも一船一發の玉を受候時ハ万衆共は沈没致し弓ハ西洋古代は棄火繩銃砲戦陣は不利皆棄て用る事あし弓ある國ハ未だ戦理開けざる國と相嘲候体は御坐候臺場の製井大礮臺製等の儀は至る迄常見聞致し候處本國ハ有用を捨て無用を飾實用は力ヲ盡し所あきあど、窃は冷笑致し候事の由は御坐候輕侮を受候理無之も有之間敷旌旗燈籠を以て勢衆を示し軍威を張候ハ孫吳時代火器無之時の策は御坐候只今もてハ遠く隔候とも砲丸飛來り或ハ遠目鏡一本有之候ても敵の虚實衆寡相分り候と申をの御坐候間刺撃の術は長し人々の勇猛といへとも水戦は至り候るハ勝算定の難く奉存候兵法は使敵人不得至者害之也と有之由は候得共彼を害するの器無之を以て彼が畏るゝ所無御坐其害するの器ハ未だ完備不仕南塘も申候如く弓矢之力不强於寇而欲籍以制勝と歎き候如

し彼り軍艦よハ猛烈の火炮數十門を相備候處我水戦法よてハ百石積の船ハ五百目筒を限り候と教是を以て異船厚薄を存不申洞貫の力試放致し候義よも無之只術者の考而已ニ御坐候當今の如く御世話も御坐候得支砲術彌増相開ケ申候時ハ彌後患ハ無之事ニ相成可申奉存候右ヨ付何時よても合戦可相成御用意さへ相整候時ハ假令交易御免ヨ相成候ても差止候儀支何時も出來可仕儀ヨ御坐候何分兵端相開不申様取扱ひ御用意の向乃義支當時の御振合ヨク四五年相送り申度其上ふてハ思召ヨ御英斷御坐候様仕度奉存候

一蠻夷互ヨ有無汝通し交易仕候儀支彼國の習俗常々在候義よて此品を以て彼品ヨ易へ其利潤ハ互乃事よて敢て一圖の利を貪り候と申趣意も無之交易ハ各國民を撫育致し候爲の義よて子細無之事と手輕ヨ相心得候義ニ御坐候所尙本國御深遠之御趣意被有之御許容難相成所ヨリ齟齬仕候意味ヨ御坐候處彼等本國の産物多少有無委敷次第も相心得可申譬ハ有

物を以て與へざる様相心得憤怒を抱き此義支只々交易御免の事ヨ而已相抱り居候義ニ御坐候處若し願之通御免ヨも相成双方商法取組代り物ニ可相成産物等くゞしく承知仕候様被成候場ふ至り彼等相好候品ハ無之候ニ付却る後悔可仕程之儀ニ御坐候遠洋乗渡り交易仕候儀ハ莫太利益有之品代り物よて受取候様無之てハ其詮無之次第ニ御坐候阿蘭陀方只今迄無滯入津仕御用相勤候儀も全く銅御渡ヨ相成候故の儀よて自然銅御渡無之時ヨ至り候節ハ外ヨ利潤と可相成品一種も無御坐候間決る渡來仕候儀無御坐候一船仕候ヨハ不少雜費も相懸り候儀ヨ付格別之利潤無之てハ遠洋渡來候て引合兼候趣ハ兼る承知も仕候然ル所「アメリカ」ロシヤ等交易奉願候哉之趣右交易御許容乃有無ハ乍恐本國治乱兩端ヨ相係り候儀よて當時ヨ至り候るハ古の夷狄ヨ無御坐候間事ヨ依り大事ヨ及ひ不容易御儀と窃ヨ心痛仕候若彼が願之通御免無之節支恐クハ其儘ふて相濟中間敷必是ヨリ兵端を開き候儀即今無之時ハ永遠御世話も不絶

事に至り不辜の生靈を水火中ふ陷を國家の安危も如何と心痛仕候程之儀に御坐候處外に術無之ハ無是非事に奉存候得共交易一向の儀ハ凡彼地之風ふ習ひ手輕御取扱に相成候様仕度其手輕取扱候と申儀ハ別よても無御坐利潤無之代り物よてハ迎も引合不申彼より退き候事ふ相成候間先御利解被 仰渡之上よて交易相願候儀に御坐候ハ、仮に交易御免の思召を以て御免被爲 仰付両三季商賣仕候得共損益の次第も相分り必彼より退き候事ふ相成可申候其御理解と申大意ハ凡左之意味に仕度奉存候本國よおゐてハ諸國交易御好無之ふハ無御坐候得共御國小よして舶來之貨物國中潰し高も限り有之又御國ふて産する所の産物甚少きを以て代り物に御渡可相成品無之よ付てハ交易御取縮に相成候より外無御坐依之往古諸洲より渡來致し交易を御免ふ相成右代り物ハ主として金銀出方無之所より銅を以て御渡し相成銅之儀も追々出劣後年よ至り渡し方差支候處より阿蘭陀方古格互市の法をも御改銅半を被減半減商

賣と被 仰付候程之儀に相成尙又貨物潰方不宜故を以て唐國より積渡り候品ハ阿蘭陀積渡を御差留らる阿蘭陀積渡り候品ハ唐國積渡を御差留らる是是以同物相嵩まざる爲の御仕法よして畢竟御國小よして潰方不宜同品相嵩利潤無之時ハ交易之詮難相立阿蘭陀人も心得候通り纒よ丁子三千斤を一ヶ年交易の高に御定有之自然此高を過き持渡候節ハ過斤乃分ハ例格元買直段をも相減候程之事よ有之然所銅之儀ハ近來よ至り必至と出劣り御國用差支候程之儀に付尙御仕法御改革の思召も有之候折柄よ有之候得共阿蘭陀同様の交易取組方相願候共其儀を難被爲及御沙汰隨る異國交易之儀ハ専ら於長崎表取扱候御沙汰に候間彼地へ罷越御國産諸品熟覽致し右直段出産之多少等も悉承知可致且又其國より積渡り交易可致産物も諸品名書出井直段等逐一申立凡交易の仕法豫ら組合相試候様可致候交易之儀ハ互に國民扶助之爲の儀ふて利潤無之てハ詮難立事よ候處交易方之儀よ付てハ其筋役人よおゐる損益取調申立

候次第も有之候間先以交易之仕法篤と承知之上彌治定の所再相願候様可致其上にて双方差支無之筋に至り候ハ、願之通御許容可被爲致旨被仰渡双方仕法組合再ひ相願ひ候儀ふも至り候ハ、先仮り交易御免の思召を以て兩三季爲御試御免可被爲成旨被仰渡相成候様仕度御返翰被下とも是等の御趣意を以被仰渡御國産の諸品も委しく承知爲致交易取調方被爲試候方永く國家の御爲に宜敷觀視の情も自然と絶候事と成行候儀に御坐候殊更仕法取組試方付てハ年月も送り候義に付其内ハ海備御万全も相成可申然ル上も交易御差留の思召も御坐候ハ、何時も御差留に相成御勝手次第に相成候儀に御坐候彼より兵端相開候とも御防策向行届候上ハ敢て貪着仕候儀も無之乍併夷狄と合戦仕候儀と矢張國家の御損害益永遠御爲に不宜御上策に相成申間敷商賣の儀ハ今日市の小商賣も同様之儀にて品物代料自然之相場も有之争ひ候所ハ専ら利潤の多少に拘り候儀ふく利潤薄く有之候節ハ彼より退き

候事^{ミカ}に相成候間怨之候義と無御坐交易御免の成否に至り候てハ偏ふ公邊を奉怨次第に相成候間先年之通ヲロシヤ蝦夷地攻奪候ごとく往々邊患をふし候事と成行候ハ必定之儀よく蝦夷地方ハ捨候るも無是非次第に奉存候得共近來諸夷強盛に相成候に付國家始終に御爲に不宜儀と奉存候互に産物の取調も不仕途に騷擾に相成自然存亡に係り候様の義も御坐候るに實に不容易次第更殲滅仕候とて益熾にハ相成候とも畏縮仕候儀と無御坐左候時と永代御世話も不絶儀に御坐候本國産物多少有無も相心得候上彼り望を斷候節ハ怨望仕候儀に御坐かく候間永く御安心乃場^{ミカ}に相成可申事^{ミカ}に御坐候

一右様仮にも交易御免相成候ハ、一國御免に相成候時ハ其他^{運カ}遂に相願可申是又御免に相成不申候るに相叶申間敷左候時ハ際限も無之本國の膏腴ハ彼に可被絞上と存候儀も可有御坐候得共左様之次第にも無之素より一國御免之上に願出候儀當然之儀にて左様相成候得る尙又相好所よ

く本國右様莫大之荷物國中、潰候儀ハ無御坐唐紅毛の荷物た、外の商賣の仕法と違ひ締賣締買も御免之廉、相成居候位之義、以て買持候者無之てハ潰荷のミ相捌候義無御坐依之此上、も諸國相願御免、相成候上積渡り候品格別下落仕候時ハ彼等引合不申候尙代り物、以て受取可申品ハ無之此所彼等合点仕候時ハ渡來候様申候ても渡來仕候義、無之候間右様相願候儀も御坐候ハ、都ゝ先例之通り爲試御免被。仰付商賣取組ませ試方被。仰付候方可然筋、御坐候商賣方乃義ハ取組方仕法立の、有之候儀ニ御坐候間聊御懸念の筋ハ無之儀ニ御坐候。

一異國互市之儀ハ識者之議論も有之商賣の仕法ハ不相弁銅御渡、相成候義、付異國交易ハ銅可相渡事、限り候様存候所より出候説、く我有用を以て無用、易候と而已相心得候得共銅御渡、相成時計硝子器翫物等乃類ハ脇荷と相とあへ加比丹始め私の商賣、以て右代り物、ハ我無用之品を相渡し人命救候藥種類ハ脇荷中、有之候義と奉存候唐方、以てハ

本荷と相唱へ御國必用の藥種等ニ御坐候、瑜珈珠時計其外翫物等の類ハ別段賣と唱へ唐人私の商賣、以て代り物ハ我無用の品を相渡候義、御坐候處古を捨て今を以て論候時ハ銅御渡候義無用之事、相聞候得共二百年前白糸さへ出產乏敷専ら彼とり取寄無用の砂糖も文化以來和製漸盛、相成候と申程の義取分藥種類の義ハ閩國の性命、も相係候品、以て自然久々舶來無之節ハ名方名醫有といへとも人命を救候儀難相成阿蘭陀方之儀ハ交易主と相成候儀、無之彼地方動靜を申上候義第一之御趣意、以て右様有用之銅海外、御捨被遊候義も本國御大切、被爲思召万民御救被遊候難有御仁政、御坐候得共何卒干戈を不汚永く平穩相濟候様仕度奉存候。

一唐阿蘭陀代り物、相成候品々銅相除候外我無用の品、以て相渡候儀、御坐候處彼國より可種渡諸品相分り候上、其内必御國益、可相成品可有之奉存候間御國用、可相成品の、爲積渡右代り物、ハ我無用の品を

以て相渡候時ハ全く良法の交易可相成候儀ヨ御坐候間兩三季交易試とし御免ヨ相成候後も引續交易相願候儀ヨも御坐候ハ、實ハ御國益ヨ相成候交易ハ御坐候間彼ヨリ渡來相止候まヨハ御免ヨ相成候ても聊障リヨ相成候儀ハ無御坐候阿蘭陀交易仕法の儀ハ全く往古出銅過分ヨ有之候砌之法ヨク當時商賣の模様不相心得候得共往々彼ヨリ空船を仕出し候て銅而已積歸リ候様フモ相成候譯ヨ相成候儀ヨ御坐候間アメリカロシヤ等交易願之儀ハ程能あしラヒニ相成候方御爲ヨ宜しく商賣取極方持渡候品柄ヨ寄候ハ御國益も相増國中融通フモ相成且國中出產之諸品を以代リ物ヨ相渡候時ハ庶民生計の基も相増殊ヨ藥種類の儀ハ船來員數少候て格別高價ヨ相成候所ヨリ貧民容易ニ服用も難相成空敷性命を失ひ候も不少候間万民御救之御仁澤とも相成候哉ヨ奉存候聊リ通親を好む義ハ無御坐一應明細ヨ商法取組爲相試候方國家盤石の安を保ち候と申譯ヨ相成候儀ヨ御坐候若又智術を以テ彼等を相欺候儀ヨ御坐候

ハ、言語を通し兼候夷狄乃事ハ御坐候間如何様ヨも其術も施し可申候得共夫ハ一時乃術ヨテ却ル憤怒を相増彌兵を以テ怨を報候様相成候儀ハ不定ヨク騷擾ヨ至リ候節ハ和寇明を侵し明人内應有之候如ク御武威盛んなる御府内近き所といヘとも恐ヒ憚候所ハなく強盜の類有之候如ク如何なる不所存者其虛ヨ乘し候哉も難計乍恐兵端相開け候ハ不容ヨ御義と奉存候

一 奸商米穀を夷狄へ渡し密買仕候儀先年ヨリ不絶風説も有之今以時々右様之風説も有之事實不相弁儀ヨ御座候得とも内密ヨテ異國ヨ拔候を表向異國ヨ相渡し候も國中の米穀其高相減候儀ハ同様之儀ニ御坐候處表向異國ヨ相渡時ハ密買ハ自ら相止一休御國中御取締宜敷筋ヨ奉存候利潤ヨ迷ひ候ハ商賈人の常ヨ御坐候間乍存罪を犯し嚴刑を蒙リ候者も不_レ少義ニ可有御坐候得共相罷候義ヨも至リ申間敷事有ヨ望ミ候時ハ利潤の爲ナリ内應仕候哉も難計儀ニ御坐候間若米穀相願候義ニも御坐候ハ

御許容相成候て可然筋歟と奉存候一二艘積受候石數程知を候儀ふて御國用御差支に相成候程之儀と有之間敷諸向造酒減石被仰付其分を以て御渡と見込に仕候も差支無之儀と奉存候殊更蒸氣船其外便捷の船御造製にも相成候趣に御坐候得共万一凶事に至り御國用御差支ふも相成候節は不取敢唐國の差遣し積取候儀も出來仕哉と奉存候一風説之趣ふくは石炭懇望仕候哉も相聞候所石數不相分其高に寄候儀に御坐候得共九州の内出產も有之其外出產之國も有之哉に付せんさく仕候は、此外出產之國も可有御坐於本國蒸氣船御製造に相成候上へ必用の品は組方最初より取極に寄候ては差止候儀は有之間敷奉存候固より右様之品相渡候上は彼より取寄候品も御國用第一の品を取寄候事仕度儀に奉存候

一外夷交易之儀に付後殃難計ると懸念仕候者も御坐候得共二百年前之儀は本國といへとも不相開時ふして高貴の向にも耶蘇宗門信仰有之候程

之事に御坐候間所謂上の好む所にて愚民迷ひ候は尤に次第に御坐候且愚民を煽惑^{惑カ}致し兵を用ひて併呑仕候遠計は彼が上策に出来る所にて我智恵不足我不調法とも可申哉或は伊斯把爾亞人呂宋國に通商しく其國兵弱に奪取を計り黄金を貢し牛皮の覆ふ程之地を借り終ふ國を奪候事とを以て異國通商に嫌ひ候説も有之候得共是を畢竟其國愚ふして兵弱き故の義に付右様斯罔被致候得共於本國は武勇多智ふして彼り謀計に陥り候儀は有之間敷候間意とあるふ不足事と奉存候懸念仕候は尤も御坐候得共智もかく武もかき國の様は相當り候間外夷襲來候時ハ尙更敗可仕被存候先年よりとるく妖法妖術等相恐を候沙汰も仕候得共一ツも實跡を無御坐妖術を以て勝を制し人の國を奪候儀自在なるもの御坐候は、戰船火器等は億^{億カ}万の資財を費し専ら護衛の術を撰武備不怠様仕候儀は有之間敷殊に妖術の教理學相聞候は、絶盡候趣人々まよひを取り候も固陋より出候所にて昔年開きさる時ハ火取眼鏡にて

火を取遠目鏡ふく遠きを望み候ても人々相驚相恐を候よし是而已に限り候儀は無御坐候得共追々蘭學相開候以來ハ右様之儀に迷ひを取怪み候者無之右を以相考候時と有用之銅海外に御捨に相成候様ニ御坐候得共異國通商之譯より古に較候てハ醫術の外諸物開き御國益に可相成義も不少蘭學の儀ハ都て藝術に係り候書而已にて術に懸り候儀は古より華夷の差別なく其善なる物ハ之を取て本國の用に充候儀に有之城堡陣營の製も皆群藝の内より有之候間外夷之諸術本國に相開候儀は第一之御國益に御坐候得共蘭學心掛候ものも耶蘇の妖説に惑溺仕候様は申成終は罪を得候ものも可有之も難計候得共蘭學相開き御國益に相成候儀有之候得共心得違仕不埒の者ハ一人も承り及不申候却る聖賢の道を學ひ專倫道を明し仕大鹽平八郎り如き凶賊も有之候間聖賢の教も亦持し足らざるり如くは被存蘭學を以て邪道を導候かと申儀は有之間敷外寇防禦の義ハ當今計りに限り候儀は無之億万年の後も無懈怠相忘候

儀ハ相成申間敷候得共戰艦の製火器の術陣對戰法も彼と相同しき時ハ彼ら軍資を費し遠洋を凌ぎ襲來候ハ全く彼ら損と相成候儀に付覬覦の情ハ永相絶防禦の秘訣ハ之ふ止り候儀に御坐候間先年愚見も申述聊り心配仕候得共逆を私式の微力におよひ候儀は無御坐詰る所本國の人情にてハ他を學候義を耻と仕候儀にて彼ハ諸國に航海仕其善ある者有之候得共皆之を取候て自國の欠る所は補ひ交易利潤を貪候も國を富し兵を強く致し候爲の主意にして舊習固着仕候習俗も無御坐候間他を學候義を聊り耻と仕候儀は無御坐却て他を學ひ不申を固陋と侮候程之義に御坐候未聞以夷變捨夏の語を能申候ものも有之候得共此語ハ藝術の儀は有之間敷候間諸國武備に係候儀ハ勿論何事も博く探索仕相開き置度儀にて本國不虞の御備さへ相整居候儀に御坐候得ハ何等之異船渡來仕商賣御免に相成候共後年之患ハ聊り無之候間我寛大を御示し彼を御容を被遊候御召にて御試のふた兩三季仮に交易御免被仰付若不宜

事、被爲思召候ハ、何時も其節御差止被爲成度奉存候無用之品を渡し
 有用之品を取入殊、彼り強弱彼を知候一術とも相成交易利益有之候ハ
 、聊といへとも海防御入用向、被差加候ハ、御驚^{警衛力}衝彌御手廣、行届候
 儀と奉存候交易之義ハ御免被爲仰付候とて御國体、相懸り候儀無御坐
 候得共万一兵端相開き候様之儀も御坐候るも實、不容易次第是等之儀
 多、年窃、憂懼を懷候儀、御坐候間不顧身分心付候儘此段以書付奉申
 上候以上

十月

高島喜平

鈴木大雜集

卅七

海防奉策

嘉永癸丑
鈴木大

共八册

鈴木大雅集

海防論序

自古外寇窺我本邦者二十有四正史野乘並載之而寬永以降西賊測量我環海者十有六世人懵莫之省蓋窺窬者有形狀可以警虞如測量則蹤跡詭秘其情實不得而度况近歲洋賊頻々來往陽託薪水陰要互市蘭名而嘆貌魯號而拂骨千態萬狀誦詐狡獪孰計其端倪邪我乃猶株守昇平之華法以胚養獵賊之實禍不可謂得策也昔者西晉浮華之弊卒化氈裘其兆已在世龍長嘯之中李唐文過之餘遂拜羯狗其漸已胎胡兒洗浴之日故承平日久或流浮文或釀華弊於是乎其所可戒懼者恃在外夷間諜耳夫蒙韃之斃宋明也必先察之國體熟之國情洞見其華弊實寡然後敢大舉而至焉由此觀之頻々來舶未必係無石勒祿山亦焉知今日之嘆貌拂骨乃不爲他日之刀夷蒙古乎哉凡禍之生也非生于生之日易曰履霜堅冰至然則賊之測量卽我履霜之戒而窺窬堅冰之禍所當深省此乃予所以懷魯葵杞憂而有斯贅論也抑余雖老慳亦浴承平二百年之國恩安能得默死乎浮文華弊之中焉哉

嘉永紀元冬十月

半隱居士題

引目十條

主本	形勢	輪贏
土著	郷校	海岸
礮臺	御馬	器械
擊守		

海防論

主本第一

此論未知我建國之大跡以余見之却足啓亂賊窺審之端

天下ハ天下ノ人ノ天下ニノ一人ノ天下ニ非ス故ニ堯ハ之ヲ舜ニ譲リ舜ハ之レヲ禹ニ譲ル讓ラント欲スト雖凡讓ベキ徳ノ人ナケレハ則チ其徳アル子ニ譲ル故ニ禹ハ啓ニ譲リ湯武ハ太甲成王ニ譲ル是レナリ我カ朝四海一王千載一帝全世界中ニ比等スベキ者ナシ然レ凡是ヲ一人ノ天下ト思フ時ハ乱臣賊子篡逆ノ患アリテ外夷窺竄ノ端ヲ啓クヘシ故ニ天下ハ天下ノ人ノ天下トノ公道ヲ以テ私ナク君上懐ヲムナシクシテ誠實ヲ下ニ體シ人ヲ疑ハスノ能ク是ヲ容ル、時ハ君臣一體トナリ外ヨリ覗フヘキ間隙ナカルベシ我邦 神武ノ往古ヨリ封建ノ制ヲ以テ國造アリ天智ノ朝始テ國司ヲ置キテ郡縣トナル天運循環一興一廢藤氏權ヲ縦マ、ニノヨリ天子ハ虚器ヲ擁ス保平以後ハ武將權ヲ握ツテ藤氏マタ虚器ヲ擁ス鎌倉氏親府ヲ開シヨリ四海ノ號令一手ニ出ツト雖凡其權ハ北條

確割ノ誤カ

氏ニ在リテ覇府ハ亦虚器タリ足利十三世ノ覇業最モ盛ナリト雖モ其權其器並ニ虚ニ屬シ英雄ノ確據基_ト不期ノ再ヒ封建ノ勢ヒトナリ戰鬪幾ト三百年四海ノ極乱ル矣凡ソ戰國ノ習ヒ干戈ヲ以テ翫具トシ殺戮ヲ以テ生業トス其レヲノ閑暇ナラシムレハ驕恣傲慢ヲ生ス其レヲノ富饒ナラシムレハ非望不軌ヲ謀ル則チ其強暴至ラサル所ナシ豊太閤天資明敏蚤ク時運ト時勢トヲ洞見ノ奇算雄略ヲ以テ諸侯ヲ大阪ニ聚メテ其妻子ヲ質タラシム且ツ之レヲ遠征ニ役シ之ヲ土木ニ役シ其強暴ヲ馳スルニ暇ナカラシム烈祖繼興シ神聖英武ノ資ヲ以テ天下塗炭ノ久キ人心兵ヲ厭フヲ識ル於是乎深慮スルニ豊公ノ權宜實ニ強禦ヲ鉗制スルノ術ニ出ルニ過スト雖モ然レモ民ト休息スルニ非レハ虚器ノイヨ、虚ニ救フヘカラス器ノ器タルモ亦混焉トノ復タ見ルヘカラス是故ニ姑ク其沿襲ヲ以テ諸侯ヲノ四時享祀ノ例ノ如ク江戸ニ交番ノ其妻子ヲ置ク是レ其跡ハ霸道ノ詭譎ニ涉ルニ似テ其實ハ天子翼戴ヲ專務トノ百姓塗炭ノ急

ヲ救フユエンナリ蓋シ烈祖ノ意豊公ノ權宜ヲ欽メ是ヲ以テ諸侯ノ反覆ヲ鉗制スルニ非ス是亦武王ノ兵ヲ偃セテ民ト休息スルノ意ナリ夫レ武王ノ縱馬放牛天下ニ復タ用ヒサルヲ示スハ用サルニ非ルナリ之ヲ翫具ニ用ヒサル也之ヲ殺戮ニ用ヒサル也乃チ其用ヒサルハ乃チ後ノ非常ニ用ヒント欲スルユエンナリ故ニ武王ノ尸未タ冷ヤカナラサルニ周公既ニ武庚管叔ヲ討シ成王東夷及ヒ奄ヲ殘ス其後召虎平淮夷方叔征荆蠻吉甫伐玁狁モツテ用室中興ス然レハ則チ昔日縱放ノ牛馬ハ乃チ今日ノ要物也昔日偃藥之弓刀ハ乃チ今日ノ要器也是ニ由テ之ヲ觀レハ烈祖ノ豊公權宜ヲ沿襲スルハ後世今日ノ非常ノ用ニ立テシメントスルユエン也嗚呼烈祖ノ成算既ニ二百年前ニアリ今日吾人はヲ感銘セザルベカラズ獨リ吾人ノ感銘スベキノミナラス方今當路ノ人ヨリ士庶民ニ至ルマテ苟モ徳川ノ澤ヲ蒙ラン者豈感銘セザルヲ得ンヤ抑モ夫ノ成算ハ何ヲ以テ知ルヤ烈祖遺訓ニ二戒アリ曰我カ邦昌平久キカ外國動乱アル

カ必ス我ヲ戒懼スベシト是則チ今日ノ第一義ニ有テ志ノ士著眼スベキ所ナリ如何トナレハ我カ邦今日ノ昇平干戈ヲ見サルコト二百三十年是レ一戒トスヘシ滿清壬寅ノ外寇動乱是レニ戒タリ加之ニ西賊鄂羅啖嘯ノ窺竅ヲ以テス豈亦一大戒懼ナラズヤ此時ニ當テヤ天下ヲ以テ一人ノ天下トナスベカラスモシ一人ノ天下トナセハタ、其虚器ヲ擁スルノミニテ其權ハ蠶起群雄ノ手ニ歸シ四海鼎沸万民瓦解シ神州ノ神州タルコトイマタ知ベカラズ是故ニ君上己レヲ虚フノ人ヲ疑ハス天下ハ天下ノ人ノ天下トメ、國常神武ノ基業ヲ曠シカラシメス天運ノ循環ヲ推シ時勢ノ公私ヲ量リ諸侯ノ海防アル者悉ク藩ニ歸シ或ハ三年又ハ五七年其公役路費ヲ以テ國儲トシ其士氣ヲ養ヒ其武備ヲ修メテ以テ非常ノ警衛トシ其形ハ封建ニ其制ハ管轄團練シ其跡ハ郡縣ニ非スノ其用ハ義勇軍ヲ建テ一國一郷君臣上下死生存亡ヲトモニ我カ、神國ニ殉スルコト今日ノ急務ナリ昔シ項籍ハ太公呂后ヲ質トスト雖モツイニ漢高ノ爲ニ亡

フ王陵ノ母ヲ質トスト雖モツイニ其母ノ死ヲ以テ其子ノ志ヲ一ニセシム我カ關原ノ役ニ石田三成太閤錯制ノ質ヲ餌トシ七雄ヲ招ク、烈祖ノ大量諸侯ヲ悉ク大阪ニ歸ラシムト雖モ諸侯、烈祖ノ恩義ニ服ノ妻子ヲ棄テ顧ミス於是細川夫人死ヲ以テ其夫ノ志ヲ一ニセシム亦王陵ノ母ノ如シ然ラハ則チ質何ソ頼ムニ足ラン適々以テ人ヲ激シ其鋒銳ヲ堅確ナラシムルニ足ルヘシ、大猷大君即位ノ初諸侯ヲ各々其藩ニ歸シ其爲ル所ヲ縱マ、ニセシムト雖モ諸侯其威德ニ服ノ一人ノ歸藩ナシ嗚呼烈祖、大猷ノ大量アリテ然カノ後ニ天下ノ器九鼎泰山ヨリ重モカラシム夫レ如此ノ威德恩義アリテ然カノ後ニ北虜西夷ヲモ征スベシ亦何ソ今日ノ洋賊ヲ恐ル、ニ足ランヤ是レ我海防第一ノ本旨主策ナリ

形勢二

治乱興廢ノ形勢ハ一郡一州ヨリノ天下ノ形勢ニ係ル天下ノ形勢ハ沿海禦防ヲ察スルヨリ先務ナルハナシ沿海ノ禦防ハ諸侯封建ニ非レハ能ハ

ナルヲ三十年前カツテ海防策中ニ論セシ如ク封建ノ制ナレハ天子ノ命令ナクモ諸侯各々己レカ封内ヲ失ハンコヲ恐ル、故ニ防禦ト、ナフベシ如何トナレハ外寇寸壤ヲ侵セハ諸侯寸壤ヲ失ナフ外虜尺地ヲ掠ムレハ諸侯尺地ヲ喪ナフ譬ヘバ豺狼ノ肌膚ヲ噬フ如シ其意ニ任セテ棄ラケハ我ガ肉謁キ我身斃ル之ヲイカンソ防禦セザルベケン加之宗廟アリ社稷アリ士民ノ田廬墳墓アリ故ニ闔國一心封内ト與ニ存亡ノ死生スベシ若シ夫レ郡縣ノ守尉令吏ハ官職ヲ視ルコ逆旅ノ如ク士民ヲ遇スルコト士直ノ如シ寸壤尺地スヘテ縣官ノ物ニテ失フモ得モ我ニ損益ナシ況ヤ刀筆算背ノ敵愾ノ志アル者百中一二ナキヲヤ此論ステニ三十年前ノ腐説ナレト近キ天保甲寅ノ滿清カ喫賊ニ破ル、コ已テニ適証ナリ我恐ラクハ我カ今日ノ形勢モ亦タ或ハ如此ナルヘシ是故ニ首本ニ云如ク沿海ノ諸侯ハ四時享祀ノ參勤ヲ免シ其交代ヲ緩ニノ三年五年或ハ七八年其封内ニ在ツテ士民ヲ撫育ノ日夜武備ノ怠慢ナカラシメ且ツ太宰純カ

所謂四分一ノ法ヲ以テ義倉國儲トシ江戸交代ノ路費ト其砥役ニ當ツル財貨トヲ修築ニアテ鐵城銅壘ト雖凡經營ニ難カラス見付方角手傳於是乎土堡以テ巨礮ニ待シ塹溝以テ天炮ヲ避ケ礮臺煙墩瞭堠遞鋪悉ク嚴重ナラシメ戰艦火伎鎧仗器械悉ク精練ナラシメ之ヲ積ムコ五七年其餘資以テ其本城ヲノ七稜八稜トナラシメハ今ノ石城ノ巨礮ニ破碎セラレ飛激ノ我兵ヲ毀傷セシムルノ患ナカルベシ夫レ如此ニ封内肅然民ト與モニ休息ノ外夷ヲ待スル餘力アレハ所謂以逸待勞ノ形勢ト成スベシモシヤ方今ノ形勢ニテハ彼ハ海艦ニテ佚シ我ハ十里二十里ノ奔走ニ勞ス守ト攻ト趣キヲ替ヘ主ト客トノ辨倒置ス若シ果ノ主客勞佚倒置セハ歲月ノ久キ凶僅其ノ間ニ投シ癘疫其際ニ行ハレ財匱キ食罄キ力竭キ人尽キ駭々乎トノ俄羅斯列薩腦特ノ環海虛咄ノ策及ヒ詩阿西多ノ洋中妨海運ノ謀ニ陥ラントス抑モ亦恐ヘカラズヤ故ニ諸侯タル者民ト休息ノ國儲アマリアリ武備精煉ノ虞ヲ以テ不虞ヲ待テハ海面夷艦掩襲ストモ聊カモ驚ベカラ

ス又容易ニ動ヘカラス其遠近ヲ測リ虚實ヲ量リ果シテ岸上ヲ窺フヤ否
 ヲ檢メ後一發壘粉スベシ若シ夫レ然ラズメタ、ニ船影ヲ見テ一恐怖ヲ
 喫シ其情僞モ辨セズ空シク藥丸ヲ海中ニ委棄セバ狡猾虜ノ物笑トナル
 ヘシ蓋シ是等ノ節制處置ハ諸侯自ラ其地ニ在ニ非レハ威德アラハレズ
 號令行ハレズ士民守ル所ヲ知ラズ其志一ナラズ其志一ナラザレハ恐
 ルヘキヲ恐レスノ恐ルヘカラサルヲ恐ル、ニ至ルベシ夫レ恐ヘカラサ
 ルヲ恐レテ寇ノ來ルト來ザルトヲ論セス沿海諸侯ノ戍兵一年三百六十
 日目ヲ瞋ラシ臂ヲ攘ケ唯帆影是望ム亦タ勞ナラスヤ是ヲ兵法ニ鈍兵ト
 云詩ノ清人ヲ賦シ瓜期ノ人ヲ怠慢セシムルユエンナリ若シ夫レ諸侯ノ
 威德ヲ以テ號令ヲ示セハ所謂不肅而嚴ニノ士ハ日夜ニ訓練シ民ハ旦暮
 ニ耕耨シ是所謂國家間暇ナル者ニノ是ヲ號ノ逸ト云我レ此逸ヲ以テ彼
 ノ膚ノ萬里ノ遠洋ヲ踰ルノ勞ヲ待ス是所謂以逸待勞者也黠虜何ソ畏ル
 、ニ足ランヤ兵法ニ曰ク無恃其不來恃吾以有待之是之謂也唯其畏ルヘ

キハ今ノ形勢ナリワツカニ一二ノ漂舶ヲ以テ諸侯ノ動搖甚ク不日ニ
 財力トモニ勞トテ人心穩カナラス若シ是ヲ積ムト數年ナレハ蕭牆ノ變
 測ルヘカラス黃巢李自成何レノ世カナカランヤ利誘ノ奸モ亦防ヘカラ
 ス汪直素卿何レノ地ニカ出サランヤ凡ソ蚩氓ノ情飢會困獸ノ如シ其窘
 迫スルニ及ンテヤ獨リ己ヲ撻スル人ヲ搏噬スルノミナラズ亦タ己ヲ養
 フ人ニモ及フ夫レ死ハ一死ナリ餓モ亦死シ叛モ亦死ス况ヤ欄外犯禁ノ
 徒此土ニ在レハ終身囹圄ニ幽死ス彼土ニ在ルヤ一日一死ヲ脱シ半年半
 生ヲ保ス朱明ノ和寇滿清ノ曠賊皆是一死一生ヲ僥倖スル徒ノ導ク所也
 故ニ今ノ諸侯ヲハ腹心股肱一體トノ疑ハス是ヲ以テ他日ノ賊ヲ豫備ス
 ルヲ實ニ是レ今日急務ノ秋也夫レ他日ノ賊恐ルベシト雖モ節制處置宜
 シキヲ得テ不饑不寒民ヲ死ヲ致サシムレハ猶恐ル、ニ足サルベシ唯
 ヲ夫レ俄羅ノ列薩淳都ノ謀策ノ如キ實ニ是レ一大戒懼ナル者ナリ苟シ
 クモ是ヲ防カントスルハ諸侯扞蔽ノ力ニ非レハ能ハス心腹股肱一軀ニ

非レハ能ハス是我カ今ノ形勢ヲ察スルヲ急ニスルユエン也

輸贏三

恐ルヘキノ恐ル、ヲ知サレハ勇ニ似テ勇ニ非ス恐ルベカラサルノ恐ル
 ベシトスルハ怯ニ似テ怯ニ非ス勇怯ノ間ハ遠智遠識ノ者ニ非レハ勇ノ
 勇タルト怯ノ怯タラザルトハ得テ辨ズベカラス今姑ラク其似タル者ヲ
 以テ論ゼンカ今ノ西洋ヲ恐ル者ハ其恐ル、ニ足ラサル所アルヲ知ラズ
 風聲鶴唳ヲ聞テ陳不占ノ如ク畏死スベシ其恐サル者ハ鶴唳^{コウシツシツ}吞棗^{ツウサウ}警旨不
 畏蛇ノ類ニテ恐ルベキ所アルヲ知ラサルナリ兵法ニイワズヤ知彼知己
 百戰不危ト今ノ外夷ヲ恐ル、者彼レハ何ノ意欲アル彼ハ何ノ伎倆アル
 我イツレカ長シイツレカ短ナル彼ハ和ニ利ナルカ我ハ戰ニ利ナルカヲ
 知ラス唯我カ神國ヲ頼ミ我神風ヲ便ヨリ修齋誦經誓佛祈天耳ニ具鼓ノ
 音ヲ聞カズ目ニ旌旗ノ影ヲ見ス己レカ服スベキ兵具ヲ辨ゼズ己ガ立ヘ
 キ行伍ヲ識ラス人砲聲ニ驚ケハ馬モ亦奔騰シ人風浪ニ暈スレハ舟モ亦

顛覆ス是レ不占ノ流ニ未タ與ニ海防ヲ論スヘカラス其或ハ剽悍ヲ以
 テ任スル者ハ亦是レ瞽盲ノ勇ニ寇艦ノ堅脆多少ヲ論セス一彈擊却ヲ
 上策トノ疑ハス是マタ兵道ヲ議スルニ足ラス抑モ且ツ異シムヘキハ古
 來擊却ノ說ナリ異船ノ動靜情實ヲ察セスノ打拂ヒトアルハ我ヨリ彼ノ
 意ヲ迎エ彼ヲ激セシムルニ近シ且ツ打拂ヒト云フハ商船漁舟ノ如キ
 彼ニ備具ナケレハコソ打拂ハレモシツヘシト雖モ彼ニモ打拂フ器備ハ
 レハ彼モ亦我ヲ打拂ハントスヘシ我ニ十貫ノ砲アレハ彼ニ百貫ノ砲ア
 リ且ツ我カ的トスル所ハ彼カ二三艦ノ小的ニテ剩サヘ海中ヲ動搖シテ
 照準定ラス彼カ的トスル所ハ我カ海岸十里二十里ノ大的ニシカモ陣
 營遷移セス吾レ恐ラクハ我カ彼ヲ打拂ハントスルハ却テ彼ニ打拂ワル
 、道ニアラズヤ凡ソ俗兵家ノ頼ノム所ハ砲ナリ然レモ砲ハ彼ヨリ傳フ
 ル器ニテ我ニ三百年ノ鍛煉アレハ彼ニ六百年ノ鍛煉アリ況ヤ我ハ昇平
 二百年ノ翫物トナリテ故態固陋ヲ守ルノミ彼ハ今日戰鬪ノ實地ニ用ヒ

ヲ試檢精妙ノ巧ヲ極ム故ニ我砲ヲ以テ彼砲ヲ擊ツハ潦水ヲ以テ海水ヲ
 擊ツカ如シ實ニ我カ下策ノ下ナル者ニテ替旨ノ勇客氣ノ銳恐ラクハ未
 タ獷犇跋扈ノ西賊ニ當ツヘカラス吾カツテ史ヲ讀テ孫臋カ上下駟ノ說
 ニ至テ髀ヲ拊テ西賊ヲ伐ツヘキヲ悟ル夫レ砲ト艦トハ彼カ長スル所ノ
 上駟ナリ我ニ於テハ短ナル下駟トシ是ヲ彼ニ當ツ騎戰歩闘ハ我カ長ス
 ル上駟ナリ乃チ彼レカ長セル中駟ニ當ツ弓箭ヤ長槍ヤ眉尖ヤ拳法ヤ角
 觥ヤ我カ長スル中駟ヲ以テ彼カ下駟ニ當ツ然レハ則チ二駟贏テ一駟輸
 クルト雖モ其輸ル所マタ贏ニ非スト決シ難シ如何トナレハ彼ハ客戰ニ
 テ水上ニ駟レスタバニ海艦ヲ頼ミ走路ヲ頼ミ拙速甚陷ノ銳氣ナシ況ヤ
 尖峽闇礁ノ危嶮ニ熟セス長ク不測ノ遠洋ニ錨ヲ置クヘカラス若シ夫レ
 ハ頑夷駭虜タトヒ其徵鋒ヲ頼ミ或ハ上陸スル半歲一歲艦中ニ臥食ノ土
 地ヲ蹈マス獨腿肉鼓張ノ短氣喘息ナルノミナラス筋脉緊擥腰脚痿軟ノ
 奔走ニ自由ナラス於是乎我カ長スル所ノ神變妙技ヲ以テ彼カ下駟ヲ掩

擊セハ瞬息ノ間ニ塵穢ノ漿艘舵檣ヲ一炬ニ属シ匹馬隻輪ヲノ歸サシメ
 ス彼ノ白黒夷ノ耳填ハ我長崎ノ京觀トスヘシ豈亦タ一大快事ナラスヤ
 然リト雖モ兵道ハ全勝ヲ貴ハス全勝スレハ我レ意リ彼レ怒ル彼怒ルノ
 銳ヲ以テ怠ノ虚ヲ衝クハ越王ノ吳ヲ亡スユエンニ田單ノ燕ヲ覆ヘス
 ユエン抑モ又タ符堅百万ノ驕兵謝兒三千ノ怒兵ニ敗シ木曾義仲挾天子
 ノ猛兵栗津一杯ノ土ト化ス都テ是レカノ意中ヨリ來ルニアラスヤ是故
 ニ全勝ストモ其後圖ヲ備ヘサレハ彼ノ一敗塗地ノ餘燼復タ燃サルヲ保
 シ難シ抑モ夫ノ後圖ヲ慎シムハ怯ニ似テ怯ニ非ス全勝快活ヲ誇大ニス
 ルハ勇ニ似テ勇ニ非ス三略ニ曰ク能柔能剛其國彌光ト勇怯ノ間ハ必ス
 其人ヲ待テ而ノ後始メテ談スヘキナリ

土著四

一興一廢ハ時運ト時勢ニテ封建郡縣並ヒ行レテ相悖ラス然レモ方今ノ
 時勢ハ封建尤モ其處置宜キヲ得タリ但ソノ万石以下ノ采地マタ海岸ニ

在リ今俄ニ是ヲ代ヘントスレハ徒ニ動搖ノミニテ民心穩ナラス故ニ先
 ツ其小ナル采地ノ兵ハ之ヲ團練ノ近隣諸侯ニ管轄セシム其或ハ官地ニ
 隣スルハ官ノ縣令ニ屬ノ指揮セシム是乃古者監軍ノ法ナリ然レハ漢唐
 ノ宦官監軍ノ如キニテハ是レ兵法ニ所謂廢軍ナル者ニテ李光弼ハ監軍
 ニ因テ敗シ裴度ハ監軍ヲ去テ蔡州ヲ平ラク以テ見ルヘキナリ乃チ其團
 練ノ法ハ諸侯スヘテ其士ヲ土著セシムルコト烈祖ノ峻府ニテ旗下士ヲ
 土著セシムル法ニ倣ヒ熊澤了介カ備前和氣郡ニ諸士土著ヲ立シ制ヲ學
 ヒ老者ハ日々鄉村ヨリ本城ノ往還ニテ食ヲ消シ弱者ハ日々山壑佃獵ニ
 運動シ加之野戰水闘ノ訓練アレハ軀体毎ニ強健士氣必勇銳ニテ非常ノ
 護衛モ備ルヘシ諸士團練調フ上ハ民兵モ亦團練スヘシ如何トナレハ世
 祿ノ士ト雖凡人生稟賦ニ虛弱アリ恒怯アリ廢病アリ是ヲ概ノ悉ク警衛
 ノ數ニ充カタシ故ニ其闕ヲ民位ニ取ルハ魏ノ宇文泰カ府兵ノ制ニテ民
 ノ才力アル者租庸調トモ一切ニ之ヲ蠲キ是ヲ以テ義勇トスヘシ若シ夫
 年貢夫如

レ山野ハ是ヲ獵夫ニ取ル天草ノ役ニ細川ノ川北カ地銃砲ヲ差ムカ如シ
 海涯ハ是ヲ蟹戶アサギ縫丁ニ取ル亦唐山ノ漁兵ニ倣フナリ諺ニ云フ耕當問奴
 今ノ砲家ト雖凡活物ニ至テハ獵夫ノ崎嶇ヲ奔馳ノ走獸ヲ斃スニ如サル
 ヘシ今ノ官柁工ト雖凡漁人ノ奮颯怒濤ヲ簞席ノ坦途トナスニ如サルベ
 シ夫レ是ヲ團括御舟手ノ義軍トス四時ノ農隙鄉學ニ入り孝悌忠信ヲ修ムルノ
 外之ニ甲シ之ニ冑シ刀槍弓馬マタ熟煉セシム則チ耳常ニ金鼓炮銃ヲ聞
 キ目常ニ鎧仗麾旗ニナレ西賊ノ非常アリト雖凡畏懼セザルベシ是レ古
 人ノ土兵ヲ建ルユエンナリ今ヤ四海虞ナク諸侯征役戍兵ノ公務ナシ故ニ
 世祿ノ諸士餘リアリテ散官散位待詔ノ類多ク其職ナキ者或ハ無役寄合
 ト稱シ又或ハ小普請ト號ス其常祿ノ内幾箇ヲ納レテ職務ノ代リニ當テ
 遊手素餐ノ白徒少カラス所謂無恒產者因無恒心觀花翫月是事トシ酬酒
 淫樂是耽ル其流弊ツイニ放肆邪侈至サル所ナク家ヲ覆ヘシ祭ヲ絶ツ亦
 何ソ海岸防禦ニ暇アランヤ今モシ舉ノ之ヲ土著トシ經ヲ帶テ勦キ劔ヲ

掛テ耘リ民ト苦樂ヲ俱ニセハ稼穡ノ艱難モ知ヘキナリ魯語曰ク瘠土之民嚮義勞也モシ其勞ヨリノ義ニ向ヘハ海岸防禦ノ艱苦ニモ亦堪ヘキナリ若シ夫レ此制ヲ推テ以テ縣官ニ用ヒハ諸侯監門防火ノ役ヲ停止シ旗下閑散土著ノ士ヲ以テ之ニ當テニカノ藩士三五個見付火之ニ履保ヲ率ユルニ勝ラズヤ今世兵家者流獨リ世祿ノ士ヲ尊尙ノ農兵士軍ヲ賤シム者アリ然レモ傳説呂望ハ板築漁者ヨリ興リ諸葛王猛ハ農桑ヨリ起ル且ツ我カ加藤福島ノ徒豈亦尽ク閑閑ニ出ンヤ嗚呼今ノ世祿ノ士果ノ悉能弓砲槍劍火技水練ニ熟スルヤ將タ茶經瓶史ニ熟スルヤ抑モマタ筑箏三絃猿樂ニ熟スルヤ是イマタ知ルヘカラス然リト雖モ時運時勢一廢一興アリ今ノ茶花箏絃ノ臭風ワツカニ一廢スレハ必ス實用ノ一興アラントス其興廢ノ驗ハ吾レ必ス土著ニ於テカ之ヲ見ン

郷校五

一國有學一郷有校郡下ハ學ニ入り海岸遠郷ハ校ニ入り文教ノ餘力常ニ武

備調練ス其學フ所ハ兵學弓砲槍劍水練及ヒ棍法拳法角觝ニ至マテ諸流諸藝各々其秘訣ヲ傳ヘ合セ互ヒニ其秘濫ヲ明シ合ヒ其交ル兄弟ノ如ク華法ノ受授ヲ去テ我カ流ヲ私セヌ國家ノ爲ヲ專一トスヘシ若シ其流ヲ守ルヲ主トノ國家ノ大事ヲ後トスルノ鄙劣ナル流ナランニハ君祿ヲ食ノ其君ヲ後トスカ、ル不義ノ流不忠ノ士國ニ益ナシ速カニ放逐スヘシモシ或ハ其放逐ヲ甘ンスルノ士ナレハ其身ノ漂泊浮浪ノ餘外夷私通ノ姦計ト雖モ敢テセサルナカルヘシカ、ル不軌不倫ノ士ナレハ速カニ誅戮ノ我國ノ後患ヲ遺スベカラズ蓋シ兵家ノ甲州越後北條山鹿長沼ノ諸流各ソノ長アリ獨リ此ヲ崇ンテ彼ヲ駁スヘカラス夫レ水鑑二十四卷ノ内築城ノ制尤モ精密ニ遺憾ナシ然レモ是ヲ今日ノ海岸ニ用ユヘカラス要簡一集議論嚴然天下國家モ治ムヘシ然レモ是ヲ海防ニ用ヘカラス北條氏諸家ヲ折中ノ至レリ尽セリ然レモ是ヲ夷艦洋賊ニ用ヘカラス山鹿ノ土圍曲尺戰法甚巧ト雖モ是ヲ巨砲ヲ碇サエキル堡障海城ヲ擊ノ軍

策トナスヘカラス長沼氏天官ヲ廢スルノ見識慧眼炬ノ如ク千古ノ確論
ト雖モイマタ西賊ノ針盤測量ノ精妙ヲ看破スルヲ能ハス弓馬槍劍ノ諸
流亦然リ或ハ彈丸ノ秘アリ或ハ大星ノ傳アリ或ハ氣劍體一ノ訣アリ或
ハ身ヲ棄テ浮フノ悟アリ各々神奇妙處ノ一理是モ亦取ヘシ彼モ亦捨ヘ
カラス唯ソノ妙處ヲ以テ諸流各一致セハ異賊恐ルニ足サルヘシ司馬法
ニ曰ク將心モ心也衆心モ心也ト故ニ衆心一致スレハ即チ將心トナル所
謂凡勝三軍一人勝トアル如ク一人ノ心ハ千万人ノ心ナルヲモシ千万人
各其心ヲ以テ心トセハ國ノ存スル所ノ者ホトント稀ナリ今ヤ諸流ニ口
訣秘傳アルハ乃是昇平ノ流俗其口ヲ餽スルカ爲ノ花法ナリ或ハ曰ク諸
技ノ說ハ吾レ命ヲ聞ヲ得タリ不知棍法拳術角觝ノ如キ亦海防ニ用アリ
ヤ曰ク我ソノ敵艦ニ超乗ノ虜ト接近シ或ハ上陸野闘ノ際若シ我カ器械
ヲ失シ白手賊ヲ生擒センニ彼ハ長大ニノ膂力アリ是時ニ當テハ棍拳角
觝ノ術第一タリ故ニ俞大猷ハ棍法ヲ述ヘ戚繼光ハ拳法ヲ唱フ盛衰記ノ

愛澤組打ノ說ハ亦角觝ヨリ發明スル所ノ妙致ナリ是ヲ以テ今コレヲ鄉
校ニ配シ彼ノ術ヲ取リ此技ヲ取リ異流別派ヲ一致ノ膚賊ヲ擊ントス吳
子曰一人學戰教成十人十人學戰教成百人尉繚子曰万人之闘不如百人
奮ト皆是レ一心一致ニ神勢ニ由ル者也若夫レ百人ハ百人ノ心ニテ我
流ヲ祕シ万人ハ万人ノ心ニテ我傳ヲ祕シ己レニ私ノ國家ヲ後トセハ國
ノ典刑ニ於テ誅スベシ夫レ吳人與越人相惡也當其同舟濟而遇風其相救
也如左右手嗚呼此語ヤ今ノ花法ヲ祕シ我カ日本ノ爲ヲ思ハサル俗兵
者ノ^カ^ラ^テ^ハ^シ^ルトスヘシ

海防論

海岸六

往昔先王ノ制邊地堡障ヲ築キ燧燧ヲ設ケ海防ヲ慎ムモノ至レリ令ニ曰
ク凡三邊諸郡人居皆於城堡內安置又曰ク斥燧隨便宜安置ト則コレ古制

ノ嚴ナルヲ見ヘシ乃チ續日本後記紀カニヨレハ桓武ノ朝邊要之地不許開田以警虞アリ然レテ燧燧ノ事廢ス故ニ扶桑略記ニ云檢令條諸國置燧燧至延曆年中永從停廢而今寇賊數來請依舊置燧燧者ト亦證スベシ若乃長德南蠻ノ襲寬仁刀夷ノ警果ノ堡障燧燧ノ戒備アルカ弘安蒙古ノ時スデニ此警虞ナシ故ニ賊長驅侵掠ノ長門鎮鑰ヲ失スルニ至ル爰ニ於テ乾元年間九國侯伯ヲノ海濱ニ石垣ヲ營築セシメ又兵船ヲ瀕海要地ニ備テ復古ノ制ニ歸ス然リ而ノ正慶二年北條氏亡ビテ異賊防禦ノヲ復タ廢ノ五百年ノ今日ニ至ル歎ズベキ哉今若シ是ヲ復古セントセバ急速ニ便スベカラス故ニ先ツ一里一堡障ヲ築キ三里一燧墩ヲ建テ其堡ハ巨礮幾坐大銃幾門盆彈奮弩火箭火球滾木播石ノ具悉ク備エ其墩ハ巡邏瞭守輪班望候急脚驛遞ヲ嚴ニシ狼煙號砲晝燧夜燧及ヒ晴雨ノ期スヘテ愈大猷威繼光ノ約束ノ如クナルベシ然レモ今ノ諸侯恐クハ十年ノ國儲アルモノ或ハ少シナリ則チ此堡障壘墩ヲ築ンコ容易ナラズ故ニ主本ニ云ク三年又ハ

七八年ノ交代ヲ緩フシ其官役ヲ除キ以テ舊役ニ充テハ一年ノ内ニ其形略就ベシ其大砲ハ次ノ砲臺製ニ載ル如ク縣官ヨリ助クベシ但ソノ陸地ノ諸侯ハ非常ノ遊軍一隊ヲ隣境接スル海岸諸侯ニ屬シ海運鈔劫ヲ護送セシム關西ハ山陰諸道關東ハ東山北陸スベテ海防ニ關係ナキ諸侯ヲ此海運護送ニ因テ水情ヲ得セシメハ水關ノ操鍊トモ成ベキナリ故ニ謝在杭モ亦海運ヲ論ノ曰ク使諸軍士因之習於海戰ト亦明儒ノ用意見ルベシ今夫レ陸地ノ諸侯我カ海國ニ生シナガラ海情ヲ知ラスモシヤ隣境海岸ノ援兵ノ時偶然狂瀾洶湧ニ遇ハ、唯暈嘔ニ暇アラズ將タ焉ンゾ賊虜ヲ防クノ伎倆アラン文久年間元使趙良弼ハ我カ築紫ノ地形人氣ヲ諳ノ歸ル寶永年間蘭人檢夫爾ハ我カ海崖險峽ヲ諳ノ歸ル夫レ如此異人ニ能ク諳熟スルトコロヲ我レ其國人ニ見知セス是ヲ度外ニ於テ可ナランヤ且ツ夫レ海運ノ船製ハ先輩ノ說ノ如ク慶長ニ復古ノ西洋船ニ習ベシ護送ノ兵士是ヲ以テ訓練トセバ洋中啗喝巽悚ノ賊患ナカルベシ凡

ソ我邦人情仁厚勇義ヲ尙ンテ篤信餘リアリ故ニ獨リ神國ノ尊キヲ頼ミ
 環海ノ嶮ヲ頼ミ自ラ金甌無缺トシ慢然トノ曰ク夷賊唯我カ稻米ヲ貪饜
 スルノミ若シ敢テ願フ朶レントセハ女真蒙古ノ覆轍以テ鑿スベシト殊
 ニ不知是皆カノ篤信中ヨリ來ル故ニ彼ノ釋教ハ我カ尊信ノ篤キ所ヨリ
 鈎鍊ノ取入り遂ニ我ガ神國ヲ今ノ佛國トナス蘭人ハ我カ篤信ノ厚キ
 所ヨリ遊說ノ萬國ヲ讒シ己レ獨リノ利ヲ網メ我ヲノ朦々タル夜國タラ
 シム若シ其險ヲ頼ムハ吳陳ノ滅スルユエン金甌無缺トスルハ梁武ノ亡
 フルユエンナリ且夫女真ヤ蒙古ヤ陸生ニシテ海情ヲ知ラス然ラハ則チ我
 カ此二賊ニ勝ユエンハ我カ海戰ニ巧ナルニ非ス彼カ海戰ニ拙ナキナリ
 抑モ今ノ西賊ハ之ニ異ナリ大洋ヲ見テ坦途トシ戰艦ヲ床褥トス狡獪
 穽ノ甚キコト二賊ノ比ニ非ズ豈是ヲ律ノ輕侮スベケンヤ且ツ彼レ常ニ麥
 粉牛肉ヲ食ノ稻米ニ汲々トセス則チ彼カ稻米ヲ捨棄スルハマサニ我カ
 糧道ヲ硬絶ノ我ヲ奔命ニ勞シメント欲スル計ニ過サルノミ然レモ斯策

ヤ上篇形勢ニ云如ク列薩^レ腦^ノ特カ環海虛嚇ノ策^ハ淳^ホ阿^シ西^ト多カ妨海運ノ謀ニ
 ノ戒懼ノ第一ナル者ナリ是故ニ堡墩ハ令ニ復古シ巨舶ハ慶長ニ復スル
 ヲ肝要トス昔者符丕ハ糧道絶シテ松木ヲ削ノ食トス朝鮮ノ乱ニ糧食尽
 テ松皮柿實ヲ餌トス我カ文永蒙古ノ襲フヤ西國ノ運糧ナク京師飢色ア
 リ相謂曰ク縱ヒ蒙古ナシト雖モ如此ノ飢渴ニテハ死スルコト遠カラスト
 亦近鑿ナリ苟モ堡墩嚴ニシテ海運妨ケナクハ格^コ古^クカ測量ノ妙^コ兀^ク老^ク尹^クカ奸
 智ノ巧ト雖モ我亦何ノ恐ル、所アラシ...

礮臺七

夏殷周三代射御之道後世戎狄ノ突騎ヲ防クニ足ラス趙ノ武靈ニ至テ車
 戰ヲ廢ノ騎射トナル是戎狄ノ長スル所ヲ我ニ取テ其術ヲ以テ彼ヲ禦ク
 ナリ亦勢ノ然ラシムル所ナリ是故ニ我カ弓箭ノ術洋賊ヲ防クニ足ラス
 乃チ弓ヲ廢ノ砲ヲ用ルハ賊ノ長スル所ヲ我ニ取テ其術ヲ以テ彼ヲ禦ク
 亦勢ノ然ラザルヲ得サルナリ亦猶都兒格ノ築城發礮ニ拙ニシテ其敵タル

俄羅斯映咭ノ製ニ倣ヒ其敵ヲ擊却スルノ意ノ如シ我邦往古ヨリ弓箭ヲ以テ足レリトス炮アルヲ知ラス傲然トシ自ラ稱シ弓取ト云陋ト云ベシ永祿以後始メテ砲ノ弓箭ニ勝ルヲ知ル然レモイマダ巨砲ヲ知ラス今ヤ此術大ニ開ケ乳臭兒ト雖モ動ハ輒チ曰ク忽礮ナリホウイッスル白礮ナリモリチル一耳礮ナリ百機ベキサシ私ナリ是レ以テ堅艦海城ヲ擊破スベシ狡虜猾夷ヲ防禦スベシト噫談何ソ容易ナルヤ抑モ又後來カノ巨砲ノ外更ニ神造妙器出シモ知ヘカラス昔者 烈祖武田氏ノ火繩ヲ横田ニ問フ横田曰ク柿汁ヲ石炭灰カニ和シ繩ニ施セハ則チ不滅ト 烈祖嘆賞淺カラス今ヤ火繩變ノ燧石トナリマタ變ノ櫛土兒トナル是レ後世ノ愈變ノ愈巧ナルユエンヲ見ルベシ夫レ砲ハ西洋ヨリ我ニ傳フト雖モ其濫觴ハ亞細亞ナラン周ノ世宗築京城取虎牢土堅密如鏡受砲所擊唯凹而已ト是レ五代スデニ用ユ其後宋人霹靂礮ヲ用ヒ金兵ハ震天雷飛火槍ヲ用ヒ蒙古ハ火砲火球ヲ用ユ且弘安ニ我朝ヲ襲フモ亦此器ヲ以テ我ヲ震懾ス然ラハ則チ此器ヤ亞細亞ノ創造

ヨリ歐邏巴ノ修飾工夫ヲ經テ今ノ精巧トナリ然レ後ニ我邦ニ傳ルナリ凡我邦創造ノ智乏シト雖モ傳習閩色ノ巧ハ萬國ニ冠タリ鳥銃ノ如キ明韓トモニ和銃ト稱シ巨砲ヨリモ珍重ス鳥銃ハ巨砲ノ力ニ及ハスト雖モ巨砲ハ裝藥運轉容易ナラズ巨砲一發ノ間鳥銃二三十發ス天馬記聞ニ載スル島原ノ役ニ蘭人ヲノ砲セシムニ五ポントノ砲ハ終日二三十發ス十二ポントノ巨砲ハ終日ニ六七發スニ止ル況ヤ巨砲ハ野戰ニ便ナラス昔意太利亞都兒格五十比ホント百比ホントノ砲ヲ製スト雖モ不便ニモ實用ナキヲ以テ廢メ用ヒス故ニ我カ砲臺ハ三五貫以上ヨリ二三十貫ヲ以テ一墩ニ數坐ナルベシ野戰ノ如キハ我カ鳥銃ト西洋騎砲トヲ肝要トス乃チ槍砲ノ如キハ必シモ緊要トスベカラズ或曰ク火砲一坐數千金ヲ費ス我レ今何レノ所ヨリ取便セン曰ク吁亦然リ今且ツソノ方略ヲ説ンカ今ヤ邦君低頭而供給ス縣官ノ助力ナラサレハ能ハス源白石管テ我邦金銀銅ノ夷船ヘ出シ數ヲ筭スルニ慶長ヨリ寶永ニ至リ六七十年間銅ハ二億二萬餘斤ニ

至ル然レハ則チ寶永ヨリ今ニ至ル百五十年且ツ幾万幾億カ夷舶ニ棄ル
 ヤ此ノ棄ル所ヲ取材節量シ且ツ銅佛梵鐘ヲ新鑄スルヲ禁セハ巨砲ニ於
 テ何ンカアラン昔シ寛永ノ閣老大佛ヲ鎔鑄シ錢トス當是時也モシ今ノ
 如キ夷警アラハ閣老必ス以テ砲トナスベシ遺憾ト云ヘシ周世宋佛像ヲ
 毀ツテ錢ヲ鑄ル曰ク吾聞佛志在利人雖頭目猶捨以布施況此銅像豈有所
 惜哉ト實ニ是レ佛意ヲ知ル者ナリ昔時蒙古ノ襲フヤ龜山帝其命ヲ以テ
 日本ノ爲ニ代ヘント禱ル烈祖ノ上洛ヤ不思議ノ虎穴ニ陷ルヲ諫ムト
 雖凡烈祖ハ天下ノ爲ニ其命ヲ棄ント誓フ古ヨリ聖主ハ其身ヲ粉塵ス
 ト雖凡辭セザル所ニ在リ今ヤ天下ノ銅佛梵鐘ヲ化シ大砲トナサハ深ク
 佛意ニ稱フベシ抑モ又其身ヲ捨テ以テ斯民ヲ救フハ實ニ彌陀ノ本願タ
 ルベシ

御馬八

古昔ヨリ夷舶擊却ノ說多ト雖凡陸地ヘ導ヒキ是ヲ掩殺スルノ策ナシ何

ソ思サルノ甚キヤ坐食軟脚ノ洋賊ヲ擊ハ突騎ニシクハナシ然レ凡今華
 法ノ馬法一變セサレハ實用トナシ難シ今ノ華法ハ大坪道禪ヲ鼻祖トス
 蓋シ東山氏虛器ヲ虛トシヨリ以來喫茶插花ノ翫好ノミナラス朗詠變ノ
 平家トナリ白拍子變ノ觀進能トナルノ如キ古色一變ノ新様時ヲ追フ皆
 是時勢ノ然ラシム所ト雖凡今日染習ノ弊少カラス況ヤ昇平二百年四海
 舉ノ華法世界トナル殊ニ馬術ノ如キ尤モ甚キ物ニテ近キ天正慶長ノ實
 務ヲ以テ今ノ花法ヲ悟ルベシ今ヤ馬相ヲ論スルヲ馬援カ洞馬經ヨリ甚
 シ然レ凡八駿ノ名馬汗血ノ天馬烏推の廬亦何ノ神相カアル黒田如水ノ
 馬百會ニ矢負ト稱スル凶相アリ然レ凡如水此馬ヲ以テ百戰百勝ス是必
 ス荀子カ非相ノ篇ヨリ悟シナラン後世多クハ上悍ノ馬價貴シト雖凡古
 ノ名將ハ之ヲ貴ハス石橋山ノ役ニ眞田ハ上悍ニテ戰死シ蒙古ノ戰ニ青
 屋カ乗レル上悍口強ク敵陣ニ引レ入り敗死ス故ニ名將ノ堀秀政ハ悍弱
 キ馬ニ乗替テ旗差ヲノ離シメス栗山備後曰ク高價ノ馬ト雖凡二疋ノ用

ニ立ガタシト則チ竹中重治カ所謂十金ノ馬ヲ買ハンヨリハ五金ヲ以テ
 二疋求ムベシノ意爰ニアリ於是乎信玄歌アリ馬師ニ示メ曰ク上悍ノ中
 ノ悍コソ大將ノ乗ベキ馬ト知レヤ武士ト是則チ得船入道カ中悍ヲ主ト
 スルノ説ト符合スベシ今ヤ天然ノ野足ヲ拘撃メ拍子威トス亦猶轎夫ノ
 自然ノ足氣ヲ腰腹ニ收メ輿ヲノ動搖セシメサル如シ嗚呼今ノ馬ノ天然
 ヲ失スル花法ノ罪ハ道禪免レ難カルベシ水府義公曰ク馬ハ頭ヲ低レテ
 後脚アシ、ト雖モ實用ハ野足ナルベシト賢公ノ見識亦見ヘシ若夫レ今
 ノ實用ニ備フベキモノハ犬追物ヲ第一トス擊鞠騎射是ニ亞ク曲馬ナル
 者又是ニ次ク若シ或ハ是ヲメ野足ナラシメハ今ノ牧士ノ如ク嶮谿ヲ飛
 躍シ巖石ヲ夸騰スルノ術トナリ都兒格滿刺把留ノ騎戰ト雖モ恐ル、ニ
 足ラス然リト雖モ時運時勢ハ人馬異ナラス今ノ花法ノ馬ハ殊更ニ四時
 飢飽ノ節ヲ肝要トス春夏蒿艸多キノ日海涯無事ナレハ人己ニ倦ミ馬モ
 マタ倦ム是時ニ於テ蒿秆ニ飽シメハ陰脈蹶張非常ノ用ニ立難シ兵法ニ

曰ク馬不傷於饑必傷於飽亦然ラズヤ秋冬海岸野ヲ清メ水草ニ乏ク雨潦
 風濕時ナラズメ万曆朝鮮ノ馬疫ノ如キ流行セハ亦恐ルベシ是故ニ無事
 ノ際人鎧ヲ解ケハ馬モ亦鞍ヲ脱シ搔鬚ヲ潔フメ天地ノ生氣ヲ入シムベ
 シ或ハ曰ク鬣ヲ摘シ爪ヲ剃スハ馬ノ天然ニ背クベシト然レモ人常ニ被
 髮垢衣ナレハ生氣鬱結スル所ヨリシテ時疫感シ易ク傳染免ガタシ馬モ
 亦然リ故ニ吳子養馬ノ法ヲ論メ曰ク刻剔毛鬣落四下是レ證スベシ夫レ
 馬ハ海防ニ用ユヘカラズ然レモ夷賊ヲ誘キ上陸セシメ我カ長技ヲ以テ
 彼カ短ヲ擊ツハ騎射馳突ニシクハナシ是レ以テ海防ニ備フルユエンナ
 リ唯ソノ實用ト花法ト如何ニアルノミ

器械九

器械ノ制時様ヲ追ト雖モ古制ノ今ニ存スル物實用アリ花法アリ今ヨリ
 戰場ヲ歴ルニ非レバ利不利知ヘカラス昇平ノ世金革ノ何物タルヲ知ラ
 ス弓矢取ト稱スル者素袍捌キノ花法ニテ甲冑ノ射法ヲ辨セス古書ニ云

フ胃ヲ取テ高紐ニ掛ルハ弓ヲ強ク引ンガタメトアルヲ武用辨略單騎要略等ノ俗書ニ欺カレ引合セノ緒ヲ以テ高紐トス笑ベシ近世古實家ト稱スル者略是ヲ辨スト雖凡是亦古制ニ泥ミ所謂干羽之舞可以解平城之圍ノ固態ニテ早乙女明珍ノ製造カ監定帖有ニ非サレハ決戰ノ用トナサズ豈能ク巨砲一發ノ粉塵ヲ免レンヤ然レモ梶原二度ノ掛ケニ馬具足ヲ用ユベシノ穿鑿或ハ烈祖ノ士卒ニ鉄笠ヲ用ユルハ飯ヲ焚クガ爲メノ説ナド講スルハ亦密ト云ヘシ唯夫レ弓法ニ於テハ今ノ指矢ナルモノ夷賊ヲ驚カスベシ是亦古代ニアリ義經紀大物ノ戰ニ片岡カ片膝ヲツキテ射ル堀河ノ夜戰ニ喜三太カ片膝ツキ散々ニ射ル太平記ニ指矢三町遠矢八町マタ筋違矢アリ後世諏訪原ノ戰ニ山内治太カ操矢モ亦指矢ナリ今世砲家多クハ弓箭ヲ睥睨ノ廢棄セントス概論ト云ベシ然レモ弓術ハ人性ニ巧拙アリ其拙ヲ強テ行伍ニ編セバ必敗ノ道ナルベシ故ニ長沼澹齋ハ卒伍一切ニ先ツ弓ヲ學ハシメ是ヲ簡練ノ其拙者ヲ取テ砲手ニ當ツ砲ハ

膽ノミニテ甚シキ工拙ナケレバナリ其見識賞スベシ然レバ則チ弓ノ神工モ亦廢スベカラズ弩ハ我朝用ヒ來ルコト久シ善相公曰ク擊ニ短ニ守ルニ長ズト眞ナリ其製ハ洋蘭ト甚タ異ナラス是レ今ノ必用ノ器ナリ火箭ハ日本記欽明ノ代新羅ヲ征スルニ見ユト雖凡其製詳ナラズ後世其巧ヲ極ルハ楠赤坂ノ戰神保御靈ノ戰ヨリス炮祿火矢モ亦タ太平記ニ見ユ並ニ必用ノ器ナルベシ劔ハ諸流ノ寸尺ニ抱スベカラズ古ヨリ十束ノ劔八束ノ劔定制ナキハ人々長短アリ強弱アリ烈祖ノ製ニ飲喪陀撒トアルハ所謂野太刀ナルベシ後世佐治孫五カ五尺三寸ノ大太刀ハ或ハ爰ニ權輿スカ然レモ義經カ忠信ニイヘルニ太刀ノ延シハアシカ身勞レタル時カナフマシト宇土ノ戰ニ三宅喜藏カ曰ク脇差長クテ南條元琢ヲ組ツ、刺ザリシト是レ長劔ヲ好ザル證トスベシ凡ソ紅夷犬ケ餘リアリカマタ之レニカナフ西魏ノ侯景カ令戰士被短甲執短刀突入敵陣低視斫人脛馬足ツイニ大勝ヲ得シノ妙實ニ今ノ軟脚夷ヲ擊ノ一法ナリ槍ハ日本記

ニ長槍アリ三代實錄ニ鎌槍アリ然レ其製ヲ知ラス蓋シ戈鋒ヤ大太刀
 ヤ一變ノ眉尖偃月ト成リ又ダ變ノ槍ト成ルカ故ニ私安記ニ蒙古カ槍ト
 號ノ長サ二三間ハカリノ大鋒ヲ揃エ突出ルト見ユレハ此時ハ未タ我ニ
 ナキ具ナリ其後ヤ吉江和田楠等之ヲ用ヒシト太平記ニ見ユ横槍ノ一ハ
 應仁記ニ見エタリ明韓トモ我カ竹柄長槍ヲ恐ル、ト諸書ニ見ユ威南塘
 曰凡長槍鋒要輕利ト是レ今ノ種田佐分利ノ長スル所ナリ然レ伊達上
 杉カ松川ノ役ニ長柄長槍ハ皆棄タリ寶藏中村ハ短ニ鎌アルヲ主トス
 各々一長一短其得失見識ナシトセズ星備中曰ク槍ハ突ク具ニ非ス騎ト
 人トヲ扣ク具ナリト是故ニ大坂ノ役ニ八田金十ハ敵三十人ニ取卷レタ
 、キアフトアル亦見ルベシ夫劍槍ハ我カ長スル所ノ上馴ナリカノ洋賊
 ヲ撃ニ第一具トスヘシ或ハ曰ク劍ハ銳利ニ挫折セシヨリハ頑鈍ノ折
 サルヨシト知言ナリ又曰ク槍柄ハ三十年一換ス木ノ膏汁竭レハ必ス折
 ルト妙悟ナリ夫レ甲冑劍槍ノ利不利ヲ論スルハ抑モ末ナリカノ戰國ノ

横槍ノ下不分

習ヒ争鬪ヲ見ルト江戸ノ祝融ノ如シ夫レ江戸ノ祝融ノ儀々タルヤ遠地
 ノ人俄ニ之レニ遇ヘハ膽落股慄防禦ヲ嚴ニ唯走路是求ム乃チ江戸ノ
 禦防ハ火具ヲ假ラス火道ヲ表セズ一衫一棍撲滅ノ工アルハ狃レハナリ
 故ニカノ戰國ノ習ヒ上杉謙信ハ胴服ノミ黒田忠之ハ兜ヲ脱ス森本儀太
 ハ素手素肌ニテ甲冑器仗ヲ頼マズ唯輕便ヲ肝要トス如何トナレハ鳥銃
 大砲始リヨリ朝鮮ノ滿身甲ト雖凡之ヲ防グニ足ラズ然ハ則チ明兵ノ藤
 甲竹甲モ可ナリ韓兵ノ柳冑紙甲モ可ナリ大坂夏陣ノ如ク白挺赤裸モ亦
 可ナリ今ヤ六具ノ論甚キハ昇平ノ花法論スルニ足ラス且ツ六具ノ内大
 袖佩楯脇當ハ殊ニ緊要ノ物ニ非ズ故ニ赤尾伊豆ハ危戰ヲ見テ大袖ヲ截
 シ棄テ井上周防ハ佩楯ヲ斷去ノ士卒戰ノ烈シキヲ知ル金澤ノ兵ハ是ヲ
 抛テ沼ノ足溜リトス竹崎季長ハ脇當ヲ以テ兜トスルカ如キ今ノ花法ノ
 流著眼スベシ抑モ夫ノ井伯菅蒲兵部ノ如キ軍陣ゴトニ定マル器仗ナシ
 敵ト戰ヒ其槍刀ヲ奪ヒ是ヲ以テ其敵ヲ殺ス當是時也我ハ某流ナリ彼ハ

某派ナリ我レ何ゾ他流ノ刀槍ヲ用ヒンヤト云ベキヤ況ヤ接戰ノ際ニ臨
ンテ他流試合ハ當流師家ノ制禁トモ云ガタシ世人何ゾ花法ノ弊ヲ悟ラ
サルヤ

擊守十

我ヲ守ルノ備アレハ彼ヲ擊ノ力アルベシ彼ヲ擊ノ勇アレハ我ヲ守ルノ
防禦至ルベシ詩ニ曰ク薄伐獫狁至于大原トハ僅ニ大原ニ界メ以テ自畫
シ唯々守ルヲ守トシ其巢窟ヲ剿殲スルノ勇ナシ故ニ夷狄ヲノ蹶張セシ
メツイニ東遷ヲ致ス秦ノ始皇剛戾暴悍天下比ナシト雖凡唯々己レヲ守
ルノミヲ守トシ彼ヲ擊ツノ勇ナシ故ニ區々トノ獨リ長城ヲ築テ花夷ヲ
西シ自以ラク中國永世枕ヲ安ズベシト乃チ匈奴ノ屈強ツイニ白登千
古ノ辱ヲ遺スノミナラス其出沒ニテ中國罷弊極マル矣唯々夫レ漢武太
宗ハ眞勇ト云ヘシ氣宇遠大人ヲ兼スルノ勇アリ虜ヲ殲スノ力アリ故ニ
幕南王庭ナク胡越一家トナルは無他彼ヲ擊ノ勇アレハ己レヲ守ルノ力

餘リアレハナリ我朝三韓女眞蒙古ノ襲フヤ終ニ其志ヲ逞スルヲ得サル
モノハ獨リ我カ守ノ備アルノミナラス我進ンテ彼ヲ擊ツノ勇アルニヨ
ル抑モ夫神后太閤ハ勇中ノ大ナル者ナリ乃チ蒲生ノ朱明ヲ取ント欲
シ伊達松倉ノ呂宋ヲ取ント欲ス戰國一時ノ慄悍ト雖凡如此ノ勇アツテ
始テ能ク我ヲ守ルニ足ルベシ若夫北條氏ノ元使ヲ斬リ有馬氏黒田氏ノ
異船ヲ燒カ如キ亦必ス進テ擊ノ勇アリテ然ノ後必ス是舉アルベキナリ
今ヤ西賊ノ我ヲ窺窵スル其素情ノ源ハ彼レ我カ守ルノミヲ主トシ進ム
ノ勇ナキヲ知レハナリ漢時嚴尤ガ論ニ曰ク戎狄之侵譬猶蠱蠱之蝮^{蝮カ}
而已ト嗚呼今ノ形勢ハ嚴尤ノ策ニ邇カラスヤ夫ノ蠱蠱ノ煩キヤ^{蝮カ}歐之ハ
則チ去リ去ハ則復來ル來去頻ニ晝寢夜臥我レ卒ニ罷倦ノ昏睡ス於是乎
肆然トシ其膏血ヲ嘔ヒ其飽饜ヲ縱マ、ニス故ニ苟クモ我レ之ヲ追逐ス
ルノ勇ナク之ヲ撲殺スルノ力ナケレハ豈能ク彼カ輕侮蝮毒ヲ免レンヤ
凡ソ往昔ヨリ異邦ノ我朝ヲ崇尚スルハ勇義兵力アツテ時世ノ權宜ニ達

スルヲ以テナリ夫レ明韓ノ我ヲ恐ル、所ノ者ハ短兵ト鳥銃ナリ其我ヲ計ルベカラストスル所ノ者ハ海外出沒ノ機變ト三々五々一散一聚ノ胡蝶陣ナリ今ツノ恐ル、所ノ器ハ我ニアリ而シテ其計ルベカラザル所ノ術ハ彼ノ西賊ニアリ然則古昔ヲ律シ今日ノ則トスベカラス尉繚子曰善用兵者能奪人而不奪於人六韜ニ曰ク古之善攻者其成與敗皆由於神勢今ヤ我レノ西賊ニ於ケル果シテ能ク我レ彼レヲ奪カ將タ彼ニ奪ハレサルカ乃チ其成敗ノ機ノ如キニ至テハ願フニ我カ神勢如何ニアルノミ今若シ神后大閤ノ如キ彼ヲ擊ノ神勢アレハ西賊ヲ追逐撲殺スルコト難カラズ若夫レ彼ヲ追逐撲殺セバ我レ彼ノ巨艦海城ニ駕シ蘭人ヲノ西道ノ主人嚮導タラシメ奇譎石画ノ一介使ヲ馳セ其罪ヲ俄運嘆嗚ニ問ハシモ亦難カラズ蓋シ今我レ大艦ヲ製スルコト容易ナラズト雖モ然レモ慶長亂離ノ際猶ヨク之ヲ造ス今ヤ四海寧一南紀東奧ノ材用ニ勝ベカラズ信山堅緻ノ木多シ拔帝選モ就ベシ九州石炭餘リアリ蒸氣船ノ用乏シカラズ然ラハ

則チ歐邏巴モ討スヘシ亞墨利加モ探ルベシ近世或ハ葛刺付土葛模沙杜加ヲ取ラント欲スルアリ山丹ヲ取ラント欲スルアリ直チニ俄羅韃且ヲ衝カント欲スルアリ其言ハ狂ニ似タルト雖モ其猛奮勇銳ナリ我邦義烈ノ体ヲ存ノ失ハスモシ天下ノ人ヲシテ千人万人皆此心ナラシメハ必ス進ンテ擊ノ勇アルベシ退ヒテ守ルノ怯ナカルベシ今ヤ海防ヲ論スルニ獨リ長崎浦賀ノ禦防ノ外他ノ策略ナシ是レ其咽喉ヲ主トシ四支ヲ後トスルノ說ニシテ肝要ナラズトセス然レモ四支保セスノ咽喉全者ハ未ダコレアラズ且ツ夫レ穿窬小盜ト雖モ路門寢門ハ守リアルヲ知ル故ニ其無人ノ隙地ニ非レハ必ス頽垣ノ狗竇ヲ窺フ我カ沿海一千里處トシ隙地狗竇アラサルハナシ卓絶洞識ノ議者何ソ其慮ノ爰ニ及ハサルヤ若夫レ一旦不虞ノ隙竇ヨリシテ警衛ノ守備ヲ失セハ上下錯愕且ツ何レノ地ニカ賊銳ヲ避ケントス古人有言我行クハ敵モ亦行クト是レ宋末ノ崑山明季ノ緬甸我朝平氏檀ノ浦ナリ我故ニ曰ク沿海ハ諸侯扞蔽ノ力ニ非レハ能

ハス守備ハ我進ンテ彼ヲ撃ノ勇アルニ非レハ能ハス若夫レ進ンテ彼ヲ
 撃ノ勇ナク諸侯扞蔽ノ力ヲ疑惑ノ用ヒサレハ又更ニ別策ナシ彼レカ多
 年恐嚇囑喝ノ我レニ要スル互許シテ和スルニ如クハナシ然レモ若シ之
 ヲ嘆ニ許セハ弗モ亦至ラン弗ニ許セハ魯モ亦至ラン凡ソ此塗一タヒ開
 ケバ則チ五大洲中躡躡必ス輻湊スヘシ豈我カ有限ノ國財ヲ以テ彼ノ無
 究ノ貪棼ニ給スルヲ得ンヤ所謂剝牀以膚ソノ瓜哇タラサルモノ殆ント
 少ナリ嗚呼我カ神州五千年來ノ淨域一朝化ノ甞裘腥膻ノ區トナランカ
 果ノ然ラハ則チ天地日月モ我心ヲ照スベシ我將ニ必ス東海ヲ蹈ンテ一
 死アルノミ抑モ不知我ニ殉スル者世間亦幾人ソヤ

嘉永二己酉年五月伊勢守殿御直書

筒井紀伊守殿へ可相尋趣

近來異國船度々 本邦之海峽を恣に颯去或ハ江戸近海へも渡來測量其

申年也惣評ヲ
 此後御ハ同
 五月十四日也

外覬覦之体も有之不一方心勞罷在候所昨年之儀ハ先々何レ之海岸へも
 渡來無之然ル所當春以來松前津輕其外對馬庄内ニ度々渡來之義も有之
 右ハ仮令一二艘之漁船或ハ漂流往來之船ニ候共其事情難計事故其度々
 海岸領主之向ハ何レも防禦人數嚴重ニ相備江戸表へも度々數回注進有
 之無據取計ニハ候へ其實ニ莫大之入用ニ可有之異賊之方ハ素々當時本
 邦之取扱手嚴敷儀無之与見侮り居候事故此上尙諸海岸へ乘近付中ニも
 事ニ寄セ候る 御國地之動靜を相伺或ハ地理測量致候哉も難計就てハ
 其最寄之領主地頭之混雜入費等差重り元來諸藩疲弊之折柄此上益及疲
 弊之外無之疲弊彌増候へハ守衛自分十分ならん然ル時と若異心之鳥船
 數艘差向不慮之爭鬪之事有之節も如何様成 御國体ニ拘り候義無之共
 難申且當時之姿にてハ彼ハ一二艘之船を以て東西ニ颯廻り此方にてハ
 其船之往來ニ隨ひ固メ人數も東西ニ出張使^{伏カ}を以勞を待之義ニ反シ甚以
 難澁之義も候間兼る被申聞候土著之兵士農兵等之守衛ニ致し一二艘之

船ハ異心無之様子ニ候ヘハ猶更之事仮令異心有之不時ニ争闘之事有之共右守衛之人數を以一ト先防禦致し其上ニあるニ番三番手之儀ハ居所ノ操出候様相成候ヘハ異心有無之節共格別入費も相減し且本邦一体御手厚ニも相成候義ト至極可然存候乍去是も當今創業之義ニ候ヘハ一時混雜入費も格別ニ可有之其用捨公邊ノ御世話被成下候義ニも成兼候事ニて諸藩疲弊之折柄ニも有之且ハ其土地之様子領主々々の見込ニも寄候義ニ付差定メニハ難相達乍去爲心得公邊ノ評議之趣相示し置候義ハ可然と存候間先々觸面取調可申聞候將又折返し相考候ハ異船打拂復古之儀一昨年浦賀長崎へ渡來之異賊歸帆以後品々不敬之故を以掛り評議其節被申聞候趣も無據と其儘差置候事ニ候ヘ共如前件當年之所數艘打連是迄通船無之海邊をも颯去或ハ洋中ノ大炮を發し殊ニ津輕之義ハ内實人數差向さる以前疾ニ上陸も可致模様之趣相聞品々は迄輕蔑之義而已ニて兼御示ニ相成居候全く漂流之者へ御仁恤之御趣意相守候

義ニハ毛頭無之元來右打拂之義御差止被仰出候義ハ實ニ貴賤一般私ニ議論も申居候程の事ニある別る海岸領主之面々ニ言語文字も不通之異船ニ對し通辭等之備も無之故其事情も難探得又兼御被仰出候御趣意も有之上ニ猛烈之取扱も致兼候場も實ハ半表半裡ニ相成一致一決之所置難相成其上^{新カ}藪水等を乞或ハ風間切等ニ事寄せ滯船等致し候ヘハ尙以入費而已相嵩甚迷惑之趣ニも有之實ニ尤之事情ニ被考候尤此義ニ付而ハ兼て建議も有之通文化度之如く耽と致候乱妨有之与り好キ機會も候テ右を名として直様復古可被仰出ハ勿論ニ候ヘ共猶時之勢を以考候ヘハ右乱妨等之義ハ明白ニも難計候ヘ共素々本邦ニ心を放レ交易を開キ戰鬪を後として漸々親近可致と遠慮深き貪欲之賊情殊ニ此以前も乱妨ハ打拂も被仰出候事ニ候ヘハ旁以再度之事右様思慮薄き所置と致間敷哉只々何レも順從溫和之体ニある津々浦々へ渡來或ハ交易申掛又ハ漂流等ニ仕成し食物薪水等乞求候而已ニ候ヘハ矢張名ともせへきもの

無之様何ッ頃復古と申急度目當と可致際限も無之又異賊之方ニ有ハ一
 旦 御仁惠之御觸示有之嚴重打拂等之義も決る無之義と心を安んし且
 從來宿志之楷梯と相心得候間此後異心之船而已ならぬ漁船及諸蠻往來
 之船共猶又繁々渡來可有之其節仮令一二艘之漁船といふ共夫々守衛を
 設け候事故領主之入費幾許候哉年々歳々困究相嵩候耳 本邦之人民金
 銀彼カ爲ニ空敷勞疲せしめ候義何共不堪遺憾候先許機會を待候義ハ御
 趣意も相貫諸蠻へ被對御信義も相立兩全之良策共存候へ共前文之通其
 機會目當も無之且 本邦之内廻尽く手厚と申義ニも不至候へハ如何様
 之乱妨可有之も難計然ハ先ツ手を負候を待居候筋ニ相成此儘ニ年を経
 候ハ一年ハ一年二年ハ二年之損害と相成可申本邦之如此損害困苦有之
 所豺狼之如キ夷狄ニ信を立度と存候一事ニて日夜心ならぬ其機會を待
 居候も詰る所 御仁惠格別之御政事共不被存最早寅年ハ可也年間も相
 立其上敬る名とまへき條無之義ニも候ぢねハ實ニ復古致し打拂之義被

仰出候方可然被存候依之一昨年來之不敬不遜一々申種々致し打拂之義
 暫時も早く被 仰出候方可然尤諸州廻達之間も有之事故仮令ハ來春と
 り又ハ來夏ハ以前之通打拂被 仰出候間早々諸州へ廻達致候様當秋歸
 帆之加比丹へ申渡候方可有之哉因てハ前評諸藩へ心得として廻達之義
 も今少々見合おき打拂復古評議之上彌復古之義ニ付てハ速ニ争鬪之事
 可有之哉も難計ニ付守衛別一際嚴重ニ相心得土著之兵或ハ農兵等之
 思慮有之候様相達候ハ、近來警衛之備追々打せまり候勢其上決候事故
 防禦も致し能猶更諸藩之氣強一反可然哉と存候此義何れ海防掛り一統
 之存寄も得と可承候へ共御自分見込候所申分ニ承度候事

海防守備打拂之方ニ御改復之義御
 尋ニ付愚存申上候書付

筒井紀伊守

去ル四日海防守備之義向後文政度被 仰出候打拂之方々御復古可被爲

在被思召候ニ付愚意之趣申上候様ニ被仰渡御下ケ御座候御書取再度折返熟覽仕候處實ニ御遺猷御籌策一々御尤至極ニ御建論も乍憚御尽し被爲在候義聊間然可仕義ニも無之或伏仕候何様仰之通近來ハ異國船近海迄も罷越候内昨年ハ沙汰も無之候所今年之義ハ春以來度々通航其上船數も多く例と違ひ西北海を通船仕中ニも及應接候船も有之候程之義夫ニ付るハ沿海諸藩ニおゐてハ人數手配江戸表へ御届之手數入費も多く相掛候義之所異船之方ハ寅年御改革以來手強キ取計無之を以見侮り近海をも罷越何りに事寄セ御國地之様子を探り或ハ測量等致し滯船又風間切居候へハ其間陸地之警衛迄ニ人數も指出候事ニ候へハ日數相掛候へハ猶更以莫大之入費も相掛り諸藩疲弊之基ニ有之果ハ守衛之手當も夫々爲ニ不十分様なり行候時節萬一異心之賊船渡來致候ハ、如何様之失誤有之間敷共難申左様無之候共一二艘之船ニても沿海東西を廻廻り候ハ、此方警衛之人數引足不申異船之往來ニ隨ひ人數を移申候

ハ、奔走ニ勞れ其上頼ニ可致大筒等之輸送中々以て行届申間敷一鉢攻守勢ハ守ニ利多ク攻るニ利寡き譯ニ候得共彼ハ船ニて遷移致し此方ハ陸ニる奔走ニ勞し候へハ勞佚之勢倒真致し戰闘ニ及候共勝敗之機無覺東候間此弊を救候ニハ土著之兵士差置候り或ハ農兵を用ひ異船遷移を逐ひ奔走不致候様相備候方可然尤廻通候迄ニ候ハ、更ニ貪著ニ不及萬一上陸等可致模様り或ハ大砲を打掛殺氣を貪る船ニ候共先有合之兵士を以打拂之手配大小銃玉藥之用意尤ニ有之候へハ一陣之備ハ足可申義ニ有之段御沙汰之趣至當之御策ニ奉存候扱又御再考之趣も寔ニ御尤至極之御論ニ御沙汰之通り一昨年評議之所ニてハ寅年御改革後未々年數も相立不申格別是と申程之事立候義も無之所俄ニ御復古有之候てハ御國政時々相改り御輕卒之趣ニも相聞可申間何共難被捨置不敬不法之義有之節夫を辭ニ御改之積ニ成置其内ニハ沿海之守衛も相整可申との義ニて御差延候へ共同様今年ハ是迄之通船無之西北海之方殊ニ船數多

颯通り或ハ大炮を放し或ハ薪水食物を乞候義畢竟ハ御仁恤之御趣意
 ニ乗し度々船を寄海岸之様子海之淺深等相伺候哉も難計詰り輕蔑之意
 も有之哉ニ候ヘハ打拂之義御復シ被仰出候方可然と被思召候由夫ニ
 付候ても異船渡來之度々諸藩之入費不少迷惑ニ及ひ果ハ可及疲弊其極
 ニ至りてハ領内不穩様ニ成行事ニも相成候る萬一異船渡來之節守衛防
 禦之手當不十分事ニ可相成異情も難計事ニ有表向ハ異心無之様致し内
 實ハ覬覦之心を含ミ或ハ漂流ニ事寄或ハ水薪等乞候趣ニて此方へ親近
 致し交易杯願望心願ニも候ハ、いつ迄も彼を戰爭杯も勿論不敬不法之
 義も致間敷候ヘハ左候時ハ更ニ可相答事跡も無之此姿ニ有打過候て一
 年延候ヘハ一年たけ二年延候ヘハ二年たけ損害相掛り年を積候たけ損
 害多彌益疲弊ニ至り可申彼方ニてハ御國地之情實動靜を探索致置候
 由戰闘ニも相成候ハ、兵書ニ所謂之彼を知り己を知ものハ必勝と有之
 相當り此方ハ目途不足ニ相成戰士之手當兵糧之積蓄軍器之修理等も

不行届素々彼ニ軍情を不知疲國之軍資ニて桀驁之異賊是迄戰陣ニ熟練
 之兵卒利害之火炮を防候義如何可有之哉ニ付此節諸藩敵愾之心を懷キ
 戰士も奮揚致候軍資も可也可給供時節打拂之義被仰出候ハ、士氣も
 奮勵致し可申又御復古之義を以異賊共憤りを發し異心を企來候共只今
 國士奮發之時ニ當り防禦之力を盡し可申後年及疲困士氣衰弱之時ニハ
 大ニ違ひ可申譬ハ壯強之人之動作と老衰之者之起居と違ひ候様成もの
 ニ候ヘハ差當り目當も無之いつ迄も彼方之不法不敬を待候て年を積諸
 藩及困疲國士衰弱ニ至り候ハ、御良策共不思召候間此節追々少々宛之
 不敬不法之事も有之間夫を以御辭を托せられ復古之義被仰出當秋歸
 帆之加比丹へ被仰通候方ニ被思召候由逸々御尤至極ニ奉存候仰之通
 いつ迄も無際限相待候内此方ハ年々諸藩士及疲弊世上人氣迄も不穩節
 ニ至り候ハ、是又笑事之義ニ有之歷代之事跡を以相考候ヘハ元龜天正
 頃唐土朝鮮杯和寇之侵掠と申事比年有之其和寇と申ハ此方ニて名も知

れ候程之者ニモ無之戰國之時節九州廻り之士豪共溢れ者を語らひ海賊
 同様之義ニて船を仕出し他國之邊境を侵掠致し金銀財寶米穀等を掠取
 候迄之事ニ候へ共後ニハ横行ニ相成人數も多く度々罷越果ハ郡縣府城
 坏攻破り燒屑坏致し彼方ニても不大方難澁致し防禦之人數差向候ても
 兎角敗績勝ニて人數死亡も多く入費も夥く相掛り候趣ニ有之右ニ彼方
 も季世ニ相成政令不正士民難澁之折柄故彼土之者共之中ニ手行致候者
 も多く此方之軍卒戰鬪ニ及候へハ彼之方之士一揆共夫ニ引連れ打交り
 乱妨致し良民或ハ官庫之財寶米穀婦女等を掠取候事ニ候へハ國用之疲
 弊ハ季世之習ひニて大事なる事ニ候へハ諸藩不及疲弊候内打拂之義被
 仰出萬一夷賊憤りを發し渡來及戰鬪候共此方之軍資手當も可也相届候
 て士之銳氣之挫けさる内ニ候ハ、守備防禦之働も行届可申又夷賊共御
 果斷御英毅之上復古之御所置ニ畏懼致シ此後無謂渡來不致候得ハ諸藩
 之幸 國朝之 御社福^{祝カ}ニて 御威嚴も相立御世話も薄く可相成義重疊之

事と奉存候扱夫ニ付愚見仕候處ニてハ右打拂不日被 仰出以前此程も
 申上候趣ヲ以先此方金融通筋之義被 仰出武家在所融通御附被遣世
 上一統御趣意之程難有奉存候様ニ被成置借其以^{前脱カ}近來追々異國船罷越
 交易願或ハ水薪等を乞候義有之其度程能々 御仁憐之御取扱有之御返
 しニ相成候所今年ハ別ニ諸々海岸近ニ颯廻り候船も多く中ニハ水薪等
 乞不扱之様子も相聞へ右ハ全く先達る被 仰出候 御仁恤之御沙汰ニ乘
 シ何リニ事寄せ近海へ乗寄漂流ニ無之ても水薪其外乞候も有之詰り何
 様之勝手我儘之義願候共嚴格之御取計無之と之見込を以仕成候義此方
 を輕蔑致候意味も可有之乍去寅年之被 仰出も有之故先ッ御仁義ヲ以
 御憐恤之御取計有之候へ共其度々警衛守備之入費も不少沿海諸藩ニお
 りてハ迷惑成義候ニて終ニハ國用疲弊ニも可及事ニて畢竟ハ異國船度
 々罷越候故之義ニ候へハ不遠文政八四年之通打拂之義被 仰出積此節
 専ら評議致事ニ候間守衛之義猶更以此節ハ無油斷嚴重ニ可被申付置候

趣先年之通被 仰出候ハ、其節違之通り無二念打拂萬一異船も發憤
上陸等致候て粉骨を尽し討取逐退ケ可申事ニて右様打拂之一途ニ相成
候へハ猶更以俄ニ人数差向候様ニてハ行届申間敷事ニ付土地之模様居
所之遠近ニも寄候事ニ候得共遠方之場所柄之土著之兵士差置候哉或ハ
農兵杯ニも致萬一之節都合宜敷様致し且入費も平日も可相成丈不相嵩
候様心懸他共冗費を省き實用を専らニ備置候様可被致尤領主ニて之等西
土地之模様ニも寄候事ニ候間必ク様との事ニ有ハ無之詰り入費を省き
平常無油斷不慮之備相立器策之間ニ合候様兼る榮給致置度事ニ候旨御
觸被置其上ニて蘭人へ被 仰渡可然共奉存候乍去當年之所ハ篤と 御
覽被成候て猶御申種々相成候義も可有之趣且來春ハ蘭人江戸拜禮期年
ニ候へハ於此地先年加比丹ヲロムホフル本國之義ニ付御勘定奉行宅へ
呼寄候て奉行方直ニ相尋候義も有之候間右例ニ准シ拜禮之加比丹へ在
府長崎奉行立合篤と御趣意之所蘭人能吞込候様御申聞候ハ、歸帆之上

於本國歐羅巴諸國へ申通候ニ有無據御趣意ニ出候評御信義も相立此後
御國威も石墜様談方も可有之哉と奉存候右之御英斷之所少々遲速之違
御座候へ共愚見ニハ夷賊共不敬不法与申候ても此方證迹ハ有之候へ共
彼方ニハ左程之事ニも無之間遁辭も可申述既ニ一昨年フランス船方長
崎奉行へ申立候此方不法之及取扱候御義も彼方ニて申候へ共此方ニて
ハ更ニ的證も無之事跡願相分候又一昨年アメリカ船浦賀へ渡來之節此
方ニて大不敬不法之暴舉有之候へ共夫も無事ニ相濟候へハ萬一此上ニ
有聊之事跡を以御話柄と被成候ハ、先方ニても右兩條之義杯を根據ニ
致し彼是申出候て却る穿艸出蛇弊を生し候ハ、夫ハ可好事ニも有之間
敷哉依て愚意ニハ先年蘭醫シイポルト持來高橋作左衛門和解致候魯西
亞加比丹クルトセンステルシ之著候奉使日本紀行之内ニ此方へ御迷惑
可相懸ニハ 御國地之沿海を彼國之船一二艘も指越颯廻り折節大炮之
一放二放も致候ハ、沿海之衛兵奔走ニ勞レ果ハ内乱可生杯申候義も紀

行版本ニ相成有之候事ニ候間此度此節之賈國船共不敬不法之義ハ多く不被仰述候て度々近海へ乗寄折々大炮相放シ候ハ、凱鏡之情有之而之
事哉事情之眞偽ハ難相察候へ共是迄文政度之通眞偽を不論打拂之一途
と定メ置候へハ奔命ニ勞レ候事も無之又當時之通り應接信義を尽し候
共ステルンリ策を以考候へハ信義親睦之内ニも不慮之備ニ致事ニ候へ
ハ事兩端ニ相成於此方ハ迷惑なる事ニ候間無據此度文政度打拂之所ニ
復シ候事ニ有之尤實ニ難破船ニ無相違船具等破壊致候程之様子ニ候ハ
、夫とても打拂候事ニハ無之候得共薪水等乞候ニ事寄國地之様子を探
索せられ此方にてハ親睦之意を以表し候ニ却る策中ニ陥り候も無智之
至リニ候へハ夫等之所を以無據復古致候譯を論し度事哉と奉存候左候
へハ洋夷之方にてハ執辭柄彼是申候義も先ハ有之間敷奉存候間如前文
申上候義ニ御座候御觸案之義ハ御評決之上御沙汰次第取調相伺候様可
仕候依之御下ケ之御書取壹通返上此段申上候以上

酉五月

筒井紀伊守

謹奉書

古來外國通商之儀ハ 國家之闕乏を補んためなれハ我 國之草根木皮
を以彼外國之藥草ヲ替我 國之野肉海魚を以外國之磁器等ニ替總而彼
國之餘長之品を以我 國之不足ヲ給し我 國之餘長之品を以外國之不
足ニ給し限度を立て規則を守り候る之交易ハ 國家之裨益と可相成候
乍去當時之交易之如く四時不絶際限無之元來我 國不足之産物を以外
夷餘長之品たる洋布洋銀ヲ替へ双方利を貪而已之事にて唯其交易掛之
属官衆并交易相手方之商賣之もの共利を得る而已にて中以下之困究實
ニ言語ヲ絶したる事ニ候然レ我 皇國ハ薩州鹿兒島より奥州津輕迄北
極出地十一度之差ひよて直徑ハ三百里餘南北ハ八九十里ノ不足廣袤ノ
候處當時通商之外國ハ北亞墨利伽一ヶ國と雖南北極出地大略百五拾餘

度一度ハ皇國之里南北ハ七十度餘なれハ皇國より廣き事凡拾五倍餘
其外俄羅斯英吉利獨逸伊斯波尼亞伊太里亞佛蘭西和蘭當時之交易ハ八之
七ヶ國總合されハ我國より廣き事凡五拾餘倍過たるなるを然
其五拾倍餘之一も不足我國之産物を以四時不絶際限無之交易いた
し候るも素より國家疲弊ニ及び萬民塗炭ニ苦ハ勿論之理なり其上へ
彼外夷之所作萬民を懷ケ夷俗ニ化習せしめんと欲す其内實彼覬覦之心
有らんも亦難計表ハ彼も亦仁義之國と稱すと雖英佛等之祖先ハ定
海賊より興て開國ニ及候國柄ニ候ヘハ其餘習遂ニ性と相成賊風ハ猶彼
人質各自然ニ相備り可申候得一暇も攘夷預備之凡を不可忘時節柄ニ
候利外夷動もそれハ戰艦を指向ケル杯と虚喝之言を吐き其上へ近來地
球説略中外新報杯と申著述を出し我皇國を弄笑し國辱を萬國ニ告
呈す寸割いたし候るも尙不飽足憎き彼外夷共之所作ニ候此を不憎もの
ハ國民ニ非す攘夷を欲せざるものハ國士ニ非す因る近來ニ致り候

てハ道路往來之負擔之ものニ至迄攘夷之御一舉を渴望仕候場ニ至れ
り然處攘夷之儀ハ國家至重之大事一歩被爲蹶候ハ、千歲難復
國醜ニ候得とさざんて各國ニ於て賢議被爲尽精察毫末も不被爲洩事ニ
て今更非分之秋鄙策を可加儀ハ無用之事凡周公孔子之如き至聖尙過テ
有之諺ニも弘法も筆之過と申事有之候ヘハ攘夷ニ差向ハ萬々一不覺を
被爲取候節と其餘災我等も共ニ難免候得と難坐視處より愚意所存之稜
々書列候乍去非分之身として曾て兵道戰爭杯ハ不關係事を彼是評論
仕候儀ハ所謂孔子の道を教へ釋迦の教化と申道理ニ候得とも此度之儀
ハ皇國限之儀とハ相替り外夷御相手之事柄ニ候得と縱令奴僕之説と
雖理之長する處ありて一策ニ備り候ハ、報國之ため献策仕候るも不苦
事と奉存上候處より不願斧鉞之畏奉言上候
抑戰爭も先第一ニハ國之要害固否如何第二も敵軍之強弱如何第三ニ
ハ敵軍之衆寡如何第四ニハ糧道之通塞如何第五ニハ軍資之多少如何第

六ニハ内應之有無如何第七ニハ因兵生兵之有無如何と申事を預め深思
惟いたし身方と敵軍との優劣を比べ量り必勝之利を見て而後ハ攻伐之
術を施事哉ハ奉存上候

第一ニ國之要害之固否如何

我皇國ハ四方悉海岸ニ面して大坂より下九州迄百五拾里之間ハ更復内
海あり阿波讃岐土佐伊豫攝州播州備前備中備後安藝防長豊前之拾三國
ハ更ニ内海ニ面されハ右之拾三國ハ外海内海之両海岸ニ面す而して彼
外夷を陸戰水戰兩全と雖取分て舟行被致候處彼術之施し易き處なれ
ハ我國之如きハ外夷之ためハ無此上不要害之地なり況我 國ハ通
商之外夷ハ當時よてハ八ヶ國と相成候由其中ニモ英佛兩國之如きハ殊
ニ猛勇之國柄ニて戰艦も一千艘よりも遙ニ越候る夥敷艦數ニ候へハ八
ヶ國平均いたし三百艘宛操出都合二千四百艘餘も押寄せ來りて壹艦ご
とふ貳拾發宛相放候るも四萬八千發之砲聲カニて天地も傾覆をるき音

鳴り爲致烈敷勢を示して我 國之荒膽を打破り暴突して乘込候ハ、沿
海之諸家様方たとひ 皇都之警衛被 仰付置候共其場ニ至り候ハ、自
國を棄て、 皇都ハ國兵を分遣處よてハ無之却る他藩より援兵を操出
し危急を救ひ不申候るも難相成場ニ至り可申哉も難計萬一左様成行候
ハ、當時如何様御手堅沿海之大藩之諸家様方ハ 皇都御守護之儀を御
約定ニ相成候る 皇都より鉄城之如く御便りハ思召候とも只今攘夷と
申事ニ被爲向外夷押寄來候ハ、當時之御取究之御約束ハ俄ニ轉變可仕
哉ハ奉考上候仙臺出羽加賀越前尾州伊勢阿波土佐紀州藝州肥後備前長
州肥前筑前薩州等悉沿海之國柄ニ候得て大藩より分兵操出自國を棄て
ハ他方之警衛と申儀も如何ニ候哉と恐慮仕候然處彌攘夷と申事ニ相成
候節ハ 帝畿御隣國ハ大藩無之候る東ハ若州小濱越前敦賀西ハ大坂
北ハ丹州沖より外夷乘入候節ニハ如何様之御手當被爲成候哉此等之御
預備肝要ニ候八ヶ國之烈勇之兵を御相手之戰爭ニ候得ハ小藩之御固め

へ置き如何成ル敵軍と雖この兵を不得破と落附候處英佛兩國之軍一茶頃餘よて攻破り纔一時餘よて俄羅斯之兵死傷凡六千人餘其餘四萬四千之兵ハ悉逃去候由此一事を以て惣体之處を推量り候へそ一概ニ外夷ハ陸戰ハ未熟抔と侮り輕んしハ被致間敷哉被考候然も我日本之商館抔ハ參り候ものハ皇國之商人同様之もの或ハ奴僕体之ものハ候得そ此等之類之柔弱成ルを以て彼外夷ニて別ニ備置候官軍迄も同様ニ相意得候そハ大ニ不覺と可相成哉被考候又此日本より外夷ハ使節ニ參り候人々之噂を以外夷之事狀分明ニ相成候様ニ心得候人も有之哉承り及ひ候得共廿日哉三十日之滯留駈ケ通りも同様之事よて各國之外夷之事狀大略相分り可申事ニハ至り間敷哉被考候成程我皇國ハ武烈之御國柄とハ雖何様貳百五十六拾年餘之御治世ニて自然ニ講武怠慢之流弊ニ成行たとひ講武罷強之國柄と雖當時之處よては未タ手ニ掛させざる以前故矢張如水練も同様之儀なれば自然外夷を輕侮被爲成攘夷ニ被爲

臨候あハ萬一御不覺ニ可相成儀も難計哉奉存上候悔者も亡と申儀ハ遊藝之勝負事迄も可然事ニ候得そよして況兵事ハ尙更申迄も無之此邊之儀も定ぬ研究被爲成候あ之事ハ候得共皇國之安危を奉恐慮候餘り心附候稜を以不願恐惶書列申候

第三ニ敵軍之衆寡如何

皇國ハ坤輿圖中ニ於て實ニ粟散片州之小離島なれば奥羽より薩州迄之兵員何程有ルよせよ其内之兵數を以外夷ニ較るよ逆も同日之論ハ非るるし其子細ハ皇國ハ通商之外夷ハ八ヶ國よして其廣袤皇國より廣き事大略五拾餘倍有之候あ其八ヶ國各亞細亞弗利伽新和蘭陀等其外處々之離島ハ所屬之處有り其八ヶ國之中ニも屬國之最多キハ英吉利よて彼れよハ三十五部之屬國有之候得そ通商之八ヶ國之本國と屬國と惣合されハ我國より廣キ幾拾倍とも知れざるを然ニ戰爭ハ暫時之一敗一勝ハ有之候とも之を始末よ及ばして論するよ寡不敵衆弱不勝強習

ひよてたとひ外夷之軍兵夥敷死亡いたし候とも先操り不尽之兵を操出し根氣不疲年限不厭八ヶ國終ニハ輪番を相立て代ル／＼相手ニ成り候ハ、敵國ハ相手代それとも皇國ハ相手不代して日毎ニ月毎ニ死亡いさし候ハ、遂ニハ見苦しき降和を乞ひ此上もなき國辱を被爲取ざるも亦難計我國之人ハ未タ攘夷ニ不向以前ニハ外夷之手許を相詠め候る彼外夷ハ數千里之波濤を越て來り候得て迎も戰艦夥敷ハ參り間敷と侮り候得共此ハ暗索妄推にて當ニハ被致間敷成ル程歐羅巴哉亞墨利伽之如きハ本國ハ遠路を隔候とも處々ニ屬國有之候る此亞細亞洲中ニも餘多之屬國有之其上へ彼外夷之もの義を守り候間ハ皇國所屬之離島ハ手を不出候得共自然攘夷と申事ニ相成候ハ、外夷義を破り對馬哉伊豆之離島之如きハ忽乘リ取り候る其離島ハ向ケ軍糧器械を送り續ケ可申候況外夷ハ^{レ脱カ}ハテガラフ杯と申仕掛之もの有之候る一萬里位之音信贈答ニ纒一晝夜之間ニも相通し候得と數千里之遠路之外夷と雖中／＼侮

られ間鋪其上へ俄羅斯之如き我國と陸續同様之近き國柄ニ候得と遠路之外夷故戰艦夥しく操出され間鋪とハ被申間鋪哉ニ被考候尙又近來外夷之もの我日本ニ參り候る日本之事狀を能く承知いさし萬國之中ニも取分ケ武勇烈敷國柄と申事をも見聞いさし候得と半季哉一年位之處ハ八ヶ國申合せ荒膽を奪ひ取んため彼國之兵數あらん限り軍艦之あらん限り悉く操出し候ハ、三千艘參り候敷四千艘參り候敷とも其程ハ知れざるを若左様成行不要害之地より一手ニ乘入候節之御防禦之預備之被成方ハ如何ニ候哉

第四糧道之通塞如何

糧ハそれ人命之所依なれ糧なくしてハ一日も不可立然ニ攘夷と申場ニ至り皇都鎮護之ため遠藩より輻湊いたし候數萬之軍兵ハ費ハ候兵糧夥るを時ニ此度之戰爭ハ古來我國同士之戰爭とハ相替り數千之軍艦を以我國外周を取り圍ミ更ニ中國路之内海ニ乘入候ハ、半艘

之商船も通行相成申間敷然上へハ遠藩よりハ一粒之兵糧も舟送難相成
尙我 國ハ横幅甚狭くして際長く其往來之間高山幾百重敷隔障いし
陸送不便之國柄ニ候然處近來諸藩より六七千之纒之上り込て是ら舟
送も自由ニ被致乍諸式直揚り三倍いたし候る品物一向拂底ニ候因る攘
夷と申事ニ相成候ハ、糧之運送便利御工夫第一歟と奉伺上候糧とハ飲食
之具ハ勿論
炭柴薪等之日用
之もの悉指也

第五軍資之多少如何

我皇國ハ當時通商いし候外夷ハ各屬國有之通商有之候る其屬國之稅
租と其通商之利と外國より入來て本國之產物之外ニ餘分之蓄積と相成
可申候其八ヶ國之外夷之中ハ英國之如きハ五大洲ニ於て各屬國有之候
る惣計是るハ凡三十五部有之又英國之商船之如きハ我安政元年中ニ出
入する事本國船一萬八千七百艘屬國船一萬貳千五百艘合る三萬一千貳
百艘其壹艘ニ附平均して三萬兩といたし候ても九萬三千六百萬兩之利

と相成申候因る英吉利壹ヶ國と雖三拾五部之屬國之賦稅と三萬壹千二
百艘餘り之通商之利と皆外國より入來て悉富國強兵之備ニ候得て彼れ
ハ幾十年之出國之戰爭と雖其費用聊も本國之衰微ニ相成不申候會る俄
羅斯と土爾其との戰爭之節英吉利之援兵を出候る其費用凡八千萬兩金
ニ候得共悉外國より入來ル餘分之金よて聊も本國之衰損ニ不相成由彼
國誌杯ニ載て有之如此他國之援兵よすら八千萬兩金と申莫太之費をも
不厭國柄ニ候得て此度敗北いし候ハ、其次を期し其次敗走いたし候
ハ、又其次之次を期し候る何程之費相立候とも厭飽不仕彼ハ勇銳ニ任
て戰爭ニ及ぶるし然ハ皇國之如きハ屬國も無之外國ハ通商も無之候
得て外國より入來ル餘積之金も無之剩近來ハ殊ニ費用多くして國甚困
乏ニ及ひ其上へ連年之戰爭と相成り候る外夷之戰艦ニ妨られ三都之通
商も相塞り國産も賣捌き難相成候處ハ向ケ自然飢歲數年相續き候ハ、
進退共ニ術を可被爲失候因る攘夷と申事ニ相成候ハ、先富國之術を第

一先と被爲成たとひ戦争中たりとも我 國內限り之三都之通商ハ益盛
 ヲ相行れ可申様之御仕法相立不申候也。國家益困究ニ可相成それ
 三都ハ各國之金銀融通之源ニ候得也。三都之融通相塞り候ハ、各國之金
 銀融通ハそれニ應して忽可相止候各國之産物を以三都之金銀ニ替へ又
 三都之産物を以各國之金銀ニ替候故金銀交々輪環して都鄙等々融通
 附き申候因る攘夷と相成候ハ、尙餘り甚しき儉約ハ却る 國家困究之
 基と相成可申候其子細ハたとへハ天下一統絹布停止ニ相成り候ハ、三
 丹甲州飛驒出羽奥州杯之如き古來桑を以産物といたし候處ハ立處ニ融
 通相塞り可申候又蠟燭ハ費多き故松を以て之ニ替へ蠟禁と申事ニ相成
 申候ハ、蠟を以國産といさし候國柄ハ融通立處ニ相止り申候又酒ハ甚
 費成ルもの故天下之造酒を禁し候ハ、米價を以て費用を相償ひ來り候
 國柄ハ是れ亦立處ニ融通相止り申候右様之事ハ有るまじき事なれども假萬事
 之ヲ類例するニ餘り甚しき抜き指し不成儉約ハ却る融通を相塞申候何

故ぞなれハ廣き世界之事ニて三ヶ國哉五ヶ國之不融通ハ天下一統之融
 通之障りニハ相成間敷譯なれ共矢張その三ヶ國哉五ヶ國之不融通ガ廻
 りノて何處ドコとなく一統之不融通ニ相成可申候たとへハ江戸が不繁昌
 ニ相成候ハ、京哉大坂之江戸廻し之仕入ガ不捌きニて忽京大坂之衰微
 ニ相成融通ニ差響き申候又其京大坂之仕入之本品ハ諸國より上せ候産
 物ニ候得也京大坂之不繁昌ガ矢張り諸國之融通ニ相響き申候それ壹ヶ
 國哉貳ヶ國限り之年限を定め時宜ニ由て被爲成儉約ハ諸國一統之融通
 之差支ニも格別相成不申候へ其各國一同甚しき儉約と相成候可也
 一統不用可出資金も一統不出事ニ相成候ハ、それニ應して國産
 も不捌きニ相成り可收金銀も不收事ニ成り行候儉約いさし候も不致
 候も同じ割りニ相成り候而已ならず却る天下之融通悪く相成可申候因
 る天下之奢侈を制し冗費を被爲省候ハ、富國之策ハ自相立可申哉奉存
 上候其冗費とハ不用之品を貯ル事ニてたとひ己ガ分限相應之品と雖餘

分は貯置無くても宜しき事、費を立る事なく奢侈とハ己が分限不相應之行ひを成す事、て木綿を可著ものが絹布を著百兩持之ものが貳百兩持之暮しをいたし百石之人が貳百石之暮しをいたすが如きなり其分限相應の儀ハ被爲許分限不相應之儀ハ被爲制度それ人ハ貴賤貧富之別あれハ其別は應して分限相應不相應を被爲定又國ハ都鄙山野之別あれハ其別は應して分限相應不相應を被爲定若都會之振合を以て邊鄙を治め邊鄙之見合を以都會を治め候ハ、大は害する事有るを既先年水野越前守様御改革被仰出候節三都之遊女屋御疊ミ置は相成候處京都杯ハ夫より殊之外金銀融通悪しく相成り外商賣之もの迄指響き竈數も大造相減大ニ不繁昌は相成申候此節之事も邊鄙山家杯之振合より眛むれハ世界中之費之頂上ハ遊女ニ及ぶもの無き様なれ共處々之舟津哉都無之地は於てハ急度融通之策略は相備り可申候たとハ國家之費は相成候ものと雖古來より在り來て今更難改ものハ矢張り其在り來りは可被

爲任置儀穩當歟と奉存上候自然其勢難改もの迄強而被爲改候も、平穩之時節と雖害と可相成候まして況カ、ル攘夷杯と申 國家之大事は被爲指向候も却る外より破るを不待内より内を破る之害を醸し候それ天下は於る総る不用之ものを斷徒費之もの無之様は洗揚げ候儀ハたとひ神力と雖之を如何せん纒一身之五本之指はすら無名指之如きは不用之ものなり然れハ物之勢は隨ひ事の激破不致様は可被爲儀是れ富國強兵之基本歟と奉存上候それ諺も我身爪^{ツメ}て人之痛^{いた}を知れと申如く兎角萬民之難儀迷惑と可相成事ハ己が難儀迷惑同様は引受萬民之情態を深く恕して事々皆撫育之思召有之怨望之もの無之様は被爲成候條是れ強兵之策之實大成ル事歟と奉存上候

第六内應之有無如何

戰爭ハそれ我軍より外敵は内應いたし候る反を謀る時を手を翻よりも破れ易るを然し然は今度攘夷と申場は至り候節我 皇國より彼外夷は

内應いさし候もの是れあらんも亦難計此に就る三種之恐れあり
 一こハ困究難凌處より外夷に内應之ものは是れあらんも亦量り難し其子
 細ハ困究と申す凡財究と兵究との二種あり先其財究とハ
 皇國ハ外夷に比望するに 國量不相應に餘多之諸侯を封せさせられ候
 へハ其諸藩區々にて祿と費と較へ見ルに費少くして祿多きは是れ上等
 祿と費と相應して不足不餘と是れ中等費多くして祿少きは是れ下等其
 中中等下等之諸藩十ニ八九有之候處近來に至り臨時之費用昔年よりハ
 倍増いたし祿費不相應より年々借財而已倍増し及ひ所有銀主を借り尽
 させられ遂に借財之術無きに至り難凌困究に被爲及候國柄も不少處に
 向け攘夷と申すに相成り赤馬關と鳴門口と浦賀口との三都之通商船尙
 其外各國に之通商船往來悉止り候る國々之産物も賣捌き出來兼候ハ、
 立處に金錢融通相塞り其上連年之戰爭に及ひ物入り之上に物入相重サ
 なり貧乏之上に貧乏に相成り遂に困究難凌處より外夷之國富強兵成ル

こ心を寄せ彼れに救われん事を欲し臨時に野心を起し外夷に内應いさ
 し却る反を謀る人も有間鋪とハ被申間鋪譬ハ舊家杯より平日無事之時
 ハ今成り之新金持を毀りて成り揚がりものヤヤ下臘杯と貶斥いたし候
 へ共己が節季之難凌處より且那樣ヤヤ杯と諂媚いさし頭を下ゲ手を降
 して御髭之塵を取ル如く治平無事之節にハ禽獸國杯と彼外夷を貶斥い
 さし候へ共己が苦しき困究之餘りより有間敷野心を俄に可生人も是れ
 ある間鋪とハ難被申候 次は兵究とハそれ大藩武勇之國柄ハ連年之戰
 爭相支候る可被爲凌候へ共小藩微祿之手薄き國柄ハ彼八ヶ國之外夷之
 大敵を相手いさし連年之戰爭に被爲及候ハ、遂に兵疲れ力尽き候處
 より野心臨時に起り彼敵中の身を投し彼に救われん事を求めんと欲せ
 る事譬ハ究鳥獵師之懷に投入するが如くならんも亦量りがたし
 二こハ己が怨讎を挟む處より外夷に内應いたし反を謀ル我 國之傾覆
 を企及ぶるも難量其子細ハ或ハ 公府に怨あり或ハ各藩之内に怨あ

りて己れ微力よして其怨を報ふ術無き處より攘夷を幸といふし彼外夷
 の内應いたし外夷之手を借て其怨を報ん事を欲する人もあるをし此よ
 附或人之申され候よハ兄弟鬩牆外禦其侮と申聖誠も有之候へハ何様之
 怨讎あるよせよ我 國を棄て、外夷に與ミしものハ萬一有間敷と成ル
 程私を去り當然之理を以ていも、然ルを去カ、ル澆薄之末世と相
 成り候得ハ必しも聖代之如く理を守る人而已ニハ限る間敷既よ今日之
 處を見聞いふし候へも萬よして九千九百九十九迄ハ大体私曲之方引
 落さるゝ事是れあり扱それ私曲之ためよハ目も暗ミ心曲ミて父を憎ミ
 他を愛する類例さへも目前よ餘多有之習ひ候得て一概よ左様之人な
 しとも申され間敷たとひ又無き事たりとも用心よ仕損じハ無き故攘夷
 杯と申容易不成 國家興發も拘る程之大事ニハ重々よ事を設用心之
 上よ用心被爲致度と奉存上候
 三ニハ己ガ希望よ由て外夷に内應いふし候ものあらんも亦難量其子細

そそれ攘夷以前ニハ何處々々迄も外夷を拒絶可仕約束よて 王位を希
 ひ 將軍職を欲し諸侯を望む人ハ有間敷候へ共八ヶ國之外夷を相手と
 いふし連年之戦争よ相成候ハ、國風も屢變化し人心も種々よ轉變いふ
 し種々之怨讎 皇國同志互ニ相起り候處より臨時之希望を横起し王位
 を希ひ 將軍職を望ミ封侯を欲し其志を遂んがためよ外夷に内應いた
 し外夷之手を借て己ガ志を達せんと欲するものも是れあらんも量り難
 しそれ人之希望ハ千差萬別よして際限無きものよ候得て億千萬之人之
 中ニハ此希望有間敷とハ被申間敷候既よ戰國ニハ匹夫之秀吉さへも關
 白職迄望まれし例しあれハ攘夷よ相成候ハ、此憂無之様預備被爲成度
 條肝要ニ奉存上候それ戦争ハ人心和せされは忽瓦解す人心一和する時
 ハ百千之鉄城を築よりも尙要害たるべし是れ孟子よ天時不如地利地利
 不如人和といふ所以なり

第七因兵生兵有無如何

兵ハ勇銳之最烈しきもの、候得も至るへき處迄至らざれば倦ミ疲れて治る之場、至らず喻ハ矢を空ニ向て射ル時、其勢あらん限りハ空を指して上り勢究りて而後力尽て地ニ向て墜ルゾ如し因る一度兵端を開リハ人氣立候故たとひ攘夷ハ首尾能く仕遂オホせよ相成候とも連年之戰爭中ニハ如何様之國內同士之怨讎ニ及び内争引起さんも難量知事故此等之憂ウレヒ無之様御手厚預策略被爲建立度事と奉存上候

上來之件々外夷之事を評論いさして却る攘夷拒絶之思召立を相拒申上候様ニ候得共毛頭も左様之存意にてハ無之戰爭ハそれ 國家至重之大事ニ候得ぞ容易ニ企及せられ候事、非ず一進百退千退して深思惟を被爲成敵兵を強く見我兵を弱く見て総る侮る心を去りて事を可被爲謀も一策ニ候哉侮ものハ亡ウひ易けれハ諺ワも用心ニ國不亡と申せハ兎角用心するニ仕損じハ有之間敷それ戰爭ハ敵と味方との兵之強弱を較

を量らずして猥ウとするハ是れ愚なり敵兵強く我兵弱くして其勢難支と知乍ら是れニ臨むハ是れ暴なり必勝を知て敵ニ臨むハ是れ智なり此三事ニ於てハ勿論無疎漏研究被爲尽候之事とハ奉存上候乍去事ハ破るハ最易けれとも治る事ハ甚以難し然ニ二百五拾餘年之御治世にて六十餘州一統し婦人小童之如き綿力之ものと雖夜半ニ行も山路を行も手一中るものも無くして畏れ氣無く往來いたされる事迄皆カ、ル難有御代なれば仰冀くハ一点之疵もこの 御代ニ不被爲附様と奉存上候若それ一度兵端を猥ウ開き候ハ、前ニ舉る處之七件之次第ニて其末如何様成行候る最早再度カ、ル難有 御代ニ奉遇事も難計因る交易仮御條約年限相濟候處にて以前通り長崎一ヶ處にて今之八ヶ國ハ交易御約束ニ相成り交易之時を何時被爲定交易之品を限數被爲定相對交易御停止ニ相成候る官商ニ被爲成度萬一左様相成候節外夷不承知申出候とも彼外夷も自オハ仁義國と稱し候へと論談ワ及ひ理服爲致可申策ハ如何様とも可

有之奉存上候乍去たとひ長崎一ヶ處と相成申事ニ相成候とも攘夷之御手當ハ益嚴重ニ御手厚被爲成度萬國何れ之國と雖當時ニてハ海防之備手厚不致處ハ無之候へたとひ通商ニて暫時事治り候とても決る怠慢被爲成候るも難相成孟子ニ無敵國外患者國恒亡といへるハ此謂れなり若又長崎一ヶ處たりとも新交易之外患ハ打攘ふと被爲申候ハ、乍恐此ハ不宜儀歟と奉存上候彼様之時勢ニ成行候る外患入込ミ來り候儀ハたとへば人身中ニ瘤之出來候様之ものニ候其儘差置候へハ邪魔ニ相成り截て之を除れハ命ニ拘り候故唯太らざる様ニ補ふより外ニ仕様無之歟と奉同上候依之長崎一ヶ處ニ於て交易ニ相成候様御約定ニ相成候ハ、其新商之外夷丈ハ交易無キ以前と思召通商之稅利を總合して三割とし其二を以不要害之海岸防禦之御手當ニ被爲成強國之策を被爲設置候條可然哉ニ奉存上候扱其強國之策被爲整候上ハ外夷共乙名敷崎陽一ヶ處之交易を甘んじ候ハ、其儘被爲指置度自然國害ヨも相成候様之御難題

事強盛申出候節ハ無是非直ニ攘夷可被爲成候時ニ近來ハ殊之外外夷跋扈いとし御殿山杯を拜借廣大なる作事等相營借屋を借りて本家を襲んと欲する之恐れ有之候事ハ國民一帯之憂ひニ候處被惱 宸襟攘夷之儀を被爲 思召立候處より先兵庫開港 御見合ニ相成それ開港之中ヨも兵庫ハ殊ニ 帝畿御近海ヨて不要害之儀を慨歎仕居候處此度交易被爲指留候儀ハ萬民一同如何計り歟難有奉恐悅候 右攘夷御一舉ニ附乍恐 公府之御手許を奉同上候得ハ行クハ攘夷之 思召ハ勿論ニ候得共今暫之處御猶豫被爲成候儀ハ外方より上表計り奉脉候へハ攘夷御拒被爲成候様ニ被伺候へ共當時彼様ニ不相成以前之御先役ハ兎も角も 叡慮深被爲 思召立候る尙其上薩長土之三藩京都御出張被爲成容易不成 國家之傾覆之危と萬民塗炭之苦とを御心配被下候折柄ニ候得も努力餘所見被爲成候儀ニてハ被爲在間鋪候へ共定る前件ニ列書いとし候七ヶ條之次第等之稜尙其外ニも無御餘儀も意味

杯之御心配筋御座候る暫く御猶豫可被爲成哉。奉伺上候それ天地間之有形物無形物一として剛と柔との二を離るゝことなし剛柔ハ是れ周易に在てハ即陰陽之異目よて人ハ在てハ男ハ剛なり女ハ柔なり天ハ在てハ日ハ剛なり月ハ柔なり晝夜にてハ晝ハ剛なり夜ハ柔なり天地よてハ天ハ剛なり地ハ柔なり事々皆如此剛柔之ニ相備りてこの二ハ暫くも不可相離若それ剛を離れたる柔柔を離れたる剛ハ過剛過柔よして中道を不得ものなれハ二俱よ事を破れりたとへハ男獨りにてハ家を不治女獨りよてハ不産子必男女相寄りて而して後家を治め子を産ミ又唯晝而已ありてハ物を枯涸する而已唯夜而已ありてハ物を腐爛する而已晝夜相寄りて萬物を生育するが如し是れ易之繫辭傳に剛柔者晝夜之象也と曰ひ又剛柔者立本者也と曰へる所以歟と奉存上候今度京都よ於て攘夷之儀を被爲唱候ものハ是れ剛なり關東よ於て御猶豫被爲成候儀ハ是れ柔なり然よ 京都之剛ハ 關東之柔を被爲運入 關東之柔ハ 京都之剛

を被爲運込候へハ 關東之柔ハ唯獨り柔なる而已に非ず其剛よ推されて剛を離れざるの柔なれハ剛中道之柔なり又 京都之剛ハ 關東之柔よ推されて柔を離れざる之剛なれハ則中道之剛なり由て 御双方之剛柔相寄りて 國家永運之機會維持被爲成候事人力をして此域よ至らしめ給ふよは非ず是れ全く 皇國鎮護之神力之令然給ふ所ならん歟と存上奉祝萬歲候尙更よ此頃之形勢を操返し思想仕候處萬々一長崎一ヶ處にて通商仕様よ御斷切に相成候事と雖容易不成御難事ニ候外夷通商願立候儀も一朝一夕之思立よ非ず幾拾年之久を経て此場よ至り尙其上當度通商願立之初發より夥敷費却相立重々手數相運ひ骨折いさし候事ニ候へハ今更長崎一ヶ處と申御斷切りよ相成り候得ハ連一往哉二往よてハ容易ニ承知も致間敷哉よ奉伺上候然ル上ハたとひ長崎一ヶ處と申御斷切之御評定に相成り候とも 叙慮より被爲 仰出候通り攘夷之策ハ尙愈御手堅く不被爲成候るハ難相成哉よ奉伺上候其子細ハ萬一罷り違

ひ再往再々往之御應對にて不承知可申出儀も難量候故其節ニハ不得止御打攘ひ被爲成候程之御用意無之候事と彼外夷に御斷申入被成候御腰弱く被爲在候間尙攘夷御手當ハ嚴重ニ被爲成度事と奉存上候夫ニ附乍恐 御意得之次第有之哉ニ被奉伺上候其子細ハ攘夷を先として約商五ヶ處之開港を長崎一ヶ處ニ約むる事之策を被爲設候事、其勢自然ニ破る、近し又約商を先として攘夷を被爲謀候ハ、事々皆治ナルニ向ふ事之前後ニ依て大ニ治乱之界ひを分てハ此機會を不被爲失様ニ策を被爲立候事能々肝要歟と奉存上候尙又自然御約商にて暫之處攘夷御延滞被爲成候ハ、外夷より交易願立之初年より莫大之費用相立候へハ其入費金不被爲償候事御斷之申立も難被爲成彼外夷も亦償ひ金御辨へ無之候事承知仕間敷因る長崎一ヶ處と申御斷切りニ相成候事ニ成行候ハ、先償ひ金之御手當被爲成候事第一歟と奉存上候右ニ附言上可仕稜數々御座候へ共紙筆ニ難盡候 國家之安危を奉恐察候餘り忘非分愚意所存之稜々錄紙表建

白仕候恐惶恐惶死罪死罪謹上

文久二戌十月

鈴木大雜集三十七

七百五十二

鈴木大雜集

卅八

海防奉策

嘉永癸丑
鈴木大

共八册

海防策

安井息軒

巨盜環而窺便爲主翁者以其未敢入也恬然以爲無虞緩其關局忽其垣墉使僮僕酣歌嬉敖以廢行夜之警有不爲盜所乘者乎于嗟是今日邊徼之形也夫西虜之爲巨盜四海之內人々知之四五年來出沒近海時收息乞薪水而去其其爲窺便抑亦明矣而邊海諸侯所以待之不過粗設礮臺修兵械以應上令彼所以爲戰我所以制勝則茫然未有以講之是豈以外寇爲不足虞哉蓋昇平之久姑息爲俗日復一日先從事於其所爲急而事又涉危疑不能無所顧慮左右觀望不敢爲人所不爲其意謂與其靡財力搖人心待不必來之虜以招議者之曰不若待其寇一方而後徐爲之備之名實兩全也此今日所謂良策而有識者之所以憂戚而不能寐也夫事有可以預者焉有不可預者焉朝聘饗食與有恒規臨時探問如今日邸吏所爲或亦可以辨事矣至戰鬪之事其疾如雷勝敗之機決於呼吸而日姑待其寇一方而徐爲之備是以治國之末弊應黠虜之姦謀也且我之爲國長殆千里自我言之固有東西之別故其備西虜獨慎於鎮西然

是我所見耳蓋西虜之於海視猶平地而其便則什佰於平地御長風駕巨濤一踔千里以周大地甚者逆而行其於我東西何擇則瀕海之地四方皆邊也若使虜知我無備之地而襲之如其於清國能保其不敗乎不幸一敗士氣既餒而賊勢益張天下殆將騷然欲徐爲之備我恐其無及也然此猶可矣鄙人有子病而患其死者親姻來看者言疾危則怒言輕則喜人恐其怒也心知其危而口不敢言於是群然同辭爭言其輕鄙人雖疑而且喜減其醫藥忽其看護其子既死而猶親其言疾輕者矣敢不知而忽之知則慎之矣知而輕之猶有可諫之道天下之患未有大於心知其危而口諱言之者今日諸夏之形不幸有類於此者可不爲長太息乎然則如何亦在使諸侯一心敵愾而無疑懼耳夫盜雖虐焉其本不過貪財々々者無他將以供身欲則其貪生必甚於貪財使其知盜焉而必死必不敢爲之然且冒死爲之者以自見有不死之道耳故關局旣固守望旣周使我無可乘之隙盜之環而窺便者必將逃於千里之外安敢曠日彌月耗力於無用之事以蹈必死之地哉是非主翁一振其氣之效耶故口諱言其危則親戚不能爲

之計而足以致子死決意於守望則僮僕皆展其力而可以卻賊於千里之外其是非得失不得煩言而後知之矣且事固有轉禍以爲福者焉海內至治之澤莫盛於今日上下安然人不見可懼之事夫安生逸々生奢々生驕々生惰驕惰之國兵必弱比年來風俗漸趨奢侈體便而語巧者往々貴於士君子之間而里閭之民惟利之視無復忠信義烈之行苟有之群起而笑之以爲迂不通於時如此而不止數十年之後或將生驕惰之風矣驕惰旣成爲上者益尊爲下者益卑百弊交於前焉而不見群怨伏於下焉而不知豪傑之民竊議於草澤之間而嚴然臨之以其所特區々之威而不知彼視以爲一偶人也往古之亂常由此而起矣今也奢侈將生而天遽警之以西虜海內之民悚然知所懼矣因其懼也昭然布告於天下曰西虜必不可不備而戰守之術必不可不講列國諸侯與土地同其存亡不得使羶虜穢我一塊土虐一究民矣諸侯聞之令也必將益親其臣民而講明武備焉士大夫聞是令也將斥華服繕兵械以磨厲氣節焉庶民間是令也將勤業節用以補軍興所待焉一令旣布天下凜然矣故賊來固足以卻之不來

亦足以移奢侈之風而長治平之澤是之謂轉禍以爲福矣此戰守之本也

海防策二

戰士田也器械種也進退奇正耕耘之術也三者既具然後戰可得而言矣今我所恃以輕虜者獨非戰士之精耶夫戰士既爲二者之本是誠可恃也然今之所恃恐非所恃也在昔平氏之誅諸源也戰士嘗精矣奢侈驕惰二十餘年及源右府起于東其兵既不可用駿河之役齋藤實盛說東人勁弓巨鏃聽者皆失色怯氣所襲至驚翻聲而敗走矣今日昇平之久十倍平氏而黠虜大煩神賊不特勁弓巨鏃參伍而考之未見其可恃也方今海內以國稱者二百六十有五通大小而計之一國之兵不下二千五百則諸侯所養固已六十六萬餘人旗下貔貅之士不與焉增之以游倅鄉勇兵非不足也獨憂此六十六萬之士生長於深仁渥澤之中衣求其美食求其甘起臥動止求其安佚稟祿之入不足以自給則日夜之所奔走莫非求以適其欲焉於是乎渥強勇敢之氣變爲輕巧圓熟之俗而我猶待之以慶元敢死之士是猶秋於舊田而不知其變爲滄海也故今日之計莫

先於厲士氣今夫山野之民朴而淳愚慧而不詐其材不足用也然盜賊發於中執挺而起有殺其身而不顧者焉而市人則反之何則淳朴愚慧之氣其發必動然則厲士氣之術亦在彫琢反朴耳且我祖宗之於士也重其稟祿厚其禮數養之以廉耻而不敢以細故撓其勇往之氣淬鍛磨厲淪其骨髓今俗雖衰焉忠信義勇之風固非外蕃驅逐之卒所能及也若又去其弊使其衣食之欲不誘於外而巧利之心不動於內奮發激昂爭聘於忠義之途夫人死職之思必油然而生矣然是獨能鼓其氣而已未及鍊其力乳貓之奮其氣能走犬而不能與之持久者其力固不敵也故徒氣者不足以制勝焉今刀槍雖演而其技則局於花法騎者雖習而其術則專於觀美而肌膚脆弱不足以禦寒暑露宿一夕則感冒而頓矣以此就我乳貓之敵犬也一間耳則亦不可不預爲之所也故巨躍以健其足健力投石以鍛其體武技之演捨其名而專責其實然後教之坐作進退之節目與旌旗熟耳與金鼓貫萬卒一心以致其果是膏油之田而又尽其土化之術也如此而後始可望其效耳今也不識其弊不效其實以百戰陷登之功望於驕惰優游

之士南面號其下曰我有百萬貔貅之銳虜何能爲嗚呼此黠虜之所以覬覦不止而持舞於杳冥之際也

同三

攻守一也進可以攻而後退可以全其守矣兩刃相擊非有利鈍而見擊者必缺何則擊者進而見擊者自守也故善守國者必畜進戰機使攻者警懼疑惑謀自救之不遑故兵鋒不頓而常立於萬國之上矣策士之言曰虜巧於用海而拙於用陸我且不與之爭於海扼之沮以困其前陷之隘以斷其後晝則有伏覆之便夜則有掩襲之利多方以誤之我各自戰其國而賊動未曾經之地糧運不斷救援不便敗之易々耳是知守之爲守而未知守之非攻不可得而全源平而來涉而戰者三涉者常勝矣蓋涉者期於必死既濟其氣益旺而我方恃川以阻而川則既濟矣則獨有奔敗以避其鋒耳今虜航於大洋戰於万里之外勝敗所係特海岸尺寸之間而已則必將出死力以爭之爭而得之必築城列營與艦相連以固其根不敢深入以控其鋒既而來者益衆漸以付其境則多方以誤之者或將爲彼取用矣然爲是策者蓋亦有說矣虜艦如山其堅如鍊而我舟則至小脆今聚小

而仰之不特頓兵於堅城之下我士雖精而獨如彼何哉管子曰器械取以助戰而器械無敵於天下夫器械者霸者之所以求無敵於天下也則欲制全勝之形者器亦不可不修也故守國之策其要在海々戰之術其功在艦用船之道有二焉裡海利於小船外洋非巨艦不能全其勝矣夫裡海波活而多礁不便巨艦今我更造我船其大可發巨礮而堅足以禦烏銃槍刀十夫左右礮兵如此者數百千隻賊舶之來星布而彈之其艦既大發無虛丸而我船進退如飛廣又不過尋丈之間虜礮雖巧焉發不能命中是我有餘暇而賊困於自救也然後槍刀亂砍以我所長攻彼所短百戰百勝之術將於是乎在焉然是特可用之裡海已至外洋一碧万里巨浪掠天小船掀翻如葉飄風圍之不能合追之不能及而賊且列大礮而連擊之是取敗之道也且夫海鬪者非陸戰之比也無林麓沮澤之以伏我兵無山川丘阜之以過賊衝坦洞達前後咸露我左則賊左我右則賊右機變之策不能行於其間所恃獨大艦而已或曰王者之於虜驅出諸境則止不必究追以贖我武也巨艦何爲此特可以論首夷耳今也踰万里以盜人國其欲大而

謀深固非小衎所能懲也且我地東西千里若使蔽海而來擇地而上諸侯之力或不能以制之則必將使鄰邦相救援而小船未可以輒往陸行又有兼、之程則我事去矣即不至於此泊數艦於近洋要運船而擊之海內億兆之坐而受其困矣故曰欲制全勝之形器亦不可不修也

存附之儀申上候書附

江川太郎左衛門

凡當今世人の情態を相察るゝ外寇を懼るゝ者甚敷懼れ不懼者ハ又甚懼れ不申何れも我と彼と精く承知不仕候故之儀よて一体短兵ハ我國の長せる所器械と理を究るハ彼り長る所ニ御座候太平二百餘年武備相弛戰爭の議論も私見よ出外夷防禦ハ炮術而已ニて足らぬ様心得候向も有之西洋人ハ候とも手詰之所ハ短兵ニ相成候儀ニて増る我長る所用立度ハ候得共炮術精密ニ無之候てハ何分其場合ニ取付候事難出來篤と勘考仕

此行誤アラシ

候處我國之短と仕候所三ツ有之第一ニハ炮術第二ニハ船艦第三ニハ城制此三ツ之者を修備仕候得ニ實ニ地球中無類之強國之趣ニ相聞萬國彌御國威ニ敬伏可仕奉存候間右之次第左ニ奉申上候

一昇平之久敷無用之技藝も出來候中ニハ炮術流義も數多相成銘々門戸を立夫々議論も多可有之候得共何れも火繩を用る事ハ免れ不申凡火繩之義ハ風雨雪中甚指支且火はこり等よて俄之大害をも生し誠ニ不便なる上ニ可懼者ニ御座候其餘大筒類も無益之肉を付運送態と手重く仕候而已ならぬホーロク矢ホーロク杯甚手弱之者ニして中々以てフランドコーゲル、グルーイエン、テコーゲル、ホウルンコーゲル、ホムベンガラナート等の業向ニハ逆も比較仕候よも堅實の物を打しよハ玉目甚小ク人を打候よハ八九よて事足り申候是もドライバス、シユツヘル、ハイリ杯之様仕候得ハ利用も候得共前書之次第ハ皆花法ニ御座候然る處西洋よてハ國力を尽し夫々研究仕彼國之發明是國之便利を參考實地試候事ニ付追々新

規之儀も出來仕候扱彼火繩筒相止燧筒ニ相成候ハ久き事之處今ハドン
ドルの便利なるを發明致し既ニ先般入津之イギリス船杯も大筒ニ候ヘ
ども一切火繩ハ用ヒ不申候右之通ニ御座候間事ニ臨ミ懲候て初て心付
候様ニてハ何共可申上様も無之儀ニ付炮術も一洗御座候事誠ニ當時御
急務と奉存候

但野戰ニ用候筒類ハ格別臺場筒船打筒ハセヅク之方可然奉存候

一船艦之儀ハ譬異船共此方矢懸之程を考縦船懸致居候共如何共致方無之
防戰度存候得ハ船を寄せ左も無之候得ハ勝手次第ニ乘廻候戰之權彼
在て殊ニ纒之船ニ最寄沿海ハ不殘用心不仕候ハ不相成様罷成候ハ
元我ニ形有て彼ニ形なき故ニ御座候間是非堅實之御軍船無之候も不
相成儀御座候扱船之儀ニ武家諸法度之趣御座候得共 公儀御軍艦ニて
可然御役人乗組候ハ、敢る御趣意之儀も有之間敷且一ケ年御廻米難波^{破力}
船國中ニてハ大造之事ニ可有之候間平常ニ御廻米右船之力を以運送致

候ハ、自然船中働きも熟し御米も無滞相廻り両全之儀ニ奉存候

一城制之儀ハ異船渡來ニ付諸家人數等差出其郡度々々諸雜費相懸り甚迷
惑可仕且ッ際限も無之儀其上異國人共戰不心得ニて上陸仕支へ候者も
無之候得も大小筒打方其外便利之爲速ニ堡様之物築へし一体日本國中
御譜代大名被差置いづれも要地ニ適當仕誠ニ以奉恐入候儀ニ奉存候尤
其比ハ異國懸念も無之處今ハ海岸專一之場合ニ相成候上ニ右之振合ニ
準し十萬石以上之大名要地々々ニハ居城を構勿論海岸ニハ可然所ニ臺
場を築防禦第一ニ仕候得ハ御國体も相立可申候扱自國之戰ハ散地ニ付
其志を一ニ可仕事肝要ニ御座候右様仕候も前條之通ニ相成候得ハ他
顧之念も絶其上人數も自然と多く武器運送之費も無之萬一之節我領分
を我防候儀ニて無據人力を盡し候次第ニ相成兵法ニ兵士陷候へハ不懼
已事を得されハ戰と申場合ニ相成可申候左様ニ無之其場所付纒之領分而
已ニて出張相成居候得ハ異國防禦ニ心を用候よりハ躰能其懸り御免相成

候事ニ心を用候様成行可申候尤當今右様之向も有之間敷候得共凡太平
 遊惰之人情ハ先ハ左様成もの之様ニ御座候且要地城築之儀一時ハ餘程
 御手重之至ニ候得共後ニハ萬端御都合宜敷可相成奉存候順て御城制之
 儀是迄之通ニテハ十分ニ打拂候事難致何より放發仕候彈類も尽く斜場
 一^ハ強^ク飛激仕候事も無之候間大小筒之働甚差支且敵方ハ放懸候彈類
 一^ハ石垣打被崩其上家作ニ火移り易甚以不便利至極ニ御座候扱西洋ニテ
 ハ昔ハ當方同様石垣ニテ築立候處大筒相開ケ候より石^ノ難支候付石
 垣之上ニ土を懸候得共夫も被打崩忽石面之彈を受崩壞仕候而已なら
 石片飛散ニテ人數杯を打候間幾多之精神を凝し當今制ニ相成事ニテ其
 形狀ハ五六稜或ハ七八稜等^ニ形^ノ體も有之候處コルモルアインケチト申
 人之法ニ隨ひ八稜ニ築立其七面ハ容易ニ難寄付只一面而已敵を受候間
 至要之器械大炮無之候^ルと攻撃仕候儀難出來右要害具凡積り左ニ認
 申候

- 十八ホント長銅製カノン 八挺
- 十二ホント同 十六挺
- 二十四ホント長鉄製カノン 八挺
- 十八ホント同 八挺
- 十二ホント同 十二挺
- 十二ホント短銅製カノン 四挺
- 六ホント同 十六挺
- 二十九ホントモルチール 十二挺
- 二十トイムモルチール 十二挺
- ク^ラーホ^ール^ンモ^ルチ^ール 十六挺
- 三十九トイム又^テー^ンモ^ルチ^ール 四挺
- 三十九トイムコ^ーケ^ルモ^ルチ^ール 二挺
- 二十トイムホウウイ^ツル 十挺

十五トイム短ホウウイッル
十五トイム長ホウウイッル

六挺
四挺

ノ十炮百三十四挺

二十四ホントブリツケントース

二百四十

十八ホレト同

四百八十

十二ホント同

二千五百

二十六ホント同

千四百四十

二十トイムホウウイッル同

百五十

十五トイム短ホウウイッル同

九十

十五トイムホウウイッル同

百九十六

二十九トイム同

八千

十三トイム同

四千

二十四ホント實彈

六千

十八ホント同

一万二千

十二ホント同

二万八千

六ホント同

一万六千

十二ホント同

二十二挺

六ホント鉄製カノン攻圍四木車

二十

二十ホイムホウウイッル同

十九挺

十五トイム短ホウウイッル同

九挺

十二ホントカノン野戰架車

九挺

六ホントカノン同

十九挺

十五ホント長ホウウイッル同

六挺

十五トイム長ホウウイッル同

六挺

三十九トイムステンモルチール臺

五挺

二十九トイムモルチール臺

十二挺

鈴木大雜集三十八

二十トイム同

七百六十八

攻圍ノホールワーゲン

十五挺

十二ホント野戰筒屬

十六挺

六ホント同

九挺

十五トイム長ホウウイッル屬スル同

三十一挺

城用架車屬スルタラウンス

十一挺

ホルホラーム

六挺

十二ホントカーワウンカフトルワーゲン

四

六ホント同

十二

二十四ホント虚彈

二十

ローケルモルチールニ用ル右法ノ彈

千四百五十

二十九トイムフランドコウケル

百

二十九トイムソートローケル

千六百

二十トイム同

二千

十五トイム同

千六百

十五トイム同

千

十三トイム同

千六百

スピケルフラナーテン

二百五十

ハントカラナーテン

二百

十二ホントヲツブウロツテ

千六百

六ホント同

六千四百

十五トイム長ホウウイッル

六千百

填クルカフチトテン

六六炮彈類十一万二千九十六

二十四ホント筒ノ城用車臺

十一挺

十八ホント同

十一挺

鈴木大雜集三十八

七百六十九

十二ホント

十八ホント銅製カノン攻圍架車

十五トイムホウウイツル同

ツノンワーケン

モルチフルワーケン

ヨーケルワーケン

大チリツケバル

小同

ハンホワーケン

ラツテンワーケン

コルレヤンスワーケン

スミツツワーケン

タテンスホルワーケン

十六挺

十六挺

十六挺

四

八

三

六

八

八

二十

四

二

八

シトケンワーケン

アールトウイレト

大ホツケン

小ホツケン

ホナルラートワーケン

カ、フスタントル

大カナーベン

小カナーベン

大筒火薬桶

小筒火薬桶

メールヒユル桶

長サ五エル六ノ東柴

長サ二エルノ同

鈴木大雜集三十八

二

二十四

三

四

四

四

二

二

六千四百

八千

二

三千七百五十

一万二千